

芹ヶ谷公園再整備基本計画



芸術の杜で、
触れて学んで!



2016 (平成 28) 年 3 月
町田市

目次

1. 計画の前提	1
(1) 計画の背景と目的	1
(2) 計画対象範囲	1
(3) 芹ヶ谷公園の概況	2
2. 計画条件の把握と整理	7
(1) 計画対象地及びその周辺の状況	7
(2) 上位関連計画等	13
(3) 芹ヶ谷公園の利用概況	17
(4) 関連施設の利用状況	20
3. 計画の課題	22
(1) 中心市街地との関連性からみた課題	22
(2) 植栽の配置に関する課題	24
(3) 新しい楽しみ方の創出のための課題	25
(4) アクセス性の向上	26
(5) 防犯、防災機能の充実	27
(6) 公園予定地の活用	27
4. 整備方針の設定	28
5. 再整備基本計画	31
(1) ゾーニング計画	31
(2) アクセス・動線計画	33
(3) 導入施設の検討	39
(4) 利用圏域・公園利用者数・利用者層の設定と施設規模の検討	40
(5) 利用者の行動形態分析	50
(6) 環境保全と管理に関する検討と設定	66
(7) 再整備基本計画図	76
(8) 整備水準・概算工事費	77
(9) 鳥瞰図	87
6. 維持管理方法の検討と設定	88
7. 参考資料	90
(1) 芹ヶ谷公園再整備基本計画の構成	90
(2) 芹ヶ谷公園再整備基本計画懇談会委員名簿	91
(3) 市民意見の概要	92
(4) 彫刻作家のプロフィール	94

1. 計画の前提

(1) 計画の背景と目的

芹ヶ谷公園は、JR 横浜線及び小田急線の町田駅から北東へ約 700m と中心市街地に近接した供用面積約 11.4ha の風致公園である。周辺には住宅地、学校などがあり、多くの市民に親しまれている公園である。

計画対象地に近接した高ヶ坂地区には、丘陵地における住居跡発見の第一号として 1926 年（大正 15 年）に国の史跡に指定された高ヶ坂石器時代遺跡（縄文式時代の集落跡）がある。

公園内には 1987 年 4 月に開館した町田市立国際版画美術館を有している。2014 年 6 月に策定した「(仮称) 町田市立国際工芸美術館整備基本計画」では、同美術館を芹ヶ谷公園内に建設することを予定した。これにより芹ヶ谷公園は、町田駅周辺の文化施設などとともに、芸術の薫りがあふれる文化芸術を発信する場「芸術の杜」を目指すことにした。

芹ヶ谷公園芸術の杜は、四季を通して花、風景、回遊を楽しめる魅力ある町田薬師池公園四季彩の杜、自然の中で楽しむ総合スポーツパーク野津田公園スポーツの森とともに、本市の中核的な公園として機能していくことが期待されている。

また、町田荘跡地の活用、芹ヶ谷公園に隣接する都営住宅跡地（以下、都営跡地）の活用、公園供用開始後年月を経たトイレや管理棟など老朽化した施設の改善、防災及び防犯機能の充実が求められている。一方、町田市は多摩都市モノレール延伸に伴う公園用地の活用を想定しており、さらに中心市街地を取り巻く状況が様々に変化を続けている状況がある。

本計画は、このような状況を踏まえた上で、魅力あるまちづくりの一環として中心市街地の活性化とともに芹ヶ谷公園の新たな賑わいづくりを目指すものである。

(2) 計画対象範囲

本計画の対象範囲は、芹ヶ谷公園を都市計画決定した区域に加え、都営跡地を含む、計 15.6ha を計画対象範囲とする。

■ 計画対象範囲



(3) 芹ヶ谷公園の概況

①公園の位置

芹ヶ谷公園は、町田市原町田 5 丁目にあつて、町田駅から北東へ約 700m、徒歩圏内の距離である。市街地のシンボリックな公園として存在している。

芹ヶ谷公園は、恩田川へ注ぐ支流の浸食により形成された谷戸の一つで、谷戸地形がそのまま残されて現在に至っている。公園周辺は、住宅や学校などが立ち並んでいる。

人の往来が多く、交通量の多い町田街道に近い場所にある一方で、街の喧騒を感じない、静かで落ち着いた空間を形成しているのは、谷戸に立地した本公園の大きな特色である。

■公園の位置



②公園の変遷及び位置づけ

【変遷】

芹ヶ谷公園の変遷は以下の表のとおりである。

■芹ヶ谷公園の変遷

年月日	事項	面積 (約、ha)	備考
1961年10月5日	都市計画決定	10.0	地区公園として都市計画決定
1982年1月21日	〃	11.7	特殊公園(風致公園)に種別変更、区域変更及び区域面積の追加
1982年4月1日	供用	4.0	西側エリアのみ約4haが開園
1991年9月7日	〃	11.0	東側エリア約7haを加え、計11haに拡大
1994年2月7日	都市計画決定	12.6	町田荘他が計画決定
1996年4月8日	〃	13.0	ひだまり荘周辺区域を計画決定
2001年6月14日	供用	11.4	ひだまり荘周辺の一部を含み、区域拡大

【位置づけ】

芹ヶ谷公園は、風致公園として区分され、中心市街地には貴重な、まとまった樹林、湧水と一体となった緑と水の織りなす豊かな自然を活かした公園として、散策などを中心に市民の憩いの場となっている。

1987年4月町田市立国際版画美術館が開館し、美術館と一体となった芹ヶ谷公園は、園内に芸術作品（オブジェ）を展示し、アートを楽しめる公園として市民に親しまれるようになった。

現在は、町田時代祭りや町田さくらまつりなどのイベントに市内外から多くの来園者が訪れ、多様な文化芸術を感じている。

さらに2010年度、有識者による「町田市の博物館等のあり方検討委員会」において、町田市立博物館の工芸美術部門は、芹ヶ谷公園内にある町田市立国際版画美術館とともに美術ゾーンを形成して、文化芸術振興に寄与すべきと結論づけられた。

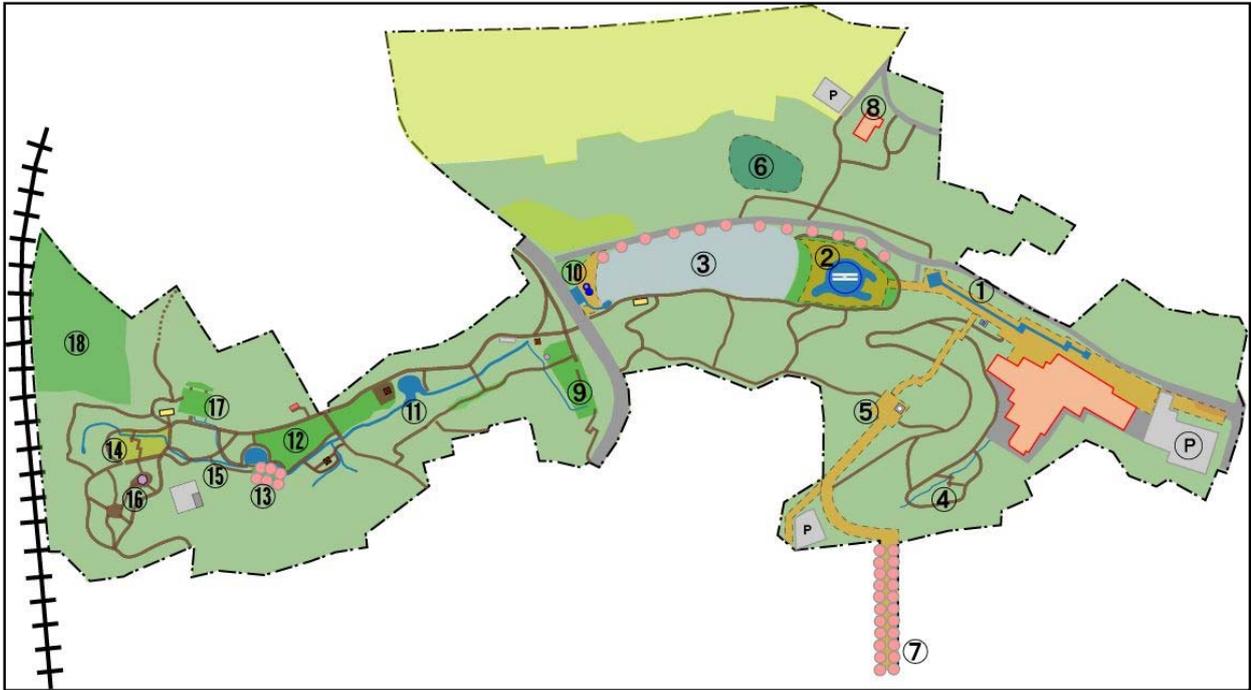
③公園の主要施設

公園の主要施設は以下のとおりである。(図、写真は次頁)

■芹ヶ谷公園の主な施設

番号	施設の名称等	施設の概要
①	せせらぎ(町田市立国際版画美術館前)	町田市立国際版画美術館正面の舗装された園路と一体となったシンボリックな水路で美術館前の空間に潤いを与えている。
②	虹と水の広場	町田市民で国際的に活躍した彫刻家飯田善國作「彫刻噴水・シーソー」があり、多くの家族連れが訪れている。
③	多目的広場	谷地で斜面地を多く含む園内で、運動やスポーツ、凧揚げなど自由に遊べる広場で、町田さくらまつり、町田時代祭り(流鏝馬)などイベントにも利用されている。
④	日本庭園(町田市立国際版画美術館裏)	町田市立国際版画美術館裏手の緩やかな斜面樹林地に、日本庭園風回遊園路と流れで構成された園地で、緑豊かな空間である。
⑤	森の丘	斜面地上から園内を展望し、休憩できる小広場。園路の分岐点にもなっており、園内案内をするのに適した場所にある。井上武吉作「my sky hole 88-4」があり、印象的なアート空間でもある。
⑥	冒険遊び場 (2014年9月開設)	樹林地の中で自然の地形や植物などと親しみながら遊べる場所。NPOやボランティアなど大人の指導や見守りの中で、様々な遊びを体験できる常設エリア型施設である。
⑦	南口アプローチ園路	町田街道から公園へアクセスできるサクラの並木を配したプロムナードで、春は花見、夏は緑陰として親しまれている。
⑧	ひだまり荘	公園利用者の休憩施設で、サークル活動の場としても利用されている。
⑨	冒険広場	ブランコ、木製遊具(平均台)、ターザンロープなど遊具を配した広場、ベンチやパーゴラがあって、親子がともに利用できる。
⑩	アーチの泉	公園西北側からの湧水を集めて、アーチ状のトンネルから泉として湧出させている。
⑪	大池	湧水を利用した池を自然石で修景した日本庭園的な園地で、ベンチを配して良好な水辺景観を演出している。
⑫	芝生広場	きれいに管理された芝生広場にあずまやを配し、近くの大池の水辺と周囲の樹林地と一体となった静かにくつろげる空間である。
⑬	花見広場	湧水の流れを利用した小川沿いに桜が植栽された小広場で春には花見客が訪れる。
⑭	カキツバタ園	カキツバタを植栽した湿地の園地で、八つ橋状の園路で周辺が散策できる。
⑮	湧水と流れ	周囲の斜面からの流れを集めた自然の流れで、芹ヶ谷公園の大きな魅力の一つになっている。
⑯	花木園、藤棚	ツバキ、ウメ、フジは季節の彩りを感じさせる花木園と藤棚として、散策コースの重要なポイントとなっている。
⑰	レストコーナー	静かな樹間でベンチを配した平坦な空間で、木々の香りや小鳥のさえずりなどを満喫できる。
⑱	自然保護林	小田急線沿いののり面と自然斜面で、コナラ、クヌギなどの落葉広葉樹、シラカシなど常緑樹で構成され、自然遷移の進んだ保護林である。

■主要施設の位置



①せせらぎ（国際版画美術館前）



②虹と水の広場



③多目的広場



④日本庭園（国際版画美術館裏）



⑤森の丘



⑥冒険遊び場



⑦南口アプローチ園路



⑧ひだまり荘



⑨冒険広場



⑩アーチの泉



⑪大池



⑫芝生広場



⑬花見広場



⑭カキツバタ園



⑮湧水と流れ



⑯花木園、藤棚



⑰レストコーナー



⑱自然保護林



■園内のオブジェ

左上：「my sky hole 88-4」
(井上武吉 作/1988年)

左下：「開かれた宇宙」
(高橋清 作/1990年)

右上：「トキオコシ」
(平野杏子 作/1990年)

右下：「彫刻噴水・シーソー」
(飯田善國 作/1989年)



2. 計画条件の把握と整理

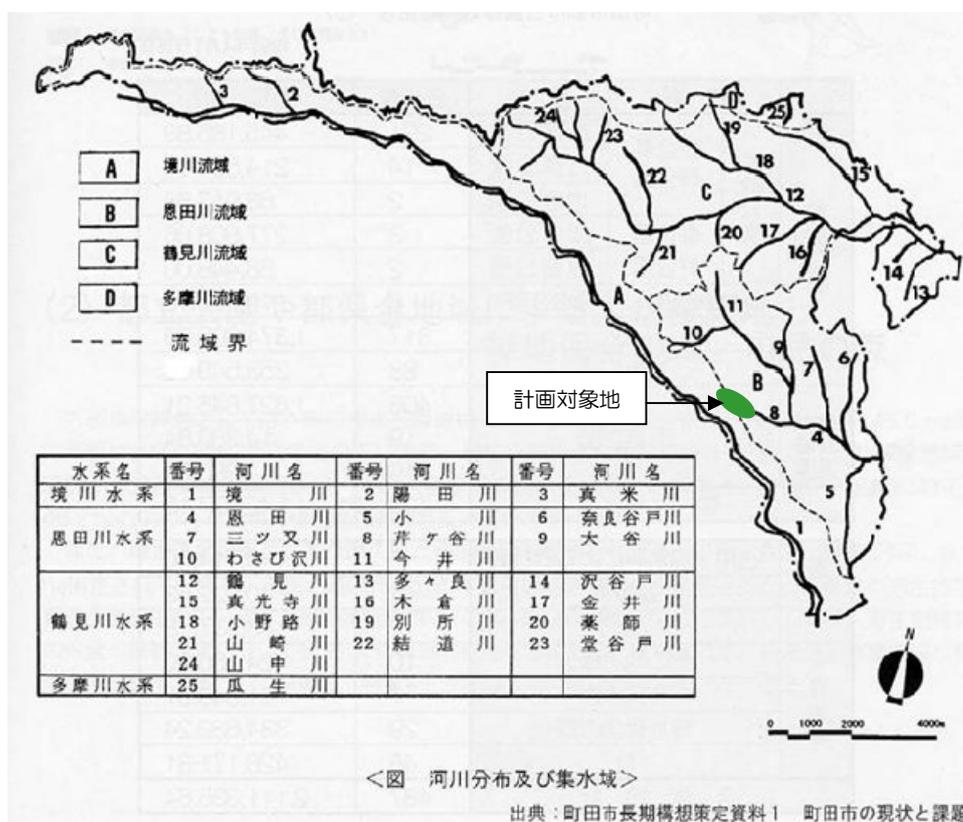
(1) 計画対象地及びその周辺の状況

①自然概況

1) 地形及び水系

町田市は、八王子市、多摩市、稲城市とともに横浜市にかけて広がる多摩丘陵の北に位置している。計画対象地は、起伏に富んだ多摩丘陵に深く入り込み、鶴見川水系恩田川の支流（かつて「芹ヶ谷川」と呼ばれていた）の浸食によって形成され、西北方向から南東方向に細長く伸びた谷戸地形により構成されている。

■ 計画対象地の水系と位置



谷戸は上流部（公園西北側）で約 30～40m、下流部（公園東南側）で約 60～70m の幅をもち、台地部と谷底部の標高差は約 15～20m である。斜面林であるために、自然地として残されてきた。

谷戸は公園の西北端小田急線の土堤で終わるが、東電鉄塔斜面下で湧水が確認される。この湧水が最上流部にあたり、やや下流部にあたるレストコーナー下、花見広場付近でも確認できる。さらに警備員室西側広場奥の斜面下からの湧水はあずまや脇を流れて水路に合流している。冒険広場奥の斜面樹林下でも確認される。

東電鉄塔斜面下の湧水



花見広場付近の湧水



湧水が確認できるあすまや裏の斜面



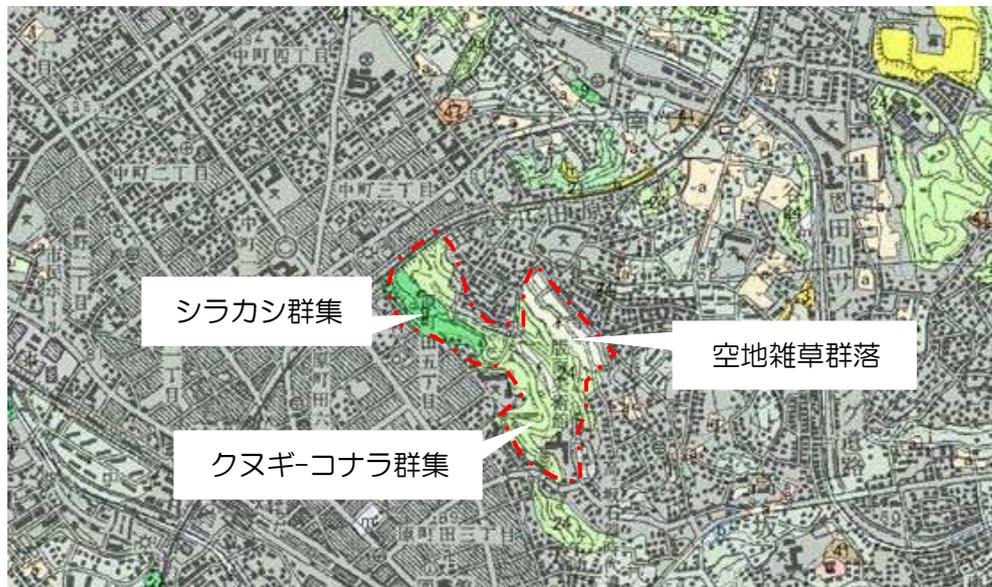
冒険広場奥の湧水



芹ヶ谷公園に源を発する湧水は、公園内の自然湧水と合流しながら南東に流れ、町田市立国際版画美術館の東から暗渠に入り、「原町田ふるさとの森」の北東端を南東に流れ、熊野神社（町田市高ヶ坂）の水路に左岸から合流している。暗渠に入る前の湧水は、せせらぎで利用している。

2) 植生

計画対象地の植生は、殆どがクヌギ-コナラ群集で、北西端はシラカシ群集となっている。また台地部の上の平坦地は、空地雑草群落（芝生）となっている。



出典：自然環境保全基礎調査 植生図（環境省）

樹種は、ヒサカキ、シュロ、アオキ、ツバキ、イヌツゲ、ヤツデ、シラカシ、アラカシ、ネズミモチ、ヤブツバキなどの常緑樹やクヌギ、コナラ、エゴノキ、イヌシデ、ミズキ、ケヤキ、ムクノキ、エノキ、イロハモミジ、ヤマザクラ、クワ、ムラサキシキブ、ヤマブキ、ガマズミなどの落葉樹の他一部でスギ、サワラ植林も見ることができる。

草本層としてはアズマネザサが繁茂している。

また植栽木として、ソメイヨシノ、ユリノキ、ケヤキ、クスノキ、キョウチクトウ、イロハモミジ、ツバキ、コブシ、ウメ、ツツジ類、アベリア、アジサイがある。

多目的広場東斜面地



虹と水の広場東斜面地



なお周辺が農地として利用されていた頃は、薪炭林としてクヌギ、コナラ、イヌシデ、ミズキなどは利活用のために通常 15 年程度（胸高直径 10cm 程度）で伐採していたが、昭和 30 年代以降の、いわゆるエネルギー革命でガスが家庭に普及し始めてからは薪炭需要が減り、伐採利用されることなく経過してきたため、現在では胸高直径 30cm を超える樹木も見られる。

3) 土地利用

芹ヶ谷公園の西北端の谷部は、1927年（昭和2年）に開通した小田急線の線路敷設により造成し、現在の状況になったと考えられる。

1936年（昭和11年）には、町田駅周辺で宅地化を意図した耕地整理事業が行われ、1951年（昭和26年）には、町田市立第二小学校が開校した。

現在は、市街化が進み、公園に隣接する斜面部あるいは台地部は密度の高い住宅地となっている。

町田街道から計画対象地西側の用途地域は、近隣商業地域及び第二種中高層住居専用地域であり、商業施設ビルや中高層マンションが見られる。

一方計画対象地東側の用途地域は、第一種低層住居専用地域（都営跡地は第一種中高層住居専用地域）であり、主に低層住宅となっている。

1987年（昭和62年）、町田市立国際版画美術館が開館し、公園にとってシンボルとしての美術館の存在と、芸術にふれる場としての緑豊かな公園の存在が、互いに魅力となって良い相乗効果を生んでいる。

町田市立国際版画美術館



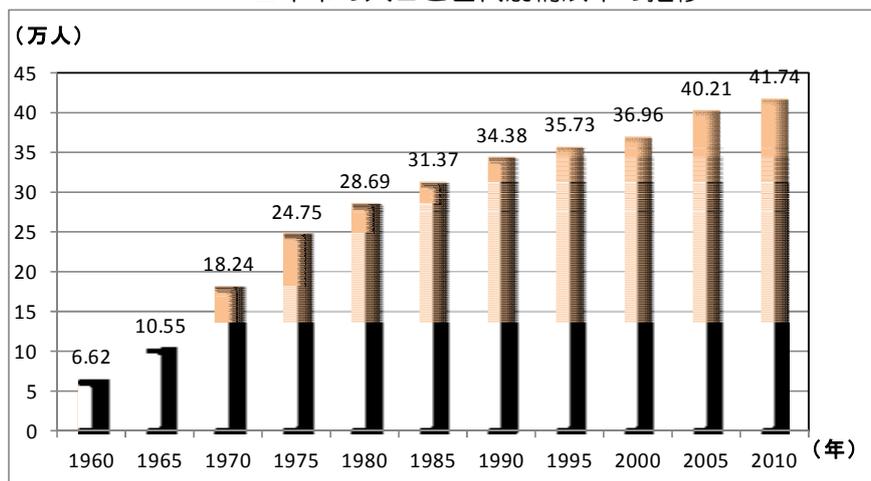
②社会概況

1) 人口

町田市の人口は、2015年（平成27年）4月1日現在、188,955世帯、426,659人である。（住民基本台帳）

町田市は、新宿、横浜より鉄道で約30分という都心への交通利便性もあり、郊外住宅地、商業地として急激な発展を遂げ、人口が増加した。その推移をみると、1965年（昭和40年）頃より増加が始まり、現在も増加傾向が続いている。

■本市の人口と世代別構成率の推移

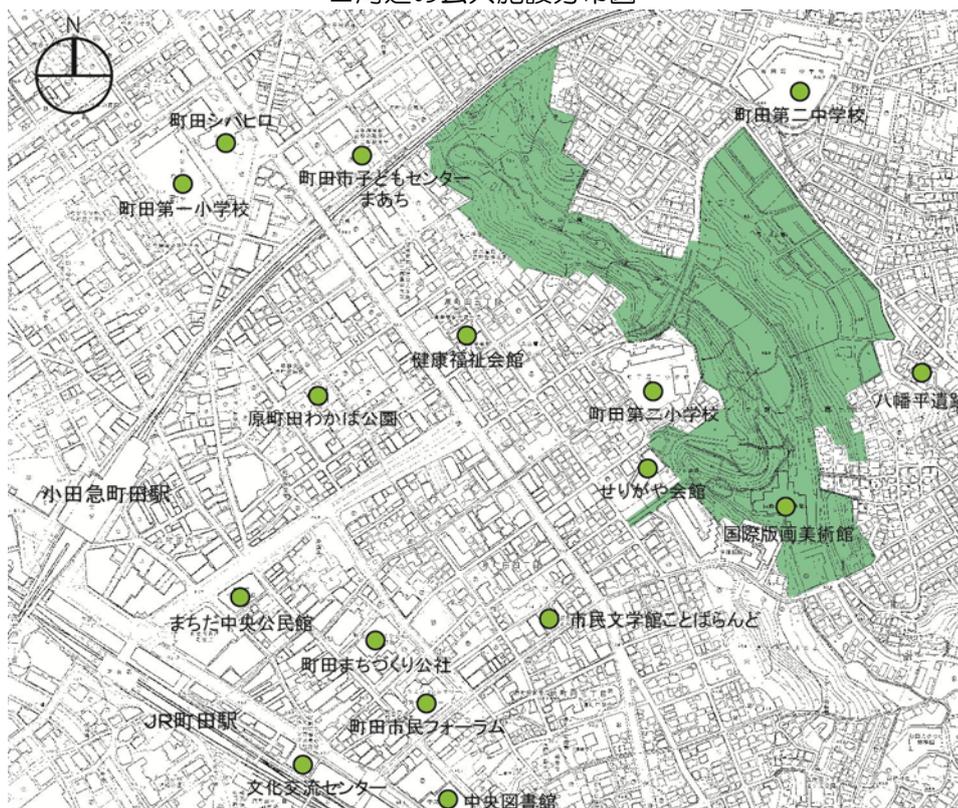


出典：国勢調査

2) 周辺の公共施設分布

町田駅から計画対象地周辺に至る区域に立地する主な公共公益施設は、下図に示すとおりである。町田市民文学館ことばらんどを始め、市立中央図書館、町田市民フォーラム、まちだ中央公民館などがあり、文化施設やホール・会議室等を有する文化活動、市民活動の拠点施設が多い。

■周辺の公共施設分布図

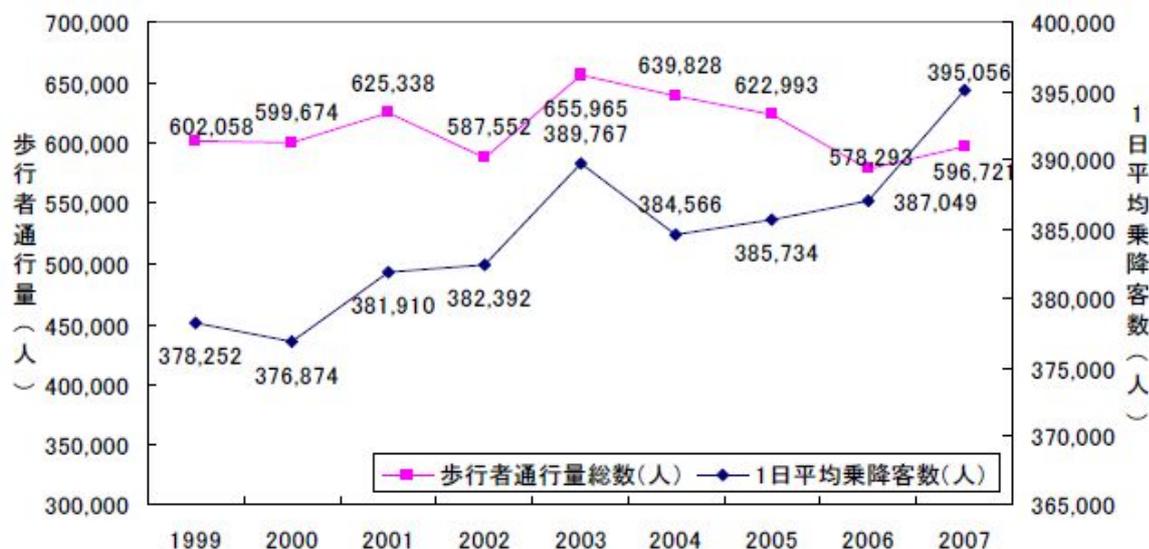


3) 駅前周辺の歩行者交通量

町田駅周辺の歩行者通行量（調査地点 27 箇所の通行量総数）は、約 60 万人前後で推移している。しかし、2004 年以降、町田駅（小田急・JR）の 1 日平均乗降客数の増加に反して、歩行者通行量は減少している。

また、地点ごとの推移を見ると、駅前通りから町田駅東口周辺、文学館通りに至る調査地点（7 箇所）において、2003 年前後から歩行者通行量が急速に減少している。これに対しペDESTリアンデッキ上の通行者が増加傾向にあることから、鉄道駅の乗り継ぎ客が中心市街地に来ていないことがわかる。

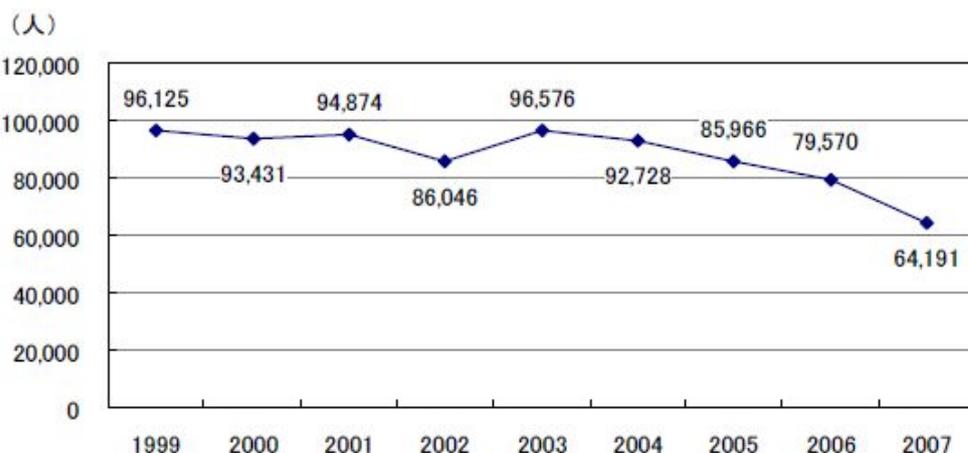
■歩行者通行量と町田駅 1 日平均乗降客数（小田急、JR の合計）の推移



出典：「町田市中心市街地活性化基本方針」（2009 年 12 月／町田市）

■駅前通り（ペDESTリアンデッキ上を除く）・文学館通り（※）歩行者通行量

（※）イコービル前、みずほ銀行前、土方園前、大塚ビル前、JR 町田駅東口前、西友前の 7 つ地点合計値



出典：「町田市中心市街地活性化基本方針」（2009 年 12 月／町田市）

③人文的概況

町田市は多摩丘陵に位置し、谷戸から流れ出る湧水や周囲から集めた雨水で恩田川、鶴見川などが形成され、早くから人は住み着いたといわれている。

町田市小山町にある田端環状積石遺構は、ストーンサークル・集落跡・集団墓地と知られる縄文時代中期の遺跡で、1971年（昭和46年）3月29日に東京都指定史跡に指定された。遺構は盛土保存され、ストーンサークルのレプリカを置いている。

計画対象地に近接した高ヶ坂地区には高ヶ坂石器時代遺跡（縄文式時代の集落跡）があり、丘陵地における住居跡発見の第一号として1926年（大正15年）に国の史跡に指定されている。

高ヶ坂石器時代遺跡は、鶴見川上流の恩田川沿いの低段丘上にあり、牢場、稲荷山、八幡平の3つの遺跡からなる。牢場遺跡からは縄文時代中期末（約4000年前）の敷石住居跡、稲荷山遺跡からは縄文中期から後期の配石遺構、計画対象地に最も近い八幡平遺跡からは縄文時代早期（約8000年前）の竪穴住居跡と中期末の敷石住居跡が発見された。

覆屋がつくられ、唯一保存公開されている牢場遺跡の住居跡は長径が西南5m、短径が3.5mである。

稲荷山遺跡は南西部が道路で切られており、断面に土器片、礫がみられたが、複雑で不整形な配石遺跡が確認されただけで、遺構の状況は不明である。八幡平遺跡では、直径3.45mの円形プランの敷石住居跡が発掘されている。

また、町田市には、中世から近世にわたる歴史街道がある。中世は鎌倉と北関東を結ぶ鎌倉街道の要衝として、近世には江戸後期から明治期にかけて多摩・甲州・上州などと横浜との交易に用いられた絹の道・八王子街道（神奈川往還）の一部である町田街道があり、八王子と横浜のほぼ中間となる原町田がその要衝として栄えた。



高ヶ坂石器時代遺跡の説明板

④景観の概況

町田市は多摩丘陵に属し、鶴見川、境川、恩田川やその支流は、起伏に富んだ丘陵に深く入り込み、その浸食によって形成された谷戸が発達した地形が市域のほぼ全域で見られる。

芹ヶ谷公園は、このような町田市の地形的特性を良くあらわし、その景観的特性を残しながら、地域のシンボルとして、まとまりある緑の景観を形成している。

また、芹ヶ谷公園は台地面より約20m低く、さらに斜面は樹林に覆われているため、芹ヶ谷公園周辺の住宅、マンション、学校などの建築物が公園内部からはほとんど視認できず、公園として良好な内部景観が維持されている。

(2) 上位関連計画等

上位・関連計画における芹ヶ谷公園を含む公園緑地の位置づけは、下記の通りで、計画内容から関連する項目を抜粋・整理する。

①上位計画

<p>町田市基本計画 「まちだ未来づくりプラン」 「町田市新5カ年計画」 〈2011年策定〉</p>	<p>基本政策3 みどり豊かなまちをつくる</p> <p>【めざす姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●まちなかの公園や緑地など、市民が身近にみどりを実感できる環境が整備されている。 ●大規模な公園や緑地、良好な水辺環境が残され、市民がみどりとふれあい、憩うことができている。 <p>〈政策1〉 身近なみどりを増やす 〈政策2〉 まとまりのあるみどりを保全する</p> <p>【政策の取り組みの方向】 市内に残された貴重なみどりを将来に引き継ぐため、緑地や農地の保全に取り組めます。</p> <p>■重点事業1 みどりの拠点整備（基本計画体系Ⅳ-3-2-2） 〈事業概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内のみどりの拠点を充実させるため、薬師池公園周辺をはじめとする公園や緑地の整備を進めます。
<p>町田市緑の基本計画 〈2011年改定〉</p>	<p>【緑の将来像】 「町田の環境文化を育む多摩丘陵・里山回廊の保全・再生・活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町田の緑の将来像図に位置づけた18箇所の「水と緑の拠点」として、以下のような姿を目指します。 <p>⑭ 芹ヶ谷・かしの木山（水と緑の拠点） 〈芹ヶ谷公園（風致公園）、かしの木山自然公園などを中心とした拠点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町田駅東側の市街地にありながら、豊富な湧水や雑木林等の豊かな自然環境に恵まれた芹ヶ谷公園と市街地に残るまとまった雑木林を有するかしの木山自然公園、更には敷地内に多くの緑を残す昭和薬科大学周辺などから構成される拠点です。

②各種関連計画

<p>町田市都市計画マスタープラン 〈2013年改定〉</p>	<p>【テーマ別のまちづくりの方針】（町田中心地域）</p> <p>ア) 町田らしい都市文化を育成する中心市街地の形成 〈にぎわいと交流の拠点形成〉</p> <p>（3）芹ヶ谷公園を活かした中心市街地の回遊の核の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●芹ヶ谷公園とその隣接する都営跡地は、中心市街地に近接する立地、保全されている谷戸地形や湧水を活かしつつ、来街者や住民が憩い、楽しめる空間や見通しがきく明るい空間へと再生を図ることにより、中心市街地の回遊の核として育成していきます。 <p>（6）ゆとりある道路空間を活かしたにぎわいの創出と芹ヶ谷公園へのシンボルロードの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中心市街地から芹ヶ谷公園の玄関口へのシンボルロードとして、原町田大通り（町3・4・11）の延伸整備を検討し、駅から通り沿いの店先を楽しみながら公園に向かうことができるような通りの形成をめざしていきます。 <p>（7）文化施設の連携強化と文学館通りを中心としたゆったり歩けるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文学館通りは、町田市立国際版画美術館へのアクセス路として、子どもからお年寄りまでだれもがゆったりと安全に歩ける空間とするため、地元と協働して、歩道の拡幅や無電柱化、広場空間の整備を進めます。 ●文学館通り周辺にある文化施設同士の連携強化を図るほか、土地の高度利用や建物の共同化などによる多世代が交流できる機能や居住機能などの誘導を図り、さまざまな人々が文化や芸術に親しみながら暮らし、楽しむことができる通りの形成をめざしていきます。
-------------------------------------	---

<p>第二次町田市環境マスタープラン <2012年策定></p>	<p>【望ましい環境像】 「水とみどりとにぎわいの調和した環境都市 まちだ」 施策2. 自然環境と歴史的文化的環境の保全 2-[1]みどりを守り、増やし、育て、活かす取り組みを進めます。 施策① 緑地の現状を把握し、公表します。 施策② みどりの保全を進めます。 2-[2]水辺の保全・活用と水循環の健全化を進めます。 施策① 水辺環境を保全します。 施策② 湧水地の保全、地下水保全のため、水源涵養域の保全、雨水の浸透を図ります。 施策③ 町田の水辺の魅力を発信します。</p>
<p>町田市景観計画 <2009年策定></p>	<p>【地域別の景観づくりの方針】～原町田地域～ <芹ヶ谷公園や地域の北側に多いまとまりのある緑> ●芹ヶ谷公園は、豊かな樹木に囲まれ、駅の近くにありながら豊かな自然の風景と出会えます。町田市立国際版画美術館と公園内の緑が一体となり、多くの市民の憩いの場となっています。 ●まとまりのある緑は、地域のシンボルとして維持・保全し、それらを活かした景観拠点をつくります。 <「商都」としてにぎわう町田駅周辺> ●文学館通りには「市民文学館ことばらんど」があり、芹ヶ谷公園内の町田市立国際版画美術館へつながる通りでもあります。 ●文学館通りは、文学館や町田市立国際版画美術館を結ぶ通りとして、文化的で人に優しい通りづくりにより、中心市街地の回遊性を高めます。</p>
<p>町田市中心市街地活性化基本計画 <2009年策定></p>	<p>【基本的な方針】 <憩い> ●にぎわいある商店街、町田市民ホールや町田市民文学館等の文化施設、中央図書館等の公共施設など、さらに中心市街地周辺の町田市立国際版画美術館、芹ヶ谷公園、境川など、中心市街地内外の要所をめぐりながら、街を楽しむことができるよう、歩きやすい歩行空間、休憩や交流に資する滞留空間を創出し、回遊性の高い歩行空間ネットワークを形成します。 <集う> ●既存の文化施設、市民の活動を有機的に結びつけ、活発な文化活動・市民活動を支援する拠点としての役割を強化するとともに、店舗や事業所の誘致、町田ブランドの形成等を通じた中心市街地の情報発信機能の充実、町田駅東口から芹ヶ谷公園、町田市立国際版画美術館にかけての回遊ルートづくりにあわせた周辺地域のまちづくりなどを通じ、創造性のある文化・交流拠点としての機能を高め、人々が集えるまちをつくります。 <潤い> ●八王子から三浦半島に至る多摩・三浦丘陵に位置する町田市は、北部丘陵をはじめ市域に豊かな自然環境が存在しており、中心市街地周辺にも芹ヶ谷公園の緑、境川の水辺のように自然が感じられる場所があります。中心市街地を取り巻く緑や水辺の環境に親しむことができ、市民、事業者、市の協働による花や緑にあふれるまちづくり、昔ながらの老舗店舗等をいかした景観づくりなどにより、周辺の豊かな自然環境と商都の界索性が調和した、潤いあるまちをつくります。</p>

<p>町田市中心市街地整備構想 ＜2014 年策定＞</p>	<p>【現状と課題】 （オ） 芹ヶ谷公園等へのアクセス ● 芹ヶ谷公園は町田駅から至近の距離にありながら谷戸の地形を残しており、市民に親しまれている公園であるが、町田駅からのアクセス路が未整備であり、来街者への知名度が高いとは言えない。歩行者ネットワークを整備するなど、芹ヶ谷公園へのアクセス性を向上させ、回遊性を高めていく必要があります。</p> <p>【目標と方針】 ③ 誰もが快適に歩けるまちづくり （エ） 芹ヶ谷公園等をつなぐ歩行者ネットワークの形成 ● 芹ヶ谷公園までの快適なアクセス路の整備 ● ネットワークの整備の方策 ● 芹ヶ谷公園までのシンボルロードの形成 誰もが安心して、ゆったりと時間を過ごせる回遊性、滞留性に富んだ、憩いあるまちをつくりまします。</p>
<p>（仮称）町田市立国際工芸美術館整備基本計画 ＜2014 年策定＞</p>	<p>【計画策定の3つの背景】 ● さらなる「まち」の魅力を発掘、創造発信していく必要があります。 ● 豊かな自然環境と優れた交通利便性をもつ町田は、さらなる都市の魅力を獲得しなければなりません。 ● 文化芸術に触れる機会や場をさらに充実させる必要があります。</p> <p>【施設計画の考えかた】 （1） 周辺施設と連携した地域回遊動線の計画 中心市街地と芹ヶ谷公園をつなぐ結節点として、中心市街地からのアプローチの工夫、周辺地域を含むサイン計画を行い、施設の場所がわかりやすく、来館者の訪れやすい施設を目指します。また、車やバスでの来館の利便性にも配慮するとともに、中心市街地からの徒歩来館者の利便性についても最大限考慮します。 （3） 環境や景観に配慮した施設づくり 町田市公共事業景観形成指針に基づいた計画により、周辺景観との調和を図ります。また省エネルギー性能の高い施設づくり、環境への影響が少ない工法や建設機械の採用等、環境負荷低減化に努めます。</p> <p>【来館者目標の設定】 年間来館者数目標を 10 万人とします。</p>

(3) 芹ヶ谷公園の利用概況

芹ヶ谷公園は、町田市を中心市街地に近接し、豊かな自然と多摩丘陵の郷土景観を残し、町田市を代表する公園の一つとして市民に広く親しまれている公園である。

春は「多目的広場」周囲に植栽されたソメイヨシノ、斜面に見られるコナラ、クヌギなどの新緑、秋には「芝生広場」、「大池」周辺のイロハモミジ、ヤマモミジなどの紅葉などを目当てに多くの人で賑わっている。特に谷戸の地形を利用した公園であることから、現在も斜面下部の湧水が流れをつくり、風情ある水辺の景観が人々の目を楽しませている。

公園を利用する年齢層も多様で、斜面樹林地を活かした「冒険遊び場」には多くの子どもが集まり、自然の中で工夫を凝らした様々な遊びが展開されている。

自然が豊かで落ち着いたたたずまいから、中高齢者の毎日の散歩、小中学生のボール遊びや、幼児等の水遊び、休日には若いカップルの散策、親子連れのランチなど様々な利用がされている。

町田市立国際版画美術館が完成した 1987 年以降は、イメージを膨らませるアート作品、オブジェを展示するようになり、豊かな自然とアートな雰囲気誇る公園として知られるようになった。利用者も市の内外、他県からの利用者も増え、美術館見学と併せて公園内を散策する姿も多く見られるようになった。

また、市街地に近いというアクセスのしやすさから、近年はイベントの会場として利用されるようになり、町田さくらまつりや、町田時代祭りなど町田市を紹介する役割も担っている。

【イベントの実施状況】

●町田さくらまつり

町田さくらまつりは、例年 3 月下旬～4 月上旬のさくらの開花時期に市内全域で開催され、10 万人規模の来場者を誇っている。そのメイン会場の 1 つとして、芹ヶ谷公園会場ではオープニング式典を行うほか、交流都市コーナー、模擬店コーナー、復興支援コーナーなど各出店を楽しむことができる。また、ステージ、大道芸などが実施され、例年たくさんの家族連れなどで賑わう。



町田さくらまつりの開催風景

2015 年度は以下のとおり開催した。

【開催日時】

2015 年 3 月 28 日(土)～3 月 29 日(日)

10:00～16:00

【会場】

芹ヶ谷公園多目的広場

【主催】

町田さくらまつり実行委員会

(事務局：町田市経済観光部産業観光課、町田市観光コンベンション協会)

【来場者数】

3/28(土) 16,000 人、3/29(日) 10,000 人、計 26,000 人

(29 日は荒天により 15:00 過ぎに終了)

●ゆうゆう版画美術館まつり

芸術の秋10月に、町田市と国際版画美術館友の会が開催。国際版画美術館前と館内の各室を使って様々なイベントを展開している。芸術を愛する市民のサークル等による「チャリティ・アートバザール」や近隣大学の学生による「アート・イベント」をはじめとして、館内での「木版画摺り体験」や「キッズ・アートスペース」、講演会やプロムナードコンサートなどを実施し、広く市民に国際版画美術館に親しみを感じてもらおう祭りとしている。

2015年度は以下のとおり開催した。

【開催日時】

2015年11月7日(土) 10:00~15:30

8日(日) 10:00~15:00

【会場】

芹ヶ谷公園国際版画美術館前及び国際版画美術館内

【主催】

町田市文化スポーツ振興部国際版画美術館、町田市立国際版画美術館友の会

【来場者数】

4,800人



●町田時代祭り

町田時代祭りは、かつて町田市域で活躍した坂東武者や農兵隊を再現し、中心市街地で時代行列、芹ヶ谷公園多目的広場で流鏝馬（やぶさめ）、古武道演武などを行う。芹ヶ谷公園内では、名産品などの模擬店も楽しめる。例年市内外から多数の観光客が訪れ、町田の秋のイベントとして定着している。

2015年度は以下のとおり開催した。

【開催日時】2015年10月25日（日）

【会場】芹ヶ谷公園多目的広場ほか

【個別行事】

11：00 時代行列（町田商工会議所～原町田大通り～芹ヶ谷公園）

12：00 開会式（芹ヶ谷公園）

12：30 流鏝馬（芹ヶ谷公園）

14：00 古武道演武（居合抜刀・柔術）（芹ヶ谷公園）

15：00 砲術（芹ヶ谷公園）

【主催】

町田時代祭り実行委員会

【来場者数】

20,000人（内訳 時代行列 4,500人 芹ヶ谷会場 15,500人）



町田時代祭りの開催風景



同左（流鏝馬の様子）

(4) 関連施設の利用状況

①町田市立国際版画美術館

町田市立国際版画美術館は、芹ヶ谷公園内の南側に1987年に開館した。延床面積7,840㎡で、版画を中心とした美術作品、資料約28,000点の収蔵を誇るわが国では珍しい版画美術品を収集、展示を目的とした美術館である。年間利用者は、約15.5万人(2014年)である。

■町田市立国際版画美術館の利用者数の推移(単位:人)

年度	総数	企画展示室 (市民美術展 も含む)	常設展示室	ハイビジョン ギャラリー	講堂等	アトリエ	工房	市民展示室
2005	136,831	44,572	27,384	7,656	5,889	4,148	2,815	44,367
2006	161,233	53,638	36,852	10,326	5,752	4,535	2,940	47,190
2007	159,083	48,623	40,197	11,178	5,499	3,982	2,678	46,926
2008	154,345	52,036	31,674	8,893	8,204	4,200	2,718	46,620
2009	166,846	58,652	35,119	9,830	6,749	4,120	2,507	49,869
2010	157,081	57,015	32,709	9,173	7,070	3,946	2,455	44,713
2011	149,724	59,323	35,798	3,220	5,364	4,503	2,475	39,041
2012	184,707	74,101	41,365	10,703	7,988	4,042	2,472	44,036
2013	159,989	62,805	37,696	9,115	6,433	3,549	2,528	37,863
2014	154,247	60,856	35,269	9,001	6,809	3,342	2,220	36,750

■町田市立国際版画美術館の建築概要

部門	室名	面積(㎡)	部門	室名	面積(㎡)	階数	備考	面積(㎡)
展示部門	常設展示室	229.0	普及部門	ビデオコーナー	44.9	3階	(屋根裏1648.9含む)	2078.2
	企画展示室1	682.0		アトリエ	86.4	2階		2622.7
	企画展示室2	292.0		版画工房	131.7	1階		2783.7
	(小計)	1203.0		講師控室	12.3	地階		355.6
収蔵部門	前室	27.0		暗室	24.0	合計	(延床面積)	7840.2
	収蔵庫	399.5		腐蝕室	18.1			
	図書資料室(1)	41.3		アトリエロッカールーム	34.0			
	図書資料室(2)	115.1		講堂	230.1			
	ネガ保管室	38.9		映像室	21.3			
	(小計)	621.8		市民展示室	252.0			
				同前室	24.7			
学芸部門	学芸員室	51.5		控室	19.5			
	美術資料閲覧室	21.5		ロビー	19.0			
	写真室	38.0		ハイビジョンギャラリー	26.0			
	暗室	13.0	(小計)	944.0				
	倉庫	9.1	エントランスホール	361.6				
	整理室	108.9	ロビー	284.3				
	(小計)	242.0	喫茶室	59.4				
管理部門	館長室	32.0	荷卸室	70.5				
	応接室	33.2	荷解室	170.1				
	会議室	56.0	休養室	13.4				
	事務室	62.8	更衣室	28.0				
	受付控室	19.2	その他	3600.0				
	清掃員室	16.6	(小計)	4587.3				
	警備室	22.3	合計	(屋根裏1648.9含まず)	6191.3			
	(小計)	242.1						

竣工:1986年8月

資料出典:文化振興課資料、建築概要は市HP

②町田市民文学館ことばらんど

町田市民文学館ことばらんどは、1階に図書館機能、2階に展示機能、3階に施設貸出機能を持ち、町田ゆかりの文学者たちの著書などを所蔵する施設で、2006年10月に開館した。

中心市街地内にあり、子どもから大人まで幅広い層から親しまれ、年間約6万4千人（2014年度）利用者がある。

町田駅から芹ヶ谷公園及び町田市立国際版画美術館へのルートの途中にあることで、相互的な利用傾向があると考えられる。

■町田市民文学館ことばらんどの利用状況

年度	図書館業務						展覧会		会議室		保育室	
	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出人数	団体貸出冊数	団体貸出件数	開催日数	観覧者数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
2006	125	14,955	1,771	1,003			114	8,240	759	8,278	32	418
2007	303	43,391	4,369	2,447	102	34	255	13,566	2,742	28,680	88	1,337
2008	302	48,961	5,731	2,843	184	62	221	17,331	3,191	33,779	103	1,401
2009	302	61,555	5,810	3,127	106	48	246	19,581	3,350	41,757	108	1,558
2010	301	53,903	4,961	2,688	223	100	216	19,226	3,492	36,967	119	1,859
2011	300	59,084	5,280	2,786	143	55	235	26,231	3,632	39,482	121	1,817
2012	302	64,773	6,206	3,053	194	68	232	22,148	3,736	37,597	173	2,136
2013	303	66,971	8,304	3,630	199	71	228	14,902	3,763	40,676	169	1,903
2014	302	63,788	8,985	4,077	292	96	226	22,259	3,723	38,874	163	1,930
合計	2,540	477,381	51,417	25,654	1,443	534	1,973	163,484	28,388	306,090	1,076	14,359

資料出典：生涯学習部図書館

3. 計画の課題

(1) 中心市街地との関連性からみた課題

① 中心市街地における芹ヶ谷公園の位置づけの検討

町田市中心市街地整備構想(2014年3月策定)では、中心市街地に近接する芹ヶ谷公園とのつながり強化の方向性が打ち出されている。その中で歩行者アクセスの充実として、文学館通りの歩道拡幅、無電柱化、さらに公園へのシンボルロードの形成として、原町田大通りの延伸などが挙げられている。

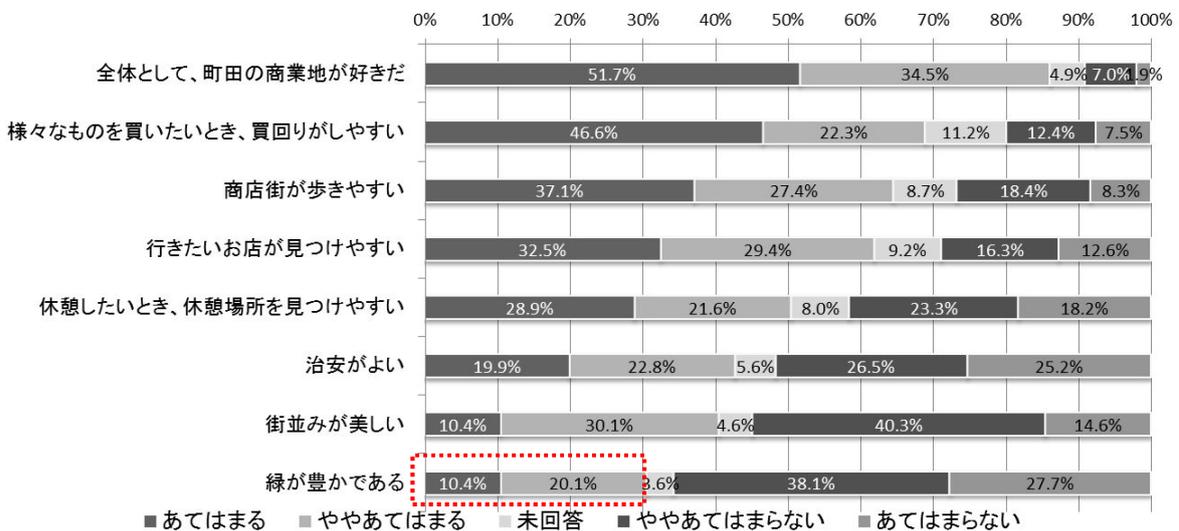
2013年8月に実施された町田駅利用者街頭アンケートでは、駅周辺の商業施設に対する印象について、「緑が豊か」というのは低評価で、回答者の約3割にとどまっている。芹ヶ谷公園は中心市街地に近接しているが、駅周辺施設とは認識されていないと考えられる。

芹ヶ谷公園は中心市街地の活性化において重要と位置づけられているが、現状では中心市街地との一体性が感じられていないことが課題である。

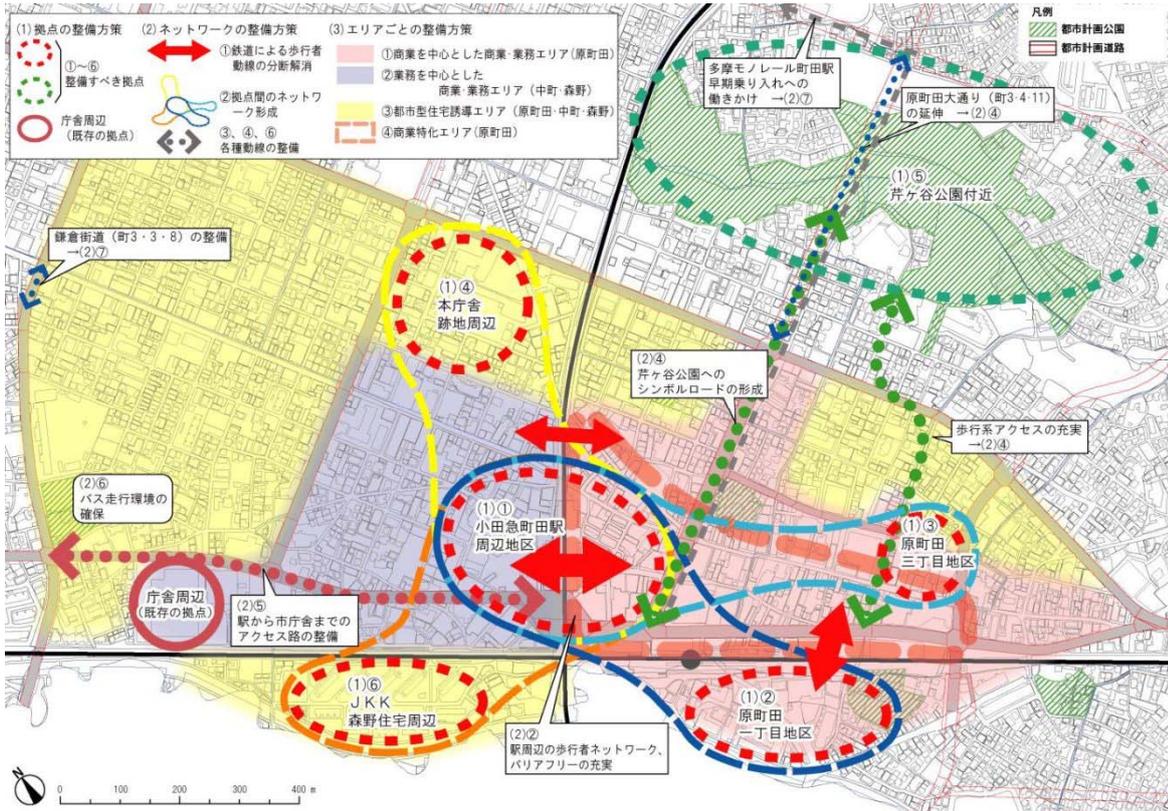


原町田大通り (町3・4・11)

【参考】町田駅利用者街頭アンケート結果 (町田駅周辺商業地を利用するにあたっての評価)



■ 中心市街地整備方針図



出典：町田市中心市街地整備構想（2014年3月）

② 中心市街地のまちづくりと一体的な再整備

2013年5月～7月に実施された中心市街地整備構想検討の意見交換会では、「ショッピングモール感覚で吉祥寺駅から井の頭公園までのルートのように回遊性を高められるとよい」という意見があった。

中心市街地活性化において歩行者の回遊性促進は有効な方策であり、市街地に近接する芹ヶ谷公園は回遊性を誘発する大きな核である。芹ヶ谷公園の再整備は、文学館通りの整備と一体的に行っていく必要がある。さらに原町田大通りでのアートストリート、ストリートファニチャーの展開などによって芹ヶ谷公園への回遊性も検討すべき課題である。



文学館通り（左）と歩道の埋め込みサイン（右）

(2) 植栽の配置に関する課題

①木の密度や高木と低木のあり方の検討

公園の樹林及び植栽木は、四季の移ろいなど季節感や癒しを感じる上で重要な要素であるとともに、野鳥を始め生態系の保全にとっても重要な役割を果たしている。一方で、植栽木の高密度等でできた死角、枯れ枝の飛散・枯木による倒木事故など、利用者の安全確保にとって植栽の適正な配置、管理は重要である。

谷戸を利用した公園で、斜面には落葉広葉樹林の二次林（雑木林）やスギ、サワラの植林、実生で育った常緑樹、さらに谷戸の園地には公園木として植栽された高木、低木が数多く存在し、開園後長い年月が経過している。

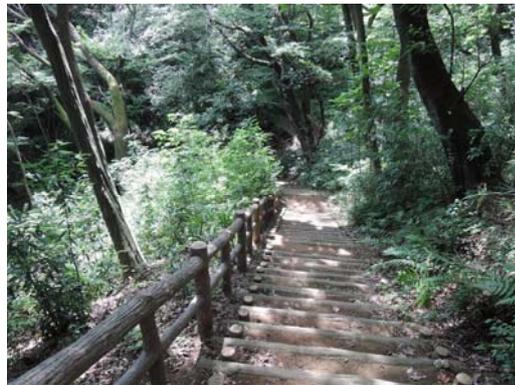
このようなことから、植生の状況を踏まえながら、見通しを確保するために支障となる樹木の処理（伐採、枝など剪定、移植等）や、間伐などで密度調整し、利用想定を前提にして、明るく開けたエリアなどを形成していく必要がある。

※伐採とは樹木を伐り倒すこと。間伐とは成長に伴って混み過ぎた樹林の樹木を一部抜き伐りすること。

②昼間でも暗いうっそうとした雰囲気改善

遊具周辺、トイレ周辺、園路沿いなどでは見通し確保が必要である。また、夏、冬の日照条件や方位などに応じた樹林や植栽木について、暗く見通しが悪いなど問題のある場所については、改善が必要である。

現場での調査・確認結果をもとに、支障となる樹木の処理（伐採、枝など剪定、移植等）により、うっそうとした雰囲気を改善して明るい空間づくりを行う必要がある。



園路の周囲は一定の見通しが必要

③四季折々の見所の創出

園内にはソメイヨシノやヤマザクラのほか、イロハモミジ、ヤマモミジなどの紅葉を楽しめる樹種も多い。このほか花の美しいユリノキ、ハウノキ、ツバキ、ウメなどの高木、アジサイ、アベリア、ツツジ類などの四季を感じさせる低木も多い。

一方で、美しい地被類や草花などの植栽、花壇などがなく、面的にまとまった季節の彩り、四季折々の見所があるという印象は薄い。

花壇等を配置し、四季を感じさせる空間づくりを行う必要がある。

(3) 新しい楽しみ方の創出のための課題

①食事ができる施設の充足

現在、町田市立国際版画美術館にある飲食施設では、公園再整備、(仮称)町田市立国際工芸美術館建設後の利用者増加や中心市街地との回遊性促進には不十分であると考えられる。公園利用の魅力をより高めるためには、新たな飲食施設の導入について検討する必要がある。

②隣接する八幡平遺跡を「地域の歴史」として学べる施設の検討

計画対象地に近接した高ヶ坂地区には高ヶ坂石器時代遺跡(縄文式時代中期の敷石住居跡)があり、1926年(大正15年)に国史跡に指定されている。このうち、八幡平遺跡は計画対象地に最も近く、直径3.45mの円形プランの敷石住居跡が発掘されている。

地域の歴史を学べる施設として、本公園内に展示施設を整備することは意義があり、施設の配置、内容等を検討していく。

③芸術の杜にふさわしい整備と(仮称)町田市立国際工芸美術館の調和

(仮称)町田市立国際工芸美術館については、施設の配置、建築デザイン等において、公園と調和した整備を図っていく。

④子どもたちの安心・安全な遊び場環境の提供

子どもの遊び場として、現況では多目的広場や冒険広場が設置されているが、冒険広場は施設の老朽化や周辺からの見通し確保などの課題がある。子どもが集い、賑わいを高めるためにも、公園のリニューアルを検討する必要がある。

なお2014年(平成26年)9月に自然と子どもの冒険心を融合させた新しい施設としてNPOによる冒険遊び場の運営がスタートした。様々なプログラムを展開し、子どもが「やってみたいと思うこと」を実現しながら、限りない好奇心と貴重な自然体験ができる場となっている。



2014年(平成26年)9月23日にオープンした「せりがや冒険遊び場」

(4) アクセス性の向上

①安全かつ快適なアクセスの検討

本公園は、谷戸の地形を活かした公園であるため、特に高齢者や幼児にとって坂道、階段などによる公園へのアクセスに課題があるという指摘がある。また、JR 町田駅から公園の桜並木口までの距離約 700mについても、高齢者、幼児にとって負担となる。

さらに、交通の多い町田街道を横断すること、公園の位置がわかりにくいという意見もあり、より安全かつ快適なアクセスができるようにしていく必要がある。

②案内看板の整備など楽しみながら歩ける工夫

サインは、ピクトグラムなどデザイン化することで単なる案内看板ではなく、街を楽しんで歩く役割を果たす。芸術の杜としてふさわしい芹ヶ谷公園へ誘導するには洗練されたサインが必要であり、中心市街地で統一されたデザインをもとに整備していく必要がある。

③新たな駐車場用地の検討

現在、公園の駐車場は、町田市立国際版画美術館入口付近にあり、普通車 30 台と障がい者用駐車区画 1 台の計 31 台である。

大型駐車スペースはないため、大型車を利用した学校や団体での利用、観光での利用ができず、必要に応じて公園以外の場所での待機利用となる。今後の公園、美術館利用者の利便性向上と利用者数の増加を図るため、新たな駐車場の整備等を検討する。



公園駐車場

④新たな交通手段の開拓

町田駅からのアクセスについては、公園や美術館まで距離があり、徒歩圏としてはやや遠いことから、送迎バスの運行が求められている。

今後、回遊性や利便性の向上を図るため、バス運行の社会実験を実施する等、費用面なども考慮しながら適切な交通手段を検討していく必要がある。

(5) 防犯、防災機能の充実

①死角の解消、夜間の暗さの改善などの治安向上

植栽の配置に関する課題に関連し、特に遊具や園路周囲においては、植栽による死角が公園利用者の他、通勤・通学としての利用者に不安を与えている。見通しを確保するため、伐採や園路沿いの過密樹林地の改善などを図っていく必要がある。

また、園内の防犯対策として防犯連絡設備の設置、照明の配置の検討、照度の点検などを行う必要がある。



遊具やトイレ周辺の死角の解消が必要

②大規模災害時の避難拠点として防災機能の充実

芹ヶ谷公園は、災害時に一時的な避難や安全確認を行うために集合する避難広場に指定されており、これに対応した安全なアクセス路の整備、防災公園施設（かまどベンチ、防災あすまや、防災トレイなど）、給排水施設、防災無線などの通信機能整備を公園再整備に合わせ、進めていく必要がある。

特に避難スペース、避難順路、物資搬入路、備蓄機能についての検討が必要である。

(6) 公園予定地の活用

①町田荘跡地の活用

町田荘跡地については、様々な要望やアイデアがあり、それらを整理するとともに、(仮称)町田市立国際工芸美術館との関係性を含め、新たな導入施設を検討していく必要がある。



町田荘跡地

②都宮跡地の活用

都宮跡地は、谷戸の上部にあり、その広さや開放感など、これまでの芹ヶ谷公園にない場所である。この開放感のある空間の魅力を引出し、魅力的な活用を検討していくことが求められている。



都宮跡地

4. 整備方針の設定

再整備テーマ、整備方針を以下の通り設定した。

①再整備テーマの設定

芹ヶ谷公園は、（仮称）町田市立国際工芸美術館の建設により、2つの美術館が芹ヶ谷公園と一体化することになり、芸術の杜としてふさわしい公園づくりが期待されている。また、町田荘跡地や都営跡地の活用、公園のもつ防災機能の強化、園内防犯機能の充実が求められている。

一方、中心市街地が様々に変化を続けている状況の中で、中心市街地と公園の人の流れを重視し、魅力ある公園づくりと新たな賑わいづくりを行っていくことを目指していく。

以上の状況を踏まえ、芹ヶ谷公園の再整備のテーマを以下のように設定する。

～再整備のテーマ～

“まちなかで 人と緑が 出会い ふれあう 芸術の杜”



②整備方針の設定

1) 町田駅周辺の回遊性、賑わいを創出する場とする

- ・ 中心市街地との回遊性を高め、来街者が休憩したり食事をしたり、自由楽しめる場にする。
- ・ 中心市街地に接する開放的でおしゃれな空間として整備し、老若男女のデートスポットともいえる場にする。

2) 文化芸術を発信する場とする

- ・ 町田市立国際版画美術館や（仮称）町田市立国際工芸美術館を中心に、文化芸術の薫る場とする。
- ・ 中心市街地から公園までのアクセス路に文化芸術を感じられるようにする。

3) 人々が集い憩う場とする

- ・ 谷戸地形や湧水など、地域の自然を感じることができる貴重な資源を活用する。
- ・ 市民が安心して気軽に集い、憩える場とする。

4) 遊び学べる場にする

- ・ 豊富な水や緑と触れ合い、広い空間で自由に遊ぶことができる場とする。
- ・ 地域の歴史を学び感じる場とする。
- ・ 地域住民が集い憩う中で自然に見守られながら、子ども一人ひとりが健やかに育つ場とする。

5) 何度でも訪れたいくなる場とする

- ・ 四季折々、行く度に楽しめる花木や草花の配置を行い、1年を通じて思い出を作れる場にする。
- ・ 様々なイベントや美術館でのワークショップ等を開催し、多くの人々が興味を持てる場とする。
- ・ アクセスや案内表示などの周辺環境を整備し、誰もが行きやすい公園とする。
- ・ 大型複合遊具やなどの整備により、子どもたちが楽しみ思い出となる場を提供する。

6) 中心市街地の防災力を支える場とする

- ・ オープンスペースの確保と防災関連設備の充実を図り、中心市街地の防災力を向上させる。
- ・ 防災機能を地域住民や中心市街地への来街者に広く周知する工夫を行い、防災意識の向上につながる場とする。



※ゾーン位置、概要は、次章を参照のこと。

5. 再整備基本計画

整備方針を踏まえて、再整備基本計画の作成を行った。

(1) ゾーニング計画

計画対象地を以下の4つのゾーンに区分し、新たな施設の導入や現況施設の再整備などを行う。各ゾーンの現況と課題を整理し、ゾーンの整備方針を示す。

①わき水と花の明るいゾーン

【現況と課題】

- ・谷戸地形と湧水を活かした緑豊かな空間で構成され、ホタルが生息している。
- ・池やあずまやなどで日本庭園を彷彿させ、静かで落ち着いた雰囲気のある場である。
- ・木々がうっそうとして暗い印象がある。
- ・メインの入口から遠く、人が行きづらい。

【整備方針】

過度の植栽を整理し、花木植栽、花壇などを増やして、明るく華やかなゾーンとする。斜面地からの湧水を保全しつつ、湧水あるいは水（流れ）を公園の魅力として生かしていく。

②アートイベントゾーン

【現況と課題】

- ・多目的広場の広い空間は、利用者の散策や軽スポーツ、さらに町田さくらまつり、町田時代祭りなどイベントなど幅広く利用されている。
- ・町田さくらまつりは賑わいを見せているものの、植えられている桜の数が少ない。
- ・公園の中央部にあるものの、アートを感じさせる空間が少ない。

【整備方針】

既に公園で開催されているイベントに加え、新たにアート関連イベントの開催など、幅広い利用に対応できるゾーンとする。

また、八幡平遺跡等の敷石住居跡を紹介する「高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設」を整備して、地域の歴史にふれられるゾーンとする。

③美術館ゾーン

【現況と課題】

- ・町田市立国際版画美術館は市内外から多くの利用者が訪れ、美術館の建物と公園の緑と一体となって、良好な空間を形成している。
- ・町田市立国際版画美術館と新たに整備される（仮称）町田市立国際工芸美術館の2つの美術館を中心に、“芸術の杜”を感じさせるゾーンの形成が求められている。
- ・2つの美術館に近接している立地を活かした町田荘跡地の活用が求められている。

【整備方針】

2つの美術館と周囲の豊かな緑が一体となった“芸術の杜”にふさわしい空間づくりを行うとともに、芸術体験の場の整備、芸術の発信できるプログラムの実施などを行っていく。

④芝生ゾーン

【現況と課題】

- ・台地上にあり、眺望に優れた2ha以上のオープンスペースをもっている。
- ・都市計画道路、モノレール整備計画により恒久的な建築物が建てられない。

【整備方針】

将来的にモノレール導入路線となっていることから恒久的な建築物が建てられないが、都営跡地の広い空間と台地上の眺望を活かし、芝生広場として整備し、開放的なゾーンとする。運動や災害時の避難場所となる広場などを整備する。また、不足している公園駐車場を新たに整備する。

■ゾーニング計画図



(2) アクセス・動線計画

動線計画は、現況の供用区域に、新たに供用が予定される区域を加え、公園来園者の利便性や安全性を考慮した動線計画を行う。

計画対象地は、谷戸を利用した公園であり、平坦部が狭く、敷地の多くを斜面地が占めている。このため、園路幅員は限定されることが前提となる。

「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」(平成24年3月 国土交通省)及び「町田市福祉のまちづくり総合推進条例整備基準等マニュアル(2010年10月 町田市)」に対応したものととして計画する一方、これを充足できない動線については、補助動線等を配置して、ガイドラインの主旨を尊重した計画とする。

【動線】

① 主動線

公園の主動線は幅員3m以上を確保し、園内の散策やウォーキング・ジョギング利用の他、管理用動線としても利用する。また、楽しく散策できるように、公園全体の配置が分かる案内板や、施設の場所を示す案内板に加えて、歩いている距離や消費カロリーが表示されているサインを設置する。



② 施設アクセス動線

主動線から各施設を結ぶ樹林地内等の散策路については、有効幅員1.2m以上を確保する。急勾配の箇所では、手すりの設置や階段蹴上げを歩きやすい高さとする。



③ バリアフリー動線

主動線を中心に、車いす利用を含め誰もが移動しやすいバリアフリー動線を確保する。バリアフリー動線では、人と車いすがすれ違えるよう有効幅員1.2m以上とし、縦断勾配は基本的に4%以下とし、地形の状況に応じて8%以下を確保する。



④ アクセス動線

町田駅方面と公園を結ぶアクセス動線では、アートストリートやストリートファニチャー整備等を配置して芸術の杜への期待感を高めるようなイメージとし、実現に向けて関連部署との調整を図る。



【出入口】

①メイン入口

各ゾーンにアクセスするメイン入口を設置する。

●中央口（文学館口）

町田駅方面から文学館通りを通過して公園につながる入口である。園路は約100mの桜並木が続いており景観的にも素晴らしい。公園中心へ至るには約20mの高低差があるため、現在の景観を活かし、スムーズなアプローチができるようスロープ設置を検討する。



階段の一部にスロープを設置

●美術館口

美術館ゾーンに近接し、車利用者も利用する入口である。将来的には、（仮称）国際工芸美術館等が整備されることから、利用が増えると想定される。車と人の動線が交錯しないように工夫する。



●縄文遺跡口

アートイベントゾーンに近接し、車利用者も利用する入口である。駐車場付近に滞留できる広場を設けるとともに、虹と水の広場へはバリアフリーのためのスロープ設置を検討する。



滞留広場イメージ

●北中央口

芝生ゾーンに近接する入口である。将来的には、都市計画道路の整備と併せて整備することが考えられる。その際には、サクラ並木の玄関口となる入口として整備する。



サクラ並木イメージ

●中央橋口

わき水と花の明るいゾーンに近接する入口である。ゾーンに至るには約 10mの高低差があるため、スムーズなアプローチができるようスロープ設置を検討する。



スロープイメージ

②サブ入口

サブ入口は、主に近隣住民が徒歩で訪れる際に利用する入口とする。

また、中心市街地や町田シバヒロ、町田市民文学館等との回遊性を促し、気軽に公園にアクセスできるように位置に設置する。

■ 入口及び園路のバリアフリー検討図

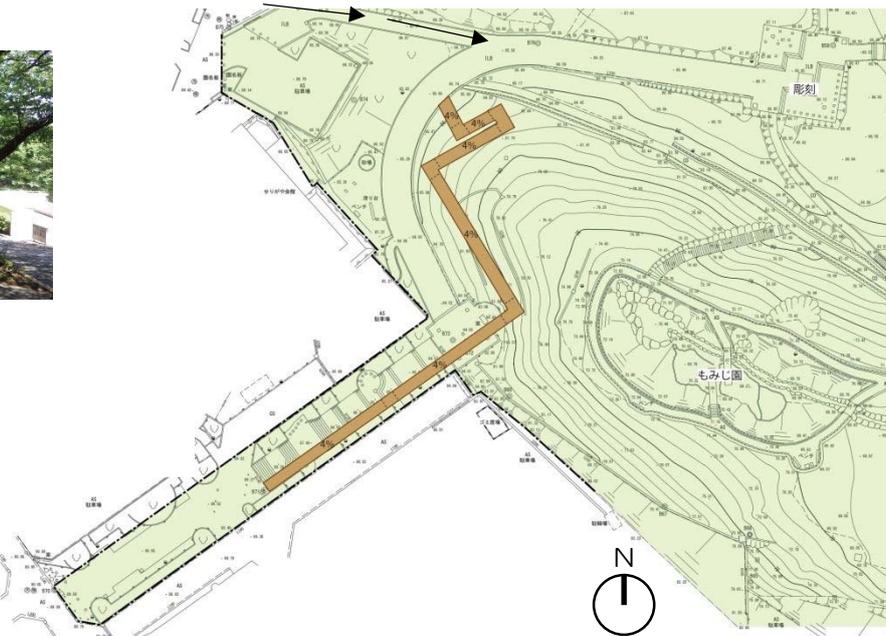


現況写真



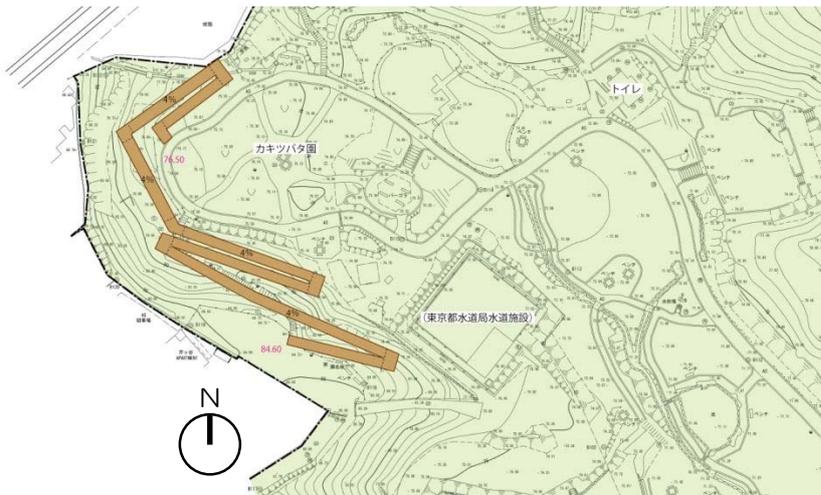
スロープイメージ

【中央口（文学館口）】



※ → バリアフリー基本構想（2011年）での町田駅からのバリアフリールート。

【中央橋口】



※この入口は、園内とともに園外の民有地も合わせて整備しなければバリアフリー化することができない。

【縄文遺跡口】



【交通手段】

公園へのアクセス手段に関連して、路線バスやコミュニティバス導入の可能性を探り、バス運行に関して今後の方向性について検討を行った。

1) 路線バス導入の可能性

⇒ 現在の路線バスでは、町田街道を通る原町田4丁目又は、高ヶ坂センター前で下車し、いずれもバス停から公園まで5分程度歩くことになる。なお町田駅側からのルートは、幅員が狭いこと、勾配が急なことから、公園の直近までアクセスする路線バスが短期で導入されることは難しいと判断される。

なお、都市計画道路3・4・11と都市計画道路3・3・36の道路ネットワークが整備された際には、町田駅と玉川学園をつなぎ、芹ヶ谷公園を経由する路線バスの導入を協議することは十分に考えられる。

2) コミュニティバスの導入の可能性

芹ヶ谷公園、町田市立国際版画美術館へのアクセスについて、2つのルートから検討した。

① 町田駅側から町田市立国際版画美術館へのアクセスするルート

町田駅側からのルートは道路状況を確認したところ、幅員が狭いこと、勾配が急なことから導入は難しいと判断した。

② 成瀬から高ヶ坂を経て、芹ヶ谷公園にアクセスするルート

成瀬から高ヶ坂ルートは、採算上難しいと判断した。

以上より、上記2ルートについては、コミュニティバスの運行による芹ヶ谷公園へのアクセス導入は、難しいと判断した。

3) バス運行に関する考察（まとめ）

⇒ コミュニティバスについては、町田駅から町田市立国際版画美術館への新たなルートの検討などにより導入の可能性について検討を進めていく。

⇒ バス運行については、シャトルバスなどを運行して、利用者ニーズを確認しながら、検討を進めていく。

(3) 導入施設の検討

整備方針及び、ゾーニング計画を踏まえて、必要となる導入施設の考え方を整理し、「新規に整備する施設」、「改修予定施設」、「既存施設」ごとに一覧表にまとめて、表「導入施設の考え方」に示した。

ゾーン名	導入施設の考え方	新規整備施設	改修予定施設	既存施設
美術館ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ●芸術の杜にふさわしい空間とします ●2つの美術館、周囲の緑やせせらぎ、プロムナードが調和した空間を形成します ●(仮称)国際工芸美術館に関わる様々な体験ができる施設として、クラフト体験施設を整備します 	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)国際工芸美術館 ・カフェ&クラフト体験施設 ・バリアフリー対応のエレベータ (仮称)国際工芸美術館内) 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場 (中・大型車、障がい者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際版画美術館 ・もみじ園
アートイベントゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ●多目的広場をアートイベント等、様々な場面で有効活用できるように再整備します ●地域の歴史にふれあえるゾーンとして整備します ●既に開設された「冒険遊び場」を中心に、斜面樹林地を活かした自然とふれあえるゾーンとして活用します 	<ul style="list-style-type: none"> ・高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設 ・ステージ 	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的広場(防災オープンスペース) ・虹と水の広場 	<ul style="list-style-type: none"> ・冒険遊び場 ・ひだまり荘
芝生ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ●台地上の眺望を活かし、開放的なゾーンとして芝生広場を整備します ●災害時の避難場所として整備します ●グラウンドを改修して、使用しやすくします ●不足する駐車場を新たに整備します 	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場(防災オープンスペース) ・健康遊具 ・北中央ロアアプローチ園路 ・あずまや・かまどベンチ(防災対応) ・駐車場(普通車) ・トイレ(通常、防災対応) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド 	<p>—</p>
わき水と花の明るいゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ●過度の植栽は整理し、花木の植栽などを増やして、明るく華やかなゾーンとして整備します ●原則として現況の樹林地を適正な管理で保全するとともに、斜面地の湧水を活用します ●高低差を活かした大型複合遊具を整備します ●散策しながら芸術作品に触れ合えるスペースを配置します 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型複合遊具 ・ホテルの観察路 ・クヌギの広場 ・コナラの森 ・アート展示スペース 	<ul style="list-style-type: none"> ・レストコーナー(警備員室) ・カキツバタ園 ・遊具広場 ・じゃぶじゃぶ池、水路 	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場 ・花見広場 ・藤棚、花木園 ・大池 ・応急給水施設(防災対応)
エントランス及び公園敷地外	<ul style="list-style-type: none"> ●公園へのアクセス性を改善するため、入口をわかりやすくします ●中心市街地のまちづくりと一体的な再整備を行います 	<ul style="list-style-type: none"> ・アートストリートやストリートファニチャー整備 ・入口整備(バリアフリースロープ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・入口整備(園名板等) ・アクセス路整備(カラー舗装) 	<p>—</p>
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ●各ゾーンで使いやすさに配慮してリニューアルを図ります ●ソフト事業として市民要望のある、バーベキュー広場、ドッグランの展開について引き続き市民と協議予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木の伐採 ・桜の植樹 ・トイレ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチ ・水飲み ・公園灯 ・掲示板 ・案内サイン ・花壇 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道 ・野外卓 <p>—</p>

(4) 利用圏域・公園利用者数・利用者層の設定と施設規模の検討

①利用圏域の検討

「平成 19 年度都市公園利用実態調査」の「公園種別距離別利用率」によれば、「総合公園」の公園到達時間は、80%到達時間が 43.6 分となっている。

43.6 分という時間は、徒歩や自転車での利用ではなく、公共交通機関や自家用車による利用であると考えられる。利用交通手段は、自家用車が最も高いことから 43.6 分で到達できるとする距離を求める。

●総合公園の 80%到達時間で到達できる距離=20km/h(※3)×43.6/60=14.5km

(※3) 平均的速度は、平成 22 年度交通センサスの旅行速度整理表を踏まえ、20km/hとする。

一方、「公園種別距離別利用率」を見ても、総合公園は 20km までで 80.9%となっていることから、概ね 20km 範囲までが利用圏域と設定することが妥当であると考えられる。

距離を階層別でみると、2.5~5km が 17.9%と最も多く、次いで 5~10km が 14.1%で、10km までの累積割合が 71.0%を占めている。この範囲までが利用の中核であると考えられる。言い換えれば、10km までが日常的利用範囲、10km 以上の範囲は季節的利用の範囲ということができる。

以上のことから、本公園の利用圏域は 20km とし、うち 10km までを日常利用圏域として設定する。

■公園の 80%到達時間

		街区公園	近隣公園	地区公園	運動公園	総合公園	広域公園	国営公園
80%到達時間	分	14.9	22.4	28.1	42.6	43.6	63.9	103.0

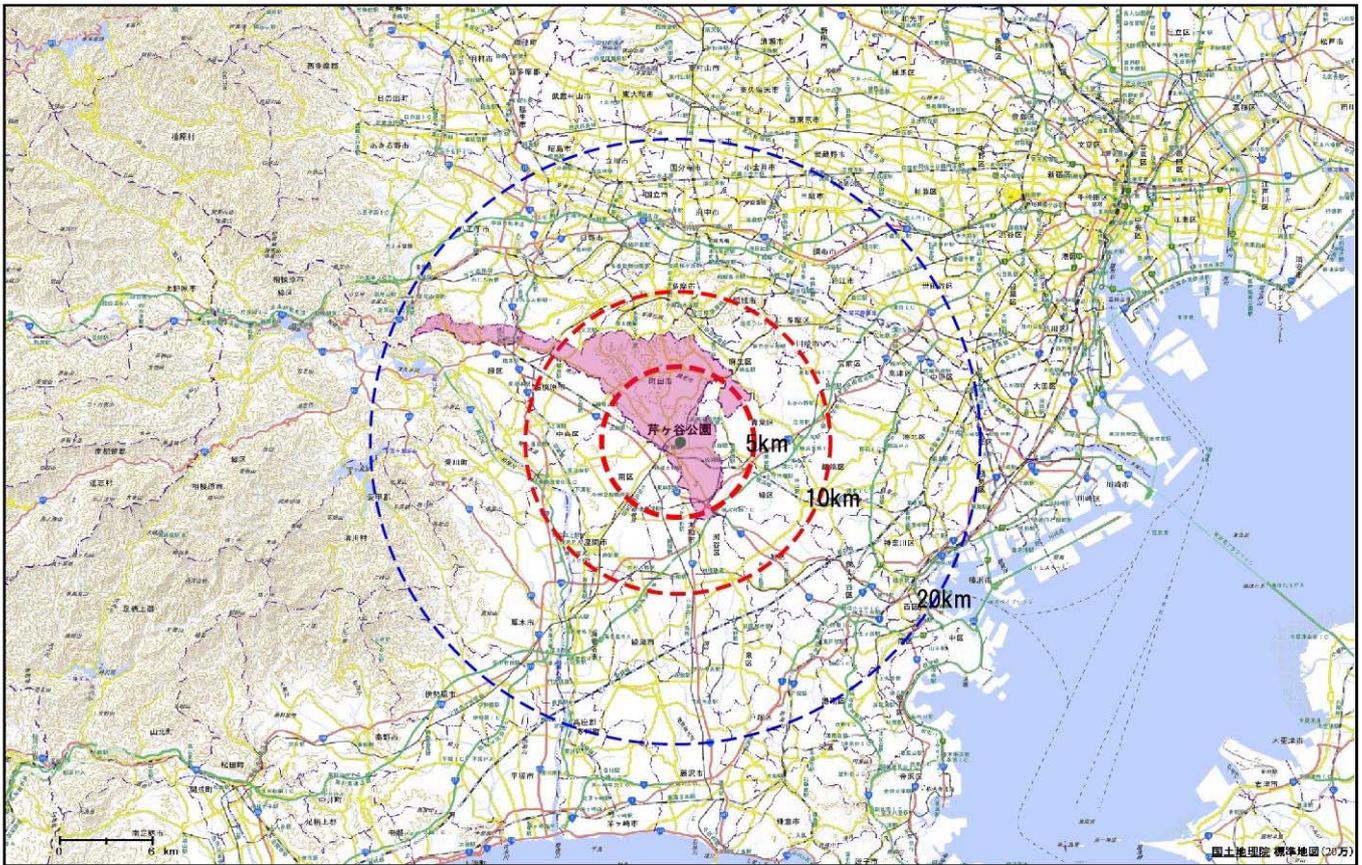
出典：平成 19 年度都市公園利用実態調査

■居住地から公園までの距離と利用者割合

		250m以下	250~500m	500m~1km	1~2.5km	2.5km~5km	5~10km	10~20km	20~50km	50~100km	100km以上	無回答
街区公園	割合(%)	33.6	20.7	15.7	9.6	6.0	3.6	1.8	1.5	0.4	0.8	6.3
	累積割合(%)	—	54.3	70.0	79.6	85.6	89.2	91.1	92.5	92.9	93.7	100.0
近隣公園	割合(%)	18.9	19.6	13.6	11.6	8.2	4.2	3.4	2.4	0.8	0.7	16.7
	累積割合(%)	—	38.5	52.1	63.7	71.9	76.0	79.4	81.8	82.7	83.3	100.0
地区公園	割合(%)	10.9	14.7	15.3	13.2	11.3	10.6	7.4	3.9	1.8	1.6	9.4
	累積割合(%)	—	25.5	40.9	54.1	65.4	76.0	83.4	87.3	89.0	90.6	100.0
運動公園	割合(%)	3.6	6.4	12.9	15.6	17.8	15.6	12.5	7.9	2.2	1.0	4.5
	累積割合(%)	—	10.0	22.9	38.5	56.3	71.9	84.5	92.3	94.5	95.5	100.0
総合公園	割合(%)	4.1	8.1	10.2	16.7	17.9	14.1	9.9	6.2	1.7	4.1	7.1
	累積割合(%)	—	12.2	22.4	39.1	56.9	71.0	80.9	87.1	88.8	92.9	100.0
広域公園	割合(%)	2.7	7.7	6.1	8.4	11.1	14.6	17.0	12.7	8.9	7.6	3.0
	累積割合(%)	—	10.4	16.5	25.0	36.1	50.7	67.7	80.4	89.3	97.0	100.0
国営公園	割合(%)	0.3	0.4	0.9	2.7	4.4	8.3	16.1	26.3	12.6	21.8	6.2
	累積割合(%)	—	0.7	1.5	4.3	8.7	17.0	33.1	59.4	72.0	93.8	100.0

出典：平成 19 年度都市公園利用実態調査

■ 本公園の利用圏域設定図



■ 芹ヶ谷公園の利用圏域の設定

利用圏域	公園を中心に 20km 範囲
日常利用圏域	// 10km 範囲

②公園利用者数の設定

再整備後の芹ヶ谷公園の利用者数を「平成 19 年度都市公園利用実態調査」のデータを用いて推計する。同調査は、財団法人公園緑地管理財団により約 6 年ごとに実施されている。

公園利用者数は、同調査における「総合公園」のデータを使用して設定する。「総合公園」のデータを使用した理由は以下のとおりである。

- ・「特殊公園」（芹ヶ谷公園は「風致公園」）は、データ収集・解析するには全国的に数が少なく、上記利用実態調査の対象となっていない。
- ・本公園規模は総合公園（10ha～）の標準規模とほぼ同規模である。
- ・軽スポーツ可能な広場、遊具、散策道、その他レクリエーション施設が整備されることにより、遊ぶ、学ぶ、体験するなど、総合的なレクリエーションに対応することが可能で、実質的に「総合公園」としての特徴に近い。

1) 平均入園者（利用者）数の推計

「平成 19 年度都市公園利用実態調査」によると「総合公園」における 1ha あたりの入園者数は以下のとおりである。

- 休日 175 人/ha、平日 119 人/ha

これにより、本公園の平均入園者数を推計する。

- 平均入園者数（休日）＝1 ha あたり平均入園者数（「総合公園・休日」）×利用可能面積（※1）
＝175 人/ha×11ha（※2）
＝1,925 人
- 平均入園者数（平日）＝1 ha あたり平均入園者数（「総合公園・平日」）×利用可能面積
＝119 人/ha×11ha
＝1,309 人

（※1）利用可能面積は再整備後の本公園の供用面積から立入できない植栽地、（仮称）町田市立国際工芸美術館（建物内入場者は公園利用者とは別カウントとする）、水道局施設等を除いた区域とする。

（※2）園路、ベンチ等を設置できない急傾斜樹林地など、利用できない区域を計画対象区域の概ね 30%と仮定、利用可能区域を残りの 70%、約 11ha と設定した。

2) 年間入園者（利用者）数の推計

推計した休日 1 日あたりの平均入園者数 1,925 人を利用し、年間利用者数を推計する。推計の前提となる指標（利用集中度）については、以下のデータを使用する。

集中度の考え方	集中度	出典
1 季型公園の最大ピーク日率	1/30 (3.33%)	造園ハンドブック
2 季型公園の最大ピーク日率	1/40 (2.50%)	
3 季型公園の最大ピーク日率	1/60 (1.67%)	
4 季型公園の最大ピーク日率	1/100 (1.00%)	
年間で 20 番目の集中度	0.9～1.1%	「公園の利用」(地球社/ 1984、著者：青木宏一郎)
年間で 30 番目の集中度	0.7～0.8%	

本公園は、市街地にあり日常的な公園利用が通年可能であるため、4季型公園の最大ピーク日率を採用する。

●年間利用者数＝平均入園者数（休日）×（1/集中度）
 ＝1,925人×（1/1.0%）＝192,500人

3) 同時滞在者数

●休日の同時滞在者数＝平均入園者数（休日）×回転率（1/回転数）（※3）
 ＝1,925人×1/3
 ＝642人

●平日の最大時在園者数＝平均入園者数（平日）×回転率（1/回転数）
 ＝1,309人×1/4.5
 ＝291人

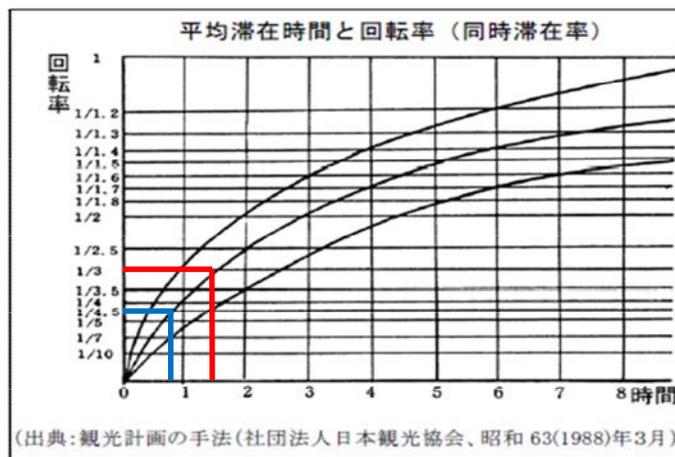
（※3）総合公園の休日滞在時間 1.41 時間（下表「公園種別ごとの在園時間」）であることから、回転率を3回転（下図、「平均滞在時間と回転率の相関図」の赤線）とし、さらに平日滞在時間が0.89時間であることから回転率を4.5回転（下図青線）と設定する。

■公園種別ごとの在園時間

		街区公園	近隣公園	地区公園	運動公園	総合公園	広域公園
在園時間	休日（時間）	1.01	0.72	1.03	2.07	1.41	1.89
	平日（時間）	0.53	0.59	0.75	1.15	0.89	1.67

出典：平成19年度都市公園利用実態調査

■平均滞在時間と回転率の相関図



以上の推計値をもとに、本公園の利用者数を以下のとおり設定する。

■芹ヶ谷公園利用者数の設定

平均入園者数（休日）	1,925人
平均入園者数（平日）	1,309人
年間利用者数の推計値	192,500人
同時滞在者数（休日）	642人
同時滞在者数（平日）	291人

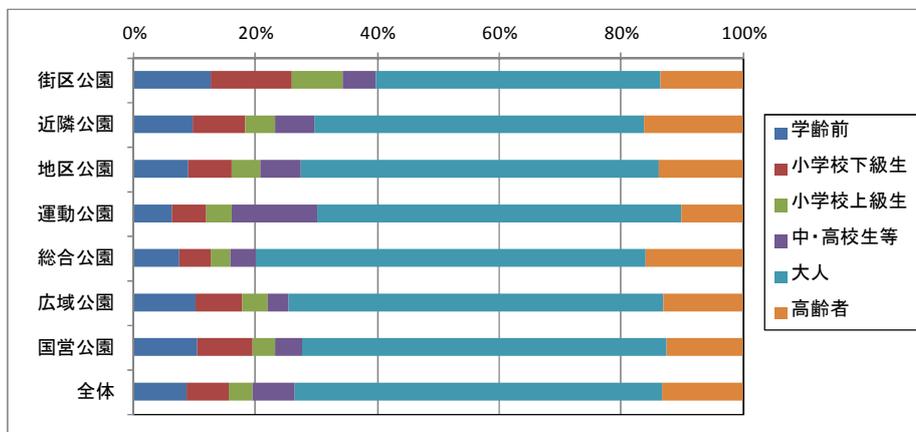
③利用者層の設定

利用者層の検討についても「平成 19 年度都市公園利用実態調査」の「総合公園」のデータを使用する。

「利用者の構成」によれば、「総合公園」は他の公園と比べ、大人の利用が最も高い数値となっている。理由として、総合公園は施設内容が幅広い年齢層を対象としており、遊具や運動施設に特化していないこと、また、遠距離からファミリーで利用することが多い広域公園や国営公園より、友達、仲間など大人同士が連れだった利用がやや多いなどが推測される。

■ 総合公園利用者の年齢構成

		学齢前	小学校下級生	小学校上級生	中・高校生等	大人	高齢者	計
街区公園	休日	12.6	13.3	8.4	5.3	46.7	13.7	100.0
	平日	13.7	12.4	8.0	4.1	46.7	15.0	100.0
近隣公園	休日	9.6	8.6	5.0	6.5	54.0	16.3	100.0
	平日	9.3	5.7	3.4	9.6	52.3	19.7	100.1
地区公園	休日	9.0	7.1	4.7	6.5	58.7	13.9	100.0
	平日	11.5	4.3	2.9	9.8	52.7	18.7	100.0
運動公園	休日	6.1	5.7	4.3	13.9	59.8	10.1	99.9
	平日	6.4	2.5	1.6	9.8	64.1	15.5	100.0
総合公園	休日	7.4	5.3	3.1	4.3	63.9	16.0	100.0
	平日	6.9	2.8	2.6	5.8	65.6	16.2	100.0
広域公園	休日	10.2	7.5	4.3	3.4	61.4	13.2	100.0
	平日	6.9	4.7	4.3	5.7	57.3	21.0	100.0
国営公園	休日	10.5	8.9	3.7	4.5	59.6	12.6	100.0
	平日	7.1	4.3	11.4	7.2	52.2	17.7	100.0
全体	休日	8.6	7.0	4.0	6.7	60.4	13.3	100.0
	平日	7.8	3.9	3.9	7.6	59.3	17.5	100.0



出典：平成 19 年度都市公園利用実態調査（高齢者は 65 歳以上）

再整備後の本公園は、冒険遊び場及び大型複合遊具などで学齢前、小学生下級生・上級生の利用が増加することが予想される。さらに芝生広場整備でファミリー型の利用により、学齢前の子ども利用が増える可能性もある。

一方で、芸術の杜にふさわしい公園づくり、デートスポットとなるおしゃれな空間づくり、さらに様々なイベントやワークショップの開催などで華やかさの演出も公園の再整備方針に示されている。

以上のことから、年齢構成の変化として、学齢前及び小学生層、さらに大人層も再整備後の利用増加が見込まれる。

④ 便益施設の配置と規模の設定

1) 駐車場

駐車場必要台数は、平均入園者（休日）の推計値及び「平成 19 年度都市公園利用実態調査」の「交通手段の経年変化」の「総合公園・自家用車」、さらに「回転率」などを利用して算定する。

【乗用車駐車場台数】

●乗用車必要台数＝平均入園者数（休日）×自家用車利用率×同乗率×回転率
 $= 1,925 \text{ 人} (\text{※1}) \times 50.6\% (\text{※2}) \times 1 / 2.5 \text{ 人} (\text{※3}) \times 1 / 3$
 $= 130 \text{ 台}$ （うち2台を障がい者用専用区画とする。）(※4)

●参考：既整備公園駐車場台数＝31 台

●新規公園駐車場必要台数＝乗用車必要台数 ＝130 台

(※1) 公園利用者数の設定と利用者層・利用圏域の検討で求めた平均入園者数。

(※2) 総合公園の自家用車利用率は増加しており、平成 19 年値の 50.6%を採用する。

(※3) 平均的な自動車同乗率である 2.5 人/台を使用する。

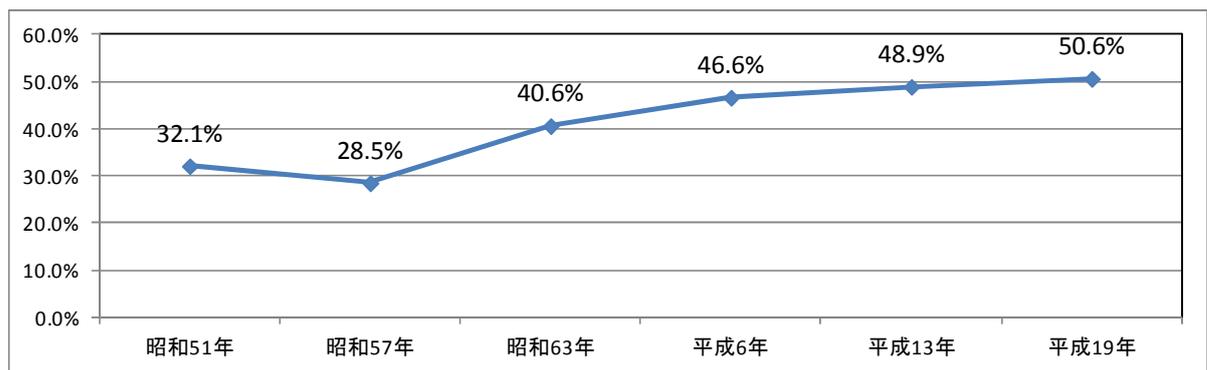
(※4) 「障害者等用駐車区画の適正利用に向けたガイドライン」（東京都 2013 年）より、「障がい者用駐車区画は全駐車台数が 200 以下の場合、全駐車台数 1/50 以上」に基づく。

■ 公園利用の交通手段別比率 (※2)

総合公園 (平成 19 年)	徒歩	自転車	バス、電車等 の交通機関	貸し切り バス	自家用車	その他
	23.7%	12.8%	9.4%	1.0%	50.6%	2.4%

出典：平成 19 年度都市公園利用実態調査

■ 総合公園における自家用車利用率の推移 (※2)



出典：平成 19 年度都市公園利用実態調査

【大型車駐車場台数】

大型車駐車場台数の設定において、団体の利用は主に自然学習などで利用する学校行事や子ども会行事を対象として設定を行う。

●大型車必要台数

小学校3クラス × 2校が同時来園可能 =6台 (大型バス)

※幼稚園等のマイクロバスも同時来園可能な台数 =2台 (マイクロバス)

(※5) 大型車は学生・生徒 1 クラス分 (貸し切りバス 40 人程度) と設定。

バス運行の検討 (p38) にもあるが、本公園が谷戸を活かした公園であるため、特に高齢者や幼児にとって坂道、階段などによる公園へのアクセスに課題があるという指摘がある。また、JR 町田駅から芹ヶ谷会館横の公園入口までの距離約 700m (町田市立国際版画美術館までは約 900m) についても、高齢者、幼児にとって負担となる。

さらに、交通の多い町田街道を横断すること、公園の位置がわかりにくいという意見もあり、より安全かつ快適にアクセスする方法の検討が求められている。

このため、乗用車による利用利便性を高めるため、利用者に対し十分な駐車スペースを提供することにより、本公園へのアクセスの課題への対応とする。

現在の公園駐車場を中・大型バスの駐車場として検討した結果、大型車 6 台の駐車場とマイクロバス 2 台、あわせて身体障がい者専用駐車場を 2 台分確保する。

また、新たに整備される (仮称) 国際工芸美術館の必要駐車場台数の推計は 35 台、国際版画美術館は 94 台と推計とされている。

上記を踏まえると、必要駐車台数は、「新規公園駐車場必要台数 130 台」に「(仮称) 国際工芸美術館同様に 35 台」、「国際版画美術館は 94 台」で 259 台となる。

ただし、「国際版画美術館駐車場 (第二駐車場) 分 70 台」は上記から差し引くとともに、今後整備される「高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設整備分」10 台程度を想定し、本再整備計画では 200 台を必要台数として計上するが、今後詳細検討が進んだ段階で精査を行うものとする。

この結果を踏まえ、新規公園駐車場必要台数については、以下の方針とする。

○大型バス 6 台

○マイクロバス 2 台

○乗用車駐車場 200 台

⇒公園の必要台数 130 台に加えて、国際版画美術館、(仮称) 国際工芸美術館、高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設等を勘案し、合計 200 台分を確保)

○障がい者駐車場 (各駐車場に 2 台分、計 4 台分のスペース)

(参考)

3. 国際版画美術館 必要駐車場台数の推計

(1) 時間帯別滞留台数の推計

国際版画美術館のピーク月(1月)の入館者数は31,429人である。国際版画美術館の時間帯別入場割合を放物線状で推移すると想定し、入館者が平均2時間滞留する(公園散策を含む)こととして、最大滞留者数を推計すると下記のとおりである。

※国際版画美術館の開館時間は土・日・祝日 午前10時～午後5時30分(入場は5時まで)となっている。

○国際版画美術館

ピーク月(1月)入館者数 (A)	31,429人
------------------	---------

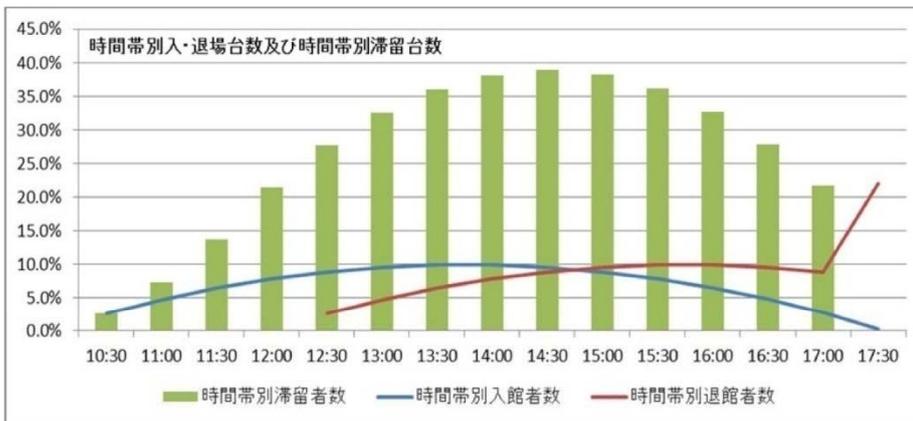
	日数(B)	繁閑比(C)	(D)=(B) ×(C)	平均入館者 数/日 (F)	車利用率	1台当たり 乗車人数	1日当たり 利用台数
休日	5日	3.0	15.0	2,418人	30%	3人	242台/日
土曜日	4日	2.5	10.0	2,015人	30%	3人	201台/日
平日	14日	1.0	14.0	806人	30%	3人	81台/日
休館日	8日						
合計	31日		(E)=39.0				

(F)=(A)÷(E)×(D)÷(B)

(繁閑比(C)は設定値)

○時間帯別入場割合

日・祝日	10:00 ?	10:30 ?	11:00 ?	11:30 ?	12:00 ?	12:30 ?	13:00 ?	13:30 ?	14:00 ?	14:30 ?	15:00 ?	15:30 ?	16:00 ?	16:30 ?	17:00 ?	日祝日 平均 合計	最大値
時間帯別入館者数	2.6%	4.7%	6.4%	7.8%	8.8%	9.5%	9.9%	9.9%	9.5%	8.9%	7.8%	6.5%	4.7%	2.7%	0.3%	100.0%	9.9%
時間帯別退館者数					2.6%	4.7%	6.4%	7.8%	8.8%	9.5%	9.9%	9.9%	9.5%	8.9%	22.0%	100.0%	22.0%
時間帯別滞留者数	2.6%	7.3%	13.7%	21.5%	27.7%	32.6%	36.1%	38.1%	38.9%	38.2%	36.1%	32.7%	27.9%	21.7%	0.0%		38.9%



○時間帯別入場台数

日・祝日	10:00 ?	10:30 ?	11:00 ?	11:30 ?	12:00 ?	12:30 ?	13:00 ?	13:30 ?	14:00 ?	14:30 ?	15:00 ?	15:30 ?	16:00 ?	16:30 ?	17:00 ?	日祝日 平均 合計	最大値
時間帯別入館者数	6台	11台	15台	19台	21台	23台	24台	24台	23台	21台	19台	16台	11台	6台	1台	242台	24台
時間帯別退館者数					6台	11台	15台	19台	21台	23台	24台	24台	23台	21台	53台	242台	53台
時間帯別滞留者数	6台	18台	33台	52台	67台	79台	87台	92台	94台	92台	87台	79台	67台	52台	0台		94台

国際版画美術館の最大駐車滞留台数は94台という結果を得た。但し、企画展やイベントによる入館者数も加味されている。

4. (仮称)国際工芸美術館 必要駐車台数の推計

(1)(仮称)国際工芸美術館時間帯別滞留台数の推計

(仮称)国際工芸美術館のピーク月(8月)の入館者数推計値は12,700人である。(仮称)国際工芸美術館の時間帯別入場割合を放物線状で推移すると想定し、入館者が平均2時間滞留する(公園散歩を含む)こととして、最大滞留者数を推計すると下記のとおりである。

※(仮称)国際工芸美術館の開館時間は国際版画美術館に準ずるものとする。

(仮称)国際工芸美術館

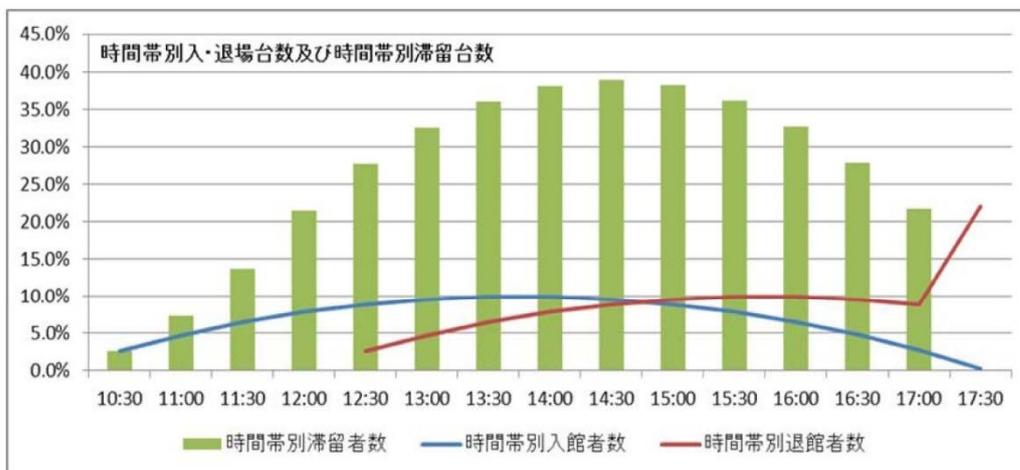
8月入館者数(推計値)(A)	12,700人
----------------	---------

	日数(B)	繁閑比(C)	(D) = (B) × (C)	平均入館者数/日(F)	車利用率	1台あたり利用台数	1日あたり利用台数
休日	4日	3.0	12.0	896人	30%	3人	90台/日
土曜日	5日	2.5	12.5	747人	30%	3人	75台/日
平日	18日	1.0	18.0	298人	30%	3人	30台/日
休館日	4日						
合計	31日		(E) = 42.5				(F) = (A) ÷ (E) × (D) ÷ (B)

(繁閑比(C)は設定値)

時間帯別入場割合

日・祝日	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	日祝日 平均 合計	最大値
	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30		
時間帯別入館者数	2.6%	4.7%	6.4%	7.8%	8.8%	9.5%	9.9%	9.9%	9.5%	8.9%	7.8%	6.5%	4.7%	2.7%	0.3%	100.0%	9.9%
時間帯別退館者数					2.6%	4.7%	6.4%	7.8%	8.8%	9.5%	9.9%	9.9%	9.5%	8.9%	22.0%	100.0%	22.0%
時間帯別滞留者数	2.6%	7.3%	13.7%	21.5%	27.7%	32.5%	36.0%	38.1%	38.8%	38.2%	36.1%	32.7%	27.9%	21.7%	0.0%		38.9%



時間帯別入場台数

日・祝日	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	日祝日 平均 合計	最大値
	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30		
時間帯別入館者数	2	4	6	7	8	9	9	9	9	8	7	6	4	2	0	90	9台
時間帯別退館者数					2	4	6	7	8	9	9	9	9	8	20	90	20台
時間帯別滞留者数	2	7	12	19	25	29	32	34	35	34	32	29	25	20	0		35台

(仮称)国際工芸美術館の最大駐車滞留台数は35台という結果を得た。入館者の時間帯が重なることなどを考慮すると40台程度準備する必要があると考えられる。

2) トイレ

【基本的な考え方】

トイレの箇所数は、最大公園利用者数（休日）と単位面積あたりの利用者数で公園の最大同時利用者数を求め、これに便所同時利用率を設定して算出する。

●必要穴数

$$\begin{aligned} \text{公園必要穴数} &= \text{同時滞在者数（休日）} \times \text{便所の同時利用率} \\ &= 642 \text{ 人} \times 1.37\% \text{（※6）} \\ &= 8.8 \text{ 穴} \end{aligned}$$

（※6）便所の同時利用率 1.37% = 1穴 / 73人（「防災公園計画・設計ガイドライン」（財）都市緑化開発機構を引用。

●既整備穴数

現在本公園内には下記設備トイレが2箇所（レストコーナー脇、多目的広場）の計12穴整備されている。

- ・男子用（小2、大1）
- ・女子用（大2）
- ・障がい者用（大1）

上記2つのトイレを全改修し、穴数を維持する。

●新規整備穴数

数値としての必要穴数は充足している。ただし、防災避難所に指定されていること、公園区域が南北に長く、高低差等があることから、適正な配置として、台地上の都営跡地周辺に、既設トイレと同じ穴数をもつ、新たなトイレ1箇所の整備を行う。

- ・男子用（小2、大1）
- ・女子用（大2）
- ・多目的トイレ1（障がい者、親子利用可能、おむつ替え台付き）

なお、本公園は町田市地域防災計画において、避難広場（避難場所）に指定されており、防災計画に基づき、避難者数の設定及び災害時におけるトイレの必要な穴数等について今後検討する。

またイベント等、特定日に利用者が集中する場合は、イベント規模に応じて、都度仮設トイレを設置するものとし、本計画では日常利用に応じた整備穴数での対応とする。

(5) 利用者の行動形態分析

①調査目的

芹ヶ谷公園内の平日・休日における利用実態を把握することを目的とする。

②調査方法

公園内を大エリア3区分して各エリアに調査員を1人配置し、小エリア15区分別において観察された利用者数を把握する。

利用者数については、毎正時の断面数をカウントし、利用者層（未就学児、小中学生、若者、中年、老人）、利用形態（個人・団体）、利用行動（休憩・食事・細事・運動等）に分類して整理する。

利用者層・利用形態・利用行動の区分については、以下の通りである。

【利用者層】

	利用者層	備考
1	未就学児	
2	小中学生	
3	若者	高校生、大学生、20代
4	中年	概ね30～50代
5	老年	概ね60代以上

【利用形態】

	利用形態	備考
1	個人	個人の人数をカウント
2	団体	グループ全員の人数をカウント

【利用行動】

	利用行動	備考
1	休憩	ベンチに座る、仲間とおしゃべりする 等
2	食事	
3	細事（携帯、写生、読書など）	携帯を見る、写生、読書、音楽、唄う 等
4	ジョギング・運動	ジョギング、ゲートボール、キャッチボール、サッカー 等
5	遊び	遊具を使う遊び、鬼ごっこ、シャボン玉 昆虫採集、花摘み 等
6	通り抜け・散歩	
7	犬の散歩	
8	その他	1～7に含まれない行動

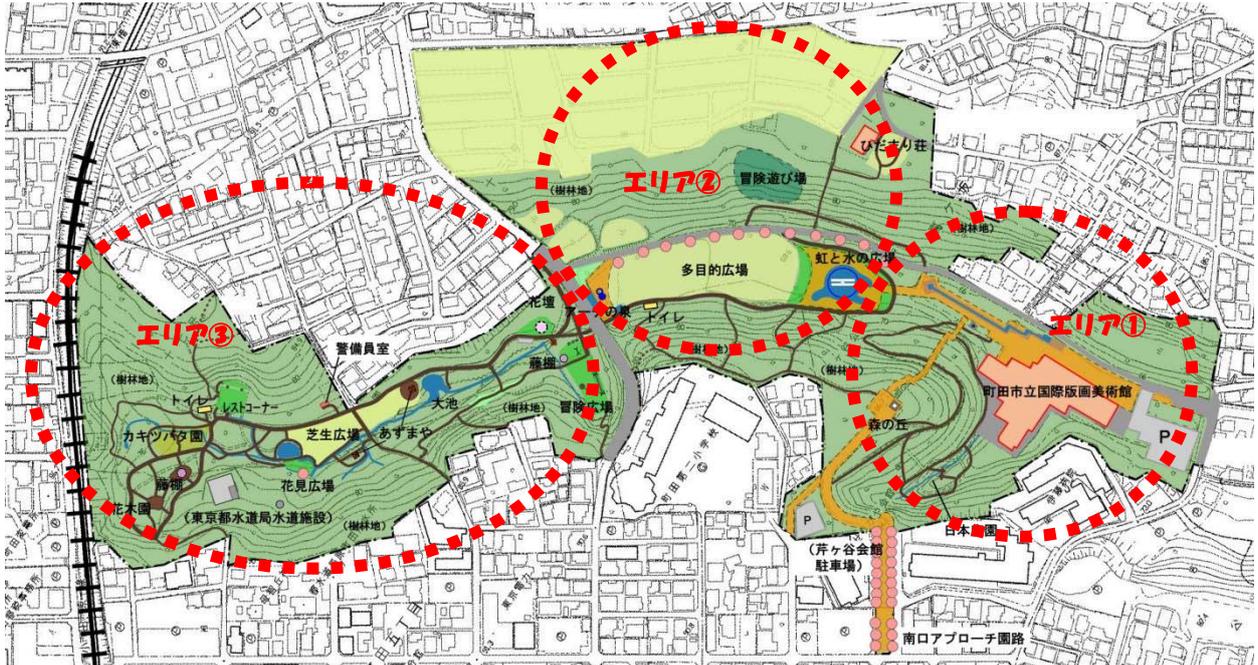
③調査実施日

調査日は、平日・休日で各1日とし、調査時間は9:00~16:00で実施した。

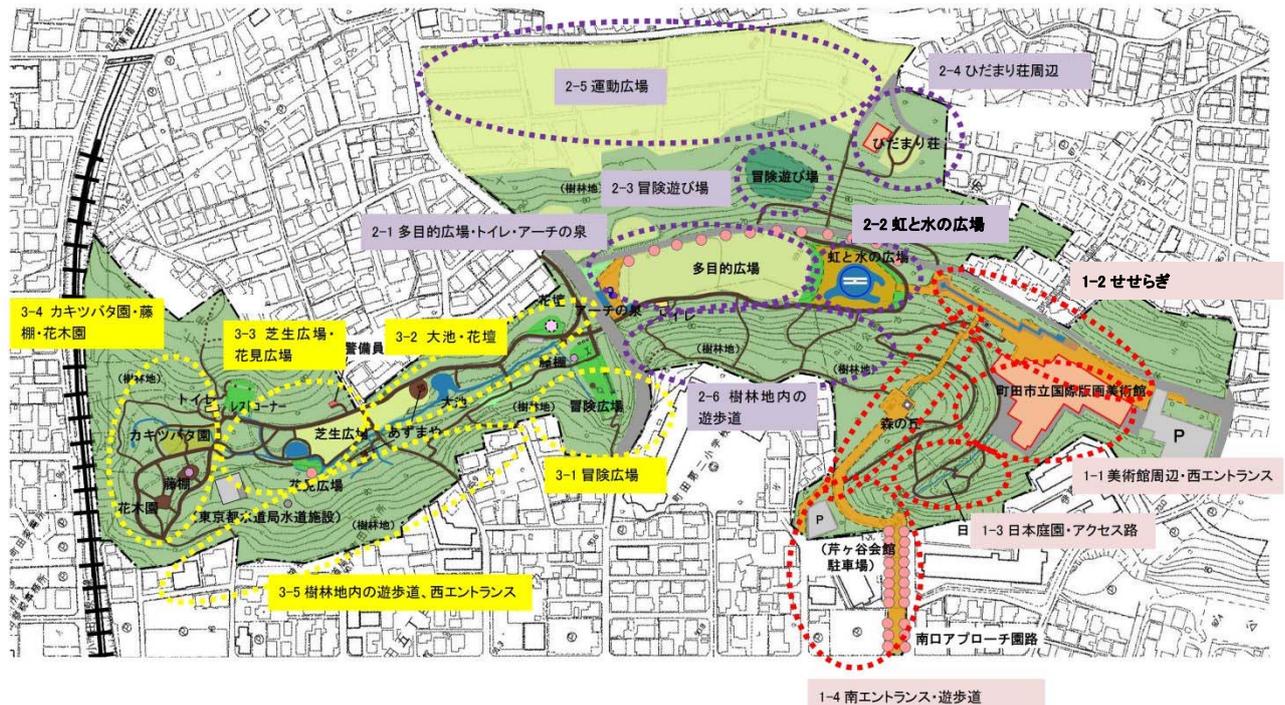
【調査日時】

	日時		調査員
平日調査	7月15日(水)	9:00~16:00	3名
休日調査	7月25日(土)	9:00~16:00	3名

【大エリア】



【小エリア】



④考察

芹ヶ谷公園は、水遊び場や冒険遊び場・美術館など様々な機能を有し、市街地にありながら豊かな自然や水辺に囲まれた落ち着いた空間には、老若男女が様々に過ごしている様子が伺えた。

全体の特徴を以下に整理した。

- 特徴-1：(夏季調査のため)水遊び場の利用が最も多く、次いで多目的広場で利用が多い。
- 特徴-2：平日は夕方、休日は正午前にピークがあるが、一日を通じて利用者数の増減は少ない。
- 特徴-3：遊び、散歩などの利用が多いが、各エリアで多様な利用がなされている。
- 特徴-4：グループ利用(特に親子づれ)の割合が多い。

また、以下にエリアごとの利用行動の特徴を整理した。

- エリア1では、エントランス部分であることから、住宅地や中心市街地方面への散歩・通り抜けが多く見られている。また、暑い時期であったことから、せせらぎ(水辺)の人气が高く、小さな子ども連れのファミリーが多くみられた。平日には、近くの保育園児や幼稚園バスによる遠方利用も見られた。



- エリア2では、多目的広場や冒険遊び場、運動広場、水辺などの広々とした空間で体を動かす利用が多く見られた。暑い時期であったことから、虹と水の広場の利用が多く、賑やかな歓声が響いており、子どもたちだけでなく付き添いの大人や学生にも人気である。水辺と樹林地が涼やかな景観を創出しており、休憩利用も多く、常に人の賑わいがある空間である。

冒険遊び場では、近くの保育園利用も見られた。

暫定利用である運動広場では、ジョギング・運動利用が見られた。



- エリア3では、他のエリアに比べ利用者は少ないが、木陰や水辺の多い静かな空間で、散歩やゆっくりと休憩する利用が見られた。休日には、町田市内のファミリーサークルによる水辺や樹林地で生き物を探すイベントが行われており、自然とのふれあいを楽しむ様子が見られた。また、平日の放課後には、昆虫採集する子どもたちの姿が見られた。



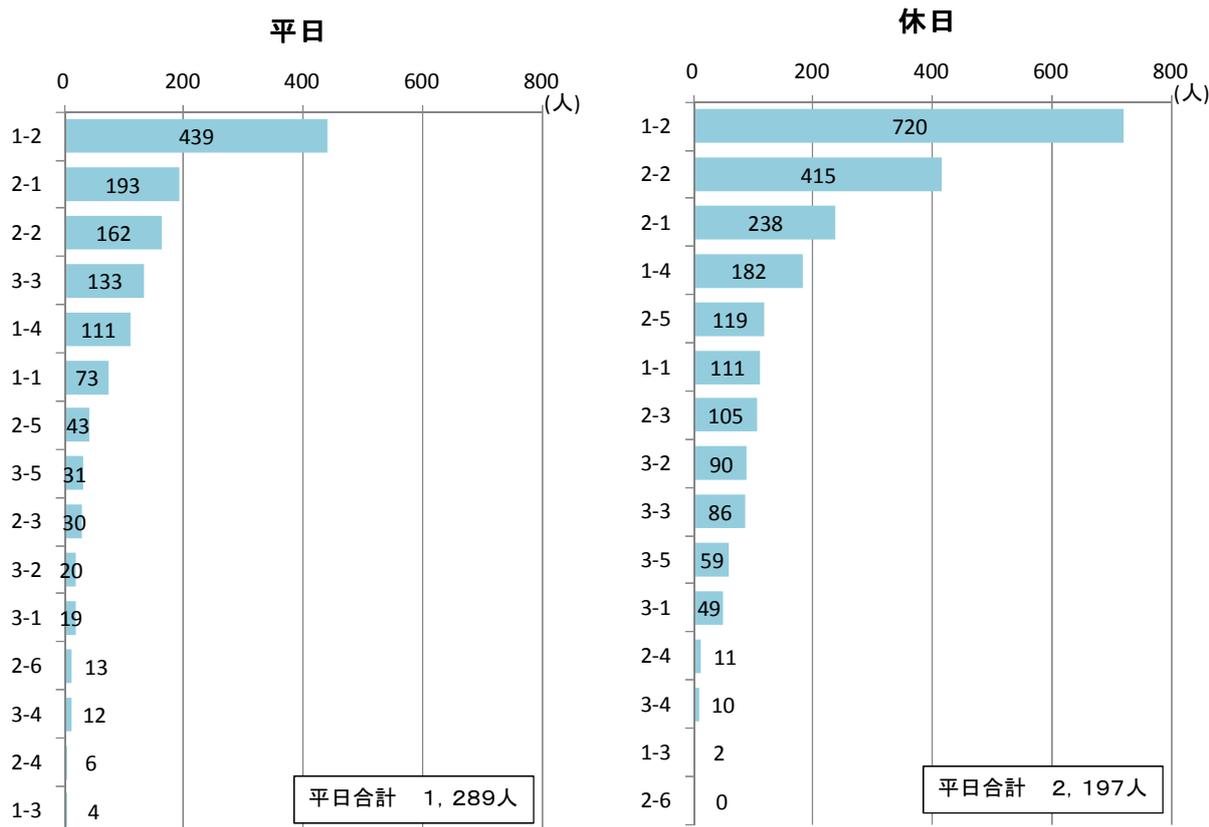
⑤調査結果

【利用者数】

■ 毎正時断面利用者数については、平日 1,289 人、休日 2,197 人であり、休日の利用者が平日の 1.7 倍である

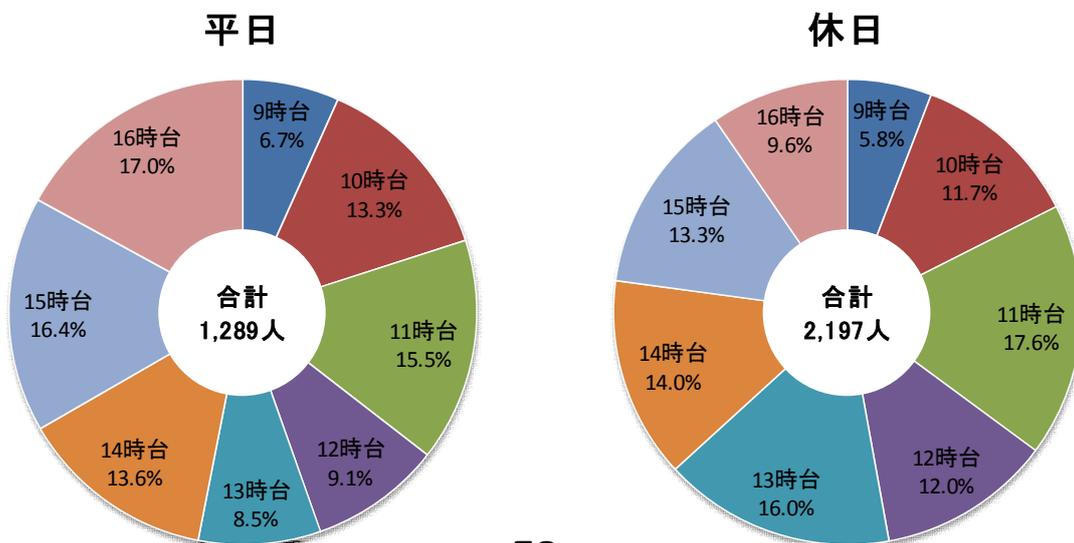
※（４）で算出した利用者数推計値とほぼ同数（平日 1,309 人、休日 1,925 人） p44 参照。

■ エリア別の利用状況では、平休日ともに 1-2 セセラギが最も多く、次いで 2-1 多目的広場・トイシ・アーチの泉、2-2 虹と水の広場となっている。



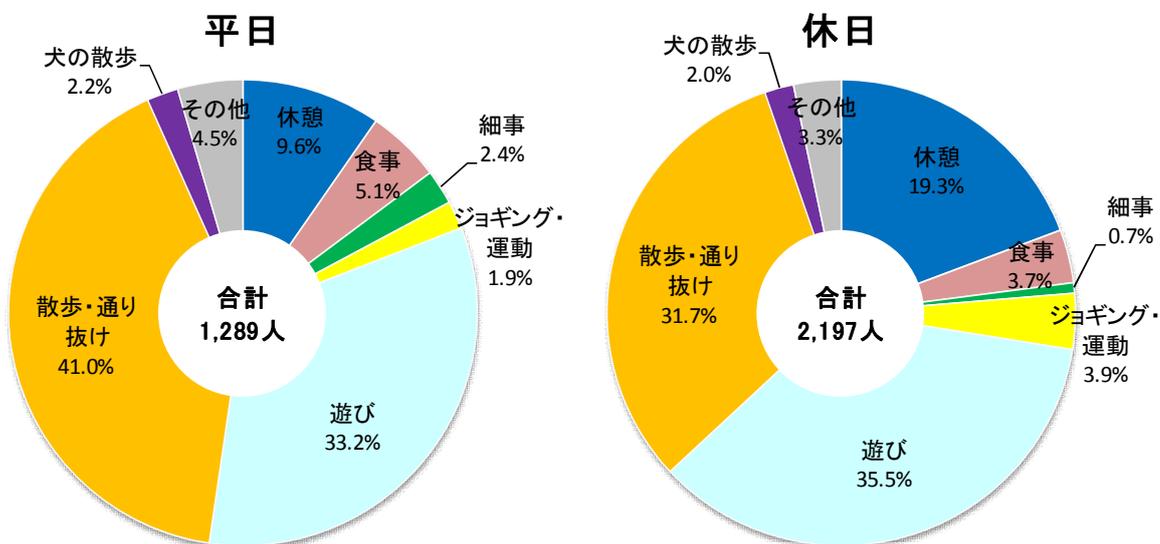
【時間帯別の利用者数】

■ 時間帯別にみると、平日は夕方、休日は正午前にピークがあるが、9 時台を除いた一日を通じての利用者数の増減は少ない。



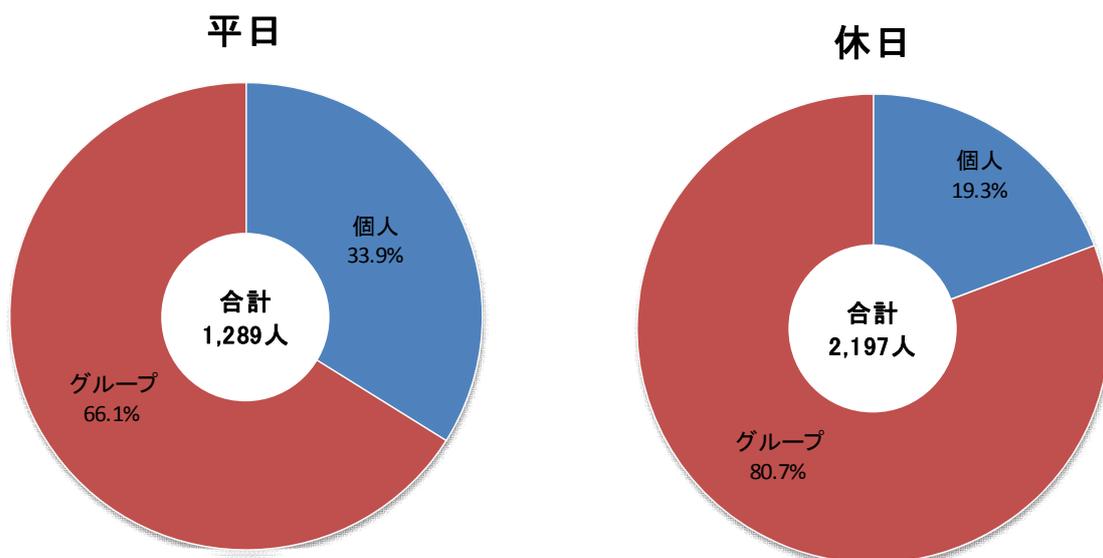
【利用行動別の利用者数】

■ 利用行動別にみると、平日は散歩・通り抜け（41.0%）、遊び（33.2%）、休憩（9.6%）であり、休日は遊び（35.5%）、散歩・通り抜け（31.7%）、休憩（19.3%）となっている。



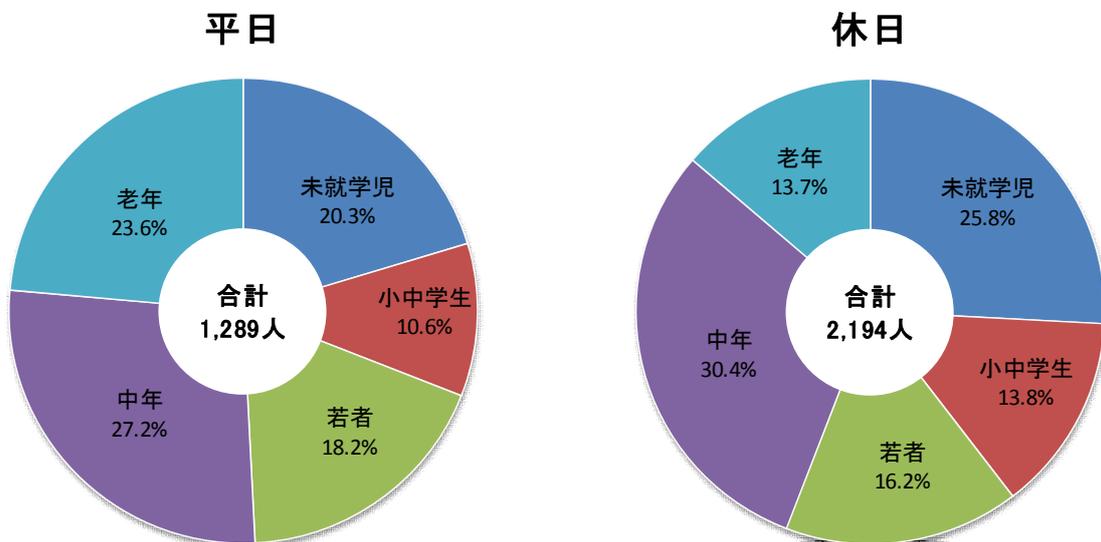
【利用形態別の利用者数】

■ 利用形態別にみると、平日は個人 33.9%、グループ 66.1%であり、休日は個人 19.3%、グループ 80.7%となっている。



【利用者層別の利用者数】

- 利用者の年齢別で見ると、平日は中年（27.2%）、老人（23.6%）が半数を占めており、休日では中年（30.4%）、未就学児（25.8%）となっている。休日の利用者は平日に比べて、小さい子ども連れの家族利用が多いと考えられる。



【エリア別×利用形態別の利用者ランキング】

- 利用形態・小エリアについて、利用者の多い順に整理する。平日は、水辺エリアでの遊びや散歩・通り抜けが多くなっている。休日では、水辺エリアでの遊びが多い。

平日		
利用形態	小エリア	利用者数
遊び	1-2	219
遊び	2-2	158
散歩・通り抜け	1-2	157
散歩・通り抜け	2-1	121
散歩・通り抜け	3-3	94
散歩・通り抜け	1-4	90
休憩	1-1	34
食事	1-2	34
休憩	2-1	32
食事	1-1	24
遊び	2-3	18
散歩・通り抜け	3-5	18
休憩	1-2	17
ジョギング・運動	2-5	14
その他	1-1	14
遊び	2-1	14
休憩	3-3	14

休日		
利用形態	小エリア	利用者数
遊び	1-2	357
散歩・通り抜け	1-2	285
遊び	2-2	192
休憩	2-2	155
散歩・通り抜け	1-4	133
休憩	2-1	108
散歩・通り抜け	2-1	86
遊び	2-3	62
ジョギング・運動	2-5	53
散歩・通り抜け	3-2	52
休憩	1-1	51
遊び	3-3	51
散歩・通り抜け	2-2	50
遊び	3-5	41
食事	1-1	33

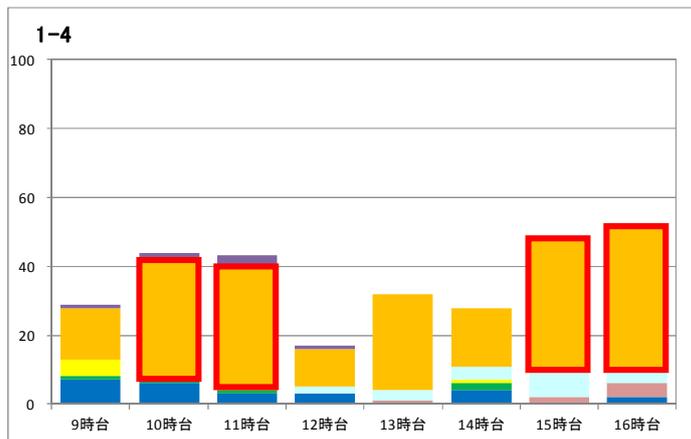
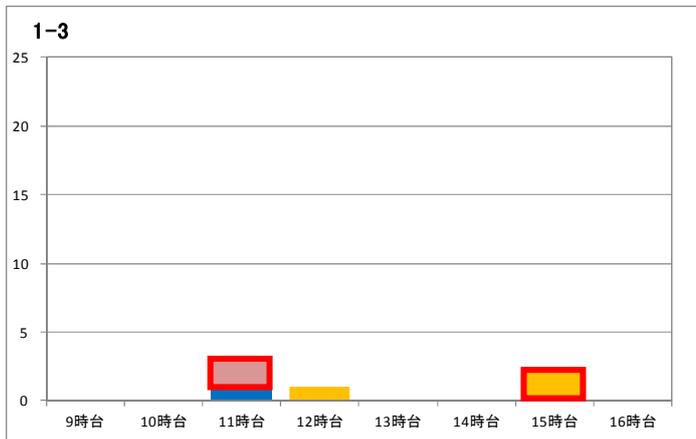
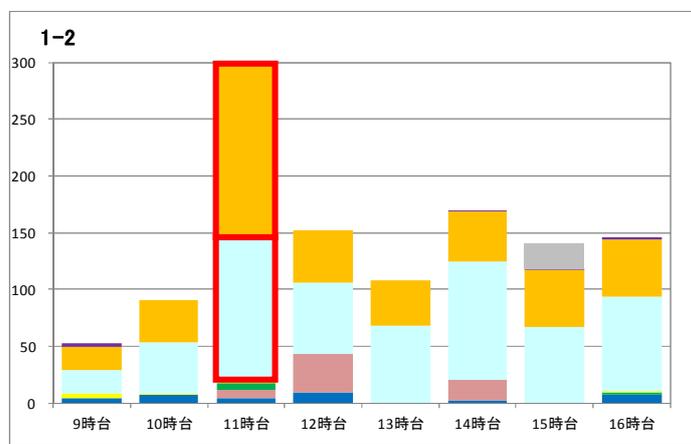
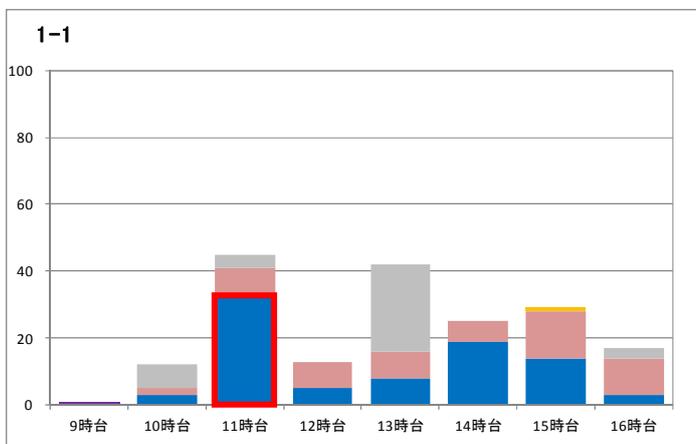
【エリア別×利用形態別×時間帯別の利用者数（大エリア別）】

■エリア 1

本エリアでは、1-2 せせらぎの利用が最も多く、1-3 日本庭園・アクセス路付近は利用者が少ない。

各エリアにおける主な「利用形態×利用時間帯」は以下の通りである。（グラフ中の赤枠）

- ・1-1：11 時台×休憩
- ・1-2：11 時台×遊び、11 時台×散歩・通り抜け
- ・1-3：11 時台×食事、15 時台×散歩・通り抜け
- ・1-4：10、11、15、16 時台×散歩・通り抜け



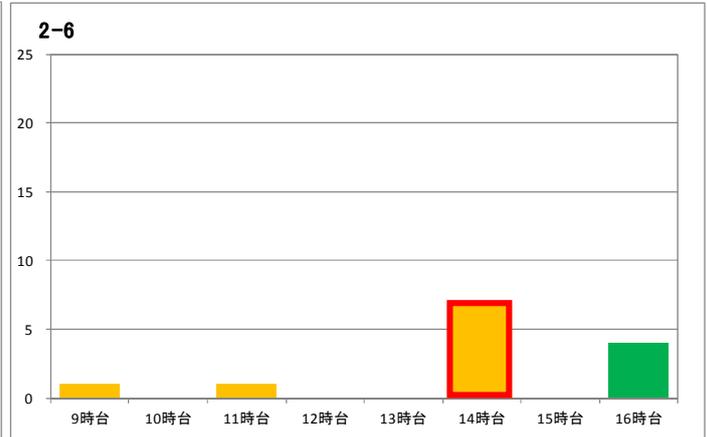
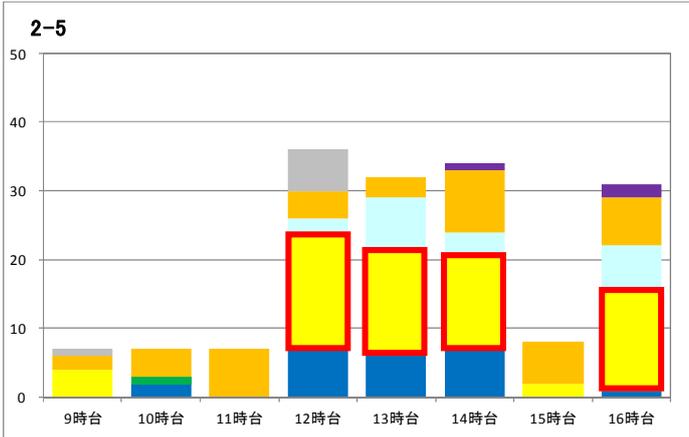
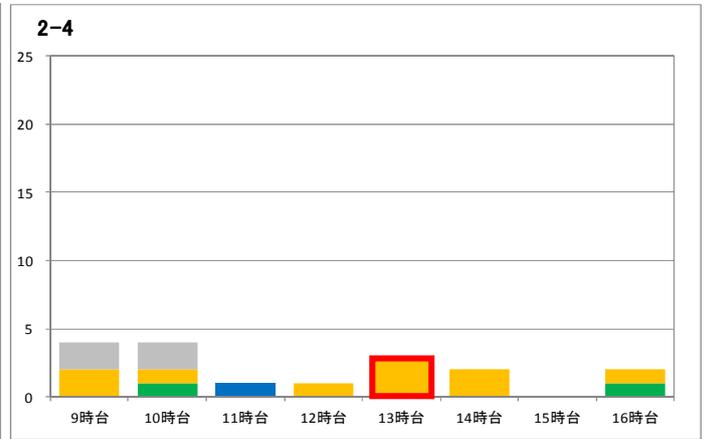
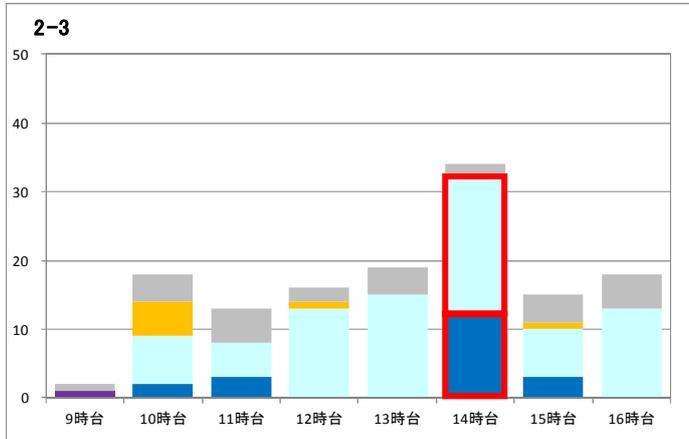
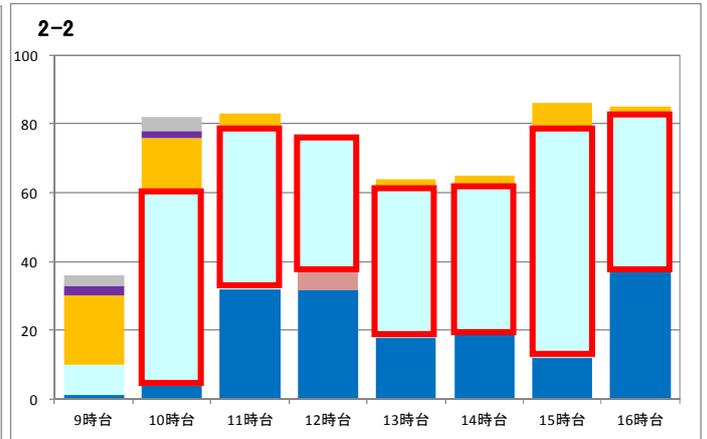
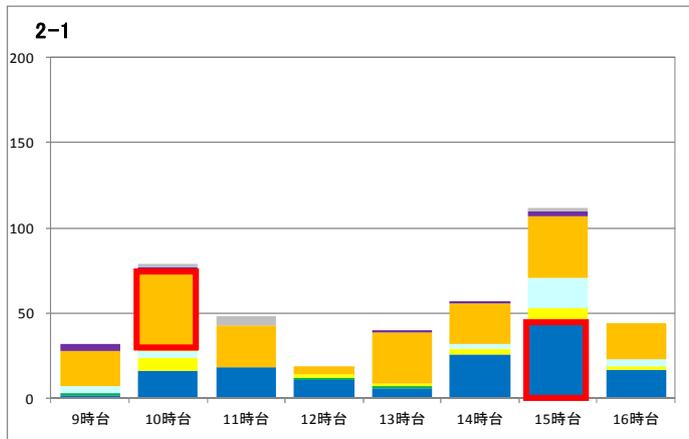
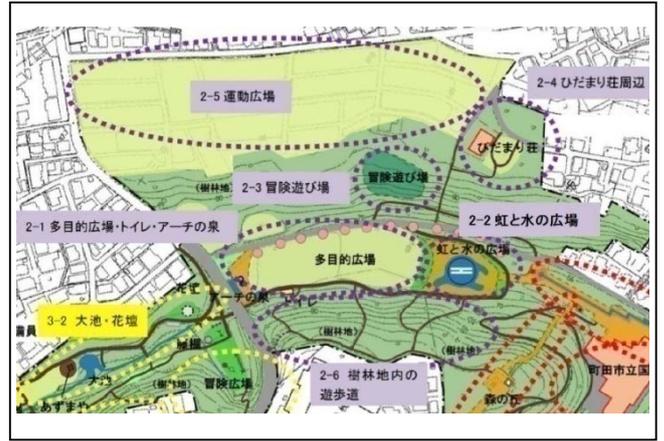
■ 休憩 ■ 食事 ■ 細事 ■ ジョギング・運動 ■ 遊び ■ 散歩・通り抜け ■ 犬の散歩 ■ その他

■エリア2

本エリアでは、2-1 多目的広場・トイレ・アーチの泉、2-2 虹と水の広場の利用が多く、2-4 ひだまり荘周辺、2-6 樹林地内の遊歩道はあまり利用されていない。

各エリアにおける主な「利用形態×利用時間帯」は以下の通りである。(グラフ中の赤枠)

- ・2-1：10時台×散歩・通り抜け、15時台×休憩
- ・2-2：10～16時台×遊び
- ・2-3：14時台×休憩、14時台×遊び
- ・2-4：13時台×散歩・通り抜け
- ・2-5：12～14・16時台×ジョギング・運動
- ・2-6：14時台×散歩・通り抜け



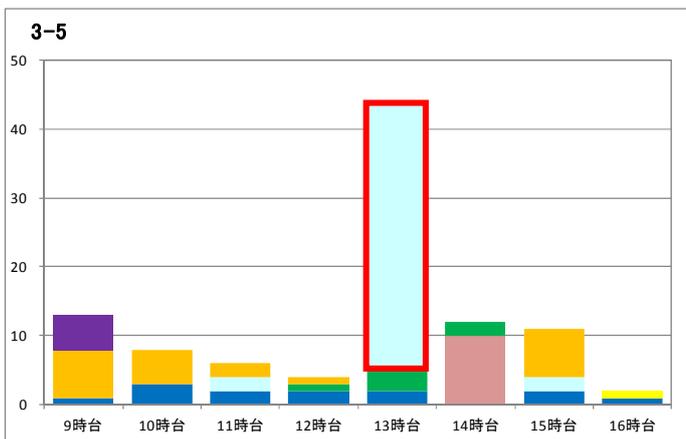
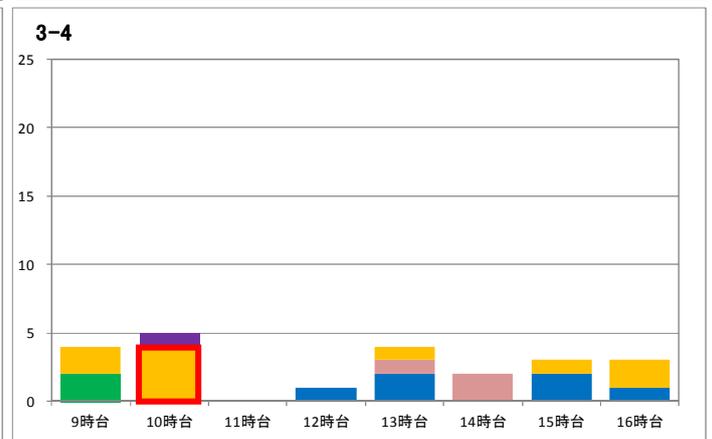
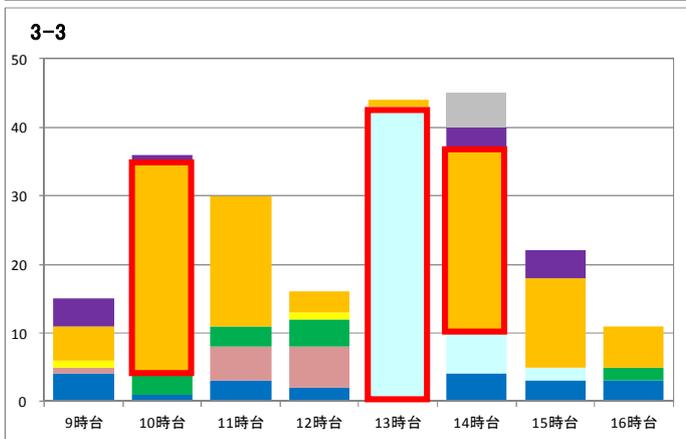
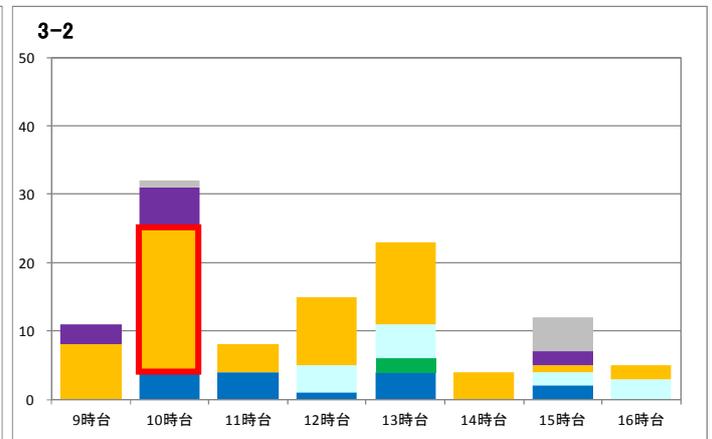
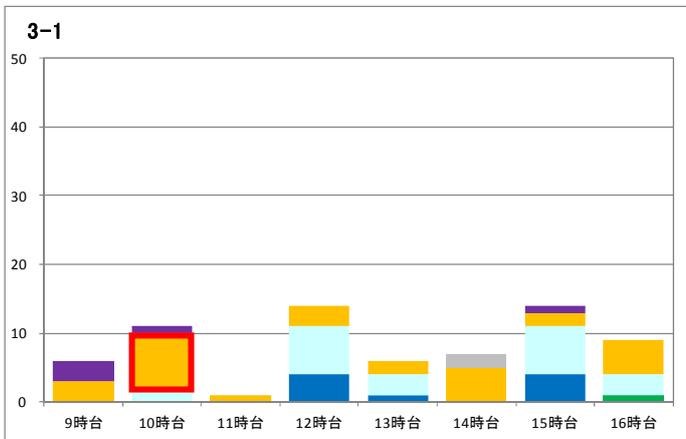
■ 休憩 ■ 食事 ■ 細事 ■ ジョギング・運動 ■ 遊び ■ 散歩・通り抜け ■ 犬の散歩 ■ その他

■エリア 3

本エリアでは、3-3 芝生広場・花見広場の利用が多く、3-4 カキツバタ園・藤棚・花木園はほとんど利用されていない。

各エリアにおける主な「利用形態×利用時間帯」は以下の通りである。(グラフ中の赤枠)

- ・ 3-1 : 10 時台×散歩・通り抜け
- ・ 3-2 : 10 時台×散歩・通り抜け
- ・ 3-3 : 13 時台×遊び、10・14 時台×散歩・通り抜け
- ・ 3-4 : 10 時台×散歩・通り抜け
- ・ 3-5 : 13 時台×遊び



■ 休憩 ■ 食事 ■ 細事 ■ ジョギング・運動 ■ 遊び ■ 散歩・通り抜け ■ 犬の散歩 ■ その他

【エリア別×利用形態別×時間帯別の利用者数（利用形態別）】

■休憩

休憩利用が多いのは、2-2 虹と水の広場（延べ156人）、2-1 多目的広場・トイレ・アーチの泉（延べ140人）、1-1 美術館周辺・西エントランス（延べ85人）となっている。

最も多かったのは、エリア2-1の15時台（計44人）の利用である。



■休憩: エリア別時間帯別の利用者数順位表

順位(位)	1	2	3	3	5	6	7	8
小エリア	2-1	2-2	1-1	2-2	2-2	2-1	2-2	1-1
時間帯(時台)	15	16	11	11	12	14	14	14
利用人数(人)	44	37	33	32	32	26	20	19

順位(位)	9	9	11	12	13	14	14	16
小エリア	2-1	2-2	2-1	2-1	1-1	2-2	2-3	2-1
時間帯(時台)	11	13	16	10	15	15	14	12
利用人数(人)	18	18	17	16	14	12	12	11

順位(位)	17	18	19	19	19	19	19
小エリア	1-2	1-1	1-2	1-2	1-4	2-5	2-5
時間帯(時台)	12	13	10	16	9	12	14
利用人数(人)	9	8	7	7	7	7	7

■ 食事

食事利用が多いのは、1-2 せせらぎ(延べ 60 人)、1-1 美術館周辺・西エントランス(延べ 57 人)、3-3 芝生広場・花見広場(延べ 12 人)となっている。

最も多かったのは、エリア 1-2 の 12 時台(計 34 人)の利用である。



■ 食事: エリア別時間帯別の利用者数順位表

順位(位)	1	2	3	4	5	5	5	8
小エリア	1-2	1-2	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-2
時間帯(時台)	12	14	15	16	11	12	13	11
利用人数(人)	34	19	14	11	8	8	8	7

順位(位)	9	9	9	12	13	14	14	14
小エリア	1-1	2-2	3-3	3-3	1-4	1-1	1-3	1-4
時間帯(時台)	14	12	12	11	16	10	11	15
利用人数(人)	6	6	6	5	4	2	2	2

順位(位)	14	18	18	18
小エリア	3-4	1-4	3-3	3-4
時間帯(時台)	14	13	9	13
利用人数(人)	2	1	1	1

■ジョギング・運動

ジョギング・運動利用が多いのは、2-5 運動広場（延べ67人）、2-1 多目的広場・トイレ・アーチの泉（延べ26人）となっている。

最も多かったのは、エリア2-5の12時台（計17人）の利用である。



■ジョギング・運動: エリア別時間帯別の利用者数順位表

順位(位)	1	2	2	4	5	6	7	8
小エリア	2-5	2-5	2-5	2-5	2-1	2-1	1-4	1-2
時間帯(時台)	12	13	16	14	15	10	9	9
利用人数(人)	17	15	15	14	9	8	5	4

順位(位)	8	10	11	11	11	11	11	16
小エリア	2-5	2-1	1-2	2-1	2-1	2-1	2-5	1-2
時間帯(時台)	9	14	11	12	13	16	15	10
利用人数(人)	4	3	2	2	2	2	2	1

順位(位)	16	16	16	16	16
小エリア	1-2	1-4	3-3	3-3	3-5
時間帯(時台)	16	14	9	12	16
利用人数(人)	1	1	1	1	1

■遊び

遊び利用が多いのは、1-2 せせらぎ（延べ 576 人）、2-2 虹と水の広場（延べ 350 人）、2-3 冒険遊び場（延べ 80 人）となっている。

最も多かったのは、エリア 1-2 の 11 時台（計 124 人）の利用である。



■遊び: エリア別時間帯別の利用者数順位表

順位(位)	1	2	3	4	5	5	7	8
小エリア	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	2-2	1-2	2-2
時間帯(時台)	11	14	16	13	15	15	12	10
利用人数(人)	124	103	84	68	67	67	63	57

順位(位)	9	10	10	12	13	14	15	16
小エリア	2-2	1-2	2-2	2-2	3-3	2-2	3-5	2-2
時間帯(時台)	11	10	16	13	13	14	13	12
利用人数(人)	47	46	46	44	43	42	39	38

順位(位)	17	18	19	20
小エリア	1-2	2-3	2-1	2-3
時間帯(時台)	9	14	15	13
利用人数(人)	21	20	18	15

(6) 環境保全と管理に関する検討と設定

①環境保全と管理の考え方

公園再整備にあたっては、原地形を維持し、動物生息環境保全、湧水の保全に配慮する。特に生物多様性の保全の観点から、樹林地の多様な管理のありかたを検討する。

■計画対象地の空中写真



【植生の概要】

- 薪や炭に利用されなくなり、落葉樹から常緑樹へと植生が変わった。さらに、開園後 30 年以上が経過し、常緑樹が大きく育ったため、園内全体が暗い印象を与えている。

【公園園地の植栽管理の考え方】

明るい公園を目指し、剪定、間伐、伐採を積極的に行う。

- 遊具、ベンチ、園路周辺の植栽については、その成長により死角が生まれている箇所がみられ、防犯上問題視されている。安心して利用できるよう、過密している植栽の改善を図る。
- 成長し過ぎた灌木の高さの制限、中高木については倒木等を防ぐための間伐や伐採などを行っていく。
- 花木、紅葉の美しい樹種への転換により、季節感を感じられる植栽を行い、花壇などの増設を検討していく。

②植生管理方針の設定

本公園は、谷戸を活かした公園であり、谷戸斜面は樹林地となっている。植生は斜面の方位により違いがある。方位は概ね北東～東向きと南西～西向き斜面に大別できる。

【南西～西向き斜面の現状】

南西向き斜面は、中央の谷戸を挟んで町田市街地側の斜面地で、傾斜度は北東側斜面と比較して傾斜が急であることが特徴で、一部の急峻な斜面では崩落の形跡が見られる。また湧水の湧出地点が北東側斜面より多い。

亜高木層、低木層は南西側斜面ほどの発達は見られない。陽光に乏しいため暗い印象があり、特に小田急線に近い斜面、町田市立国際版画美術館裏の斜面では谷が狭く、特に日照が少ない。

低木層、草本層の発達が見られないため、林床が乾燥しやすいこと、急峻な斜面が多いことなどから小さな崩落や、流水による浸食などが散見でき、表土の安定性に欠けていると考えられる。

植生はクヌギ・コナラなどの落葉樹と、シラカシ、アラカシなどの常緑樹の混交林だが、北東側斜面に比べると常緑樹の大径木が少ない。

北東～東向き斜面の林内の状況



【北東～東向き斜面の現状】

北東～東向き斜面は、中央の谷戸を挟んで、都営跡地側の斜面地で、南西向き斜面に比べ傾斜が緩やかである。植生は北東向き斜面と同じクヌギ・コナラ二次林に常緑樹の入った混交林だが、高木層、亜高木層、低木層が発達して、全体に樹林密度が高い樹林となっている。南西斜面より日照が多いが、樹林密度が高いため、林内に入ると暗い印象がある。

谷が広がっている多目的広場周辺では、低木層の発達が顕著で、林縁部等ではネザサが繁茂している。

適度な陽光、こもればは、散策や休憩をする利用者にとって好ましい条件である。一方で、間伐や下草刈りなどの管理は継続的に行う必要があり、定期的を実施しないと新たな植物の侵入やネザサの繁茂などさらなる管理を要する結果となる。

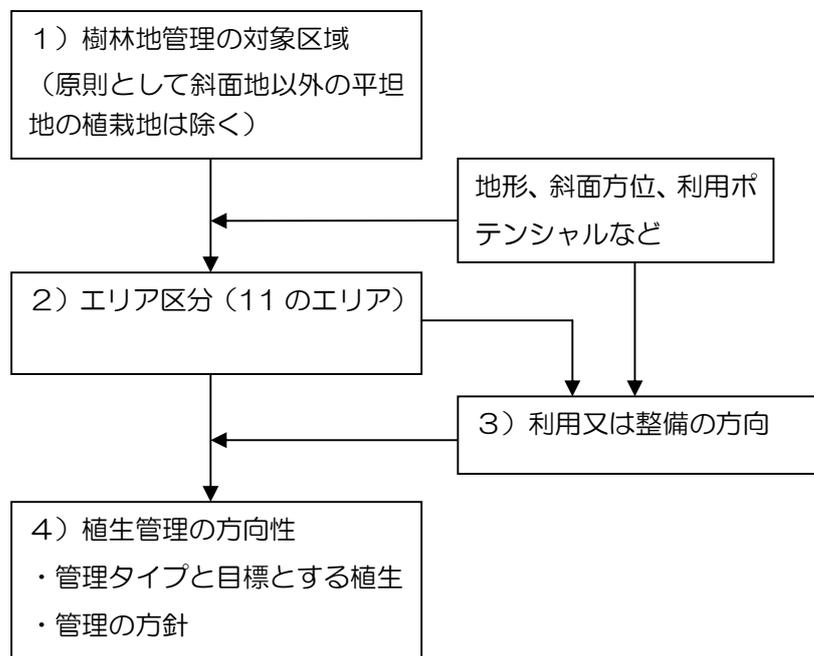
※間伐とは成長に伴って混み過ぎた樹林の樹木を一部抜き伐りすること。除伐とは育てようとする樹木の生育を妨げる他の樹木を刈り払う作業のこと。

南西～西向き斜面の林内の状況



計画対象地の斜面樹林地の状況と利用方針などから、植生管理方針は以下のような流れで設定する。

■植生管理方針の設定



1) 樹林地管理の対象区域

平坦地の植栽地は除く斜面樹林地を対象とする。

2) エリア区分

1) の区域に地形、傾斜度、斜面の方位、現況の植生などを勘察して、11のエリアに区分する。

3) 利用又は整備の方向

2) を踏まえ、現況の公園施設や公園の整備方針、またエリアの利用ポテンシャルなどを加味して、エリアの利用又は整備の方向を設定する。

4) 植生管理の方向性

2) のエリア区分に、3) の利用又は整備の方向を勘察し、植生管理の方向性（管理タイプと目標とする植生、管理方針）を設定する。

本計画では、今後の樹林地の管理の方向を示すため、以下の2つの基本的な植生管理タイプを設定し、エリアごとの特性、利用方針などに対応した方向を設定する。

●基本的な管理タイプ

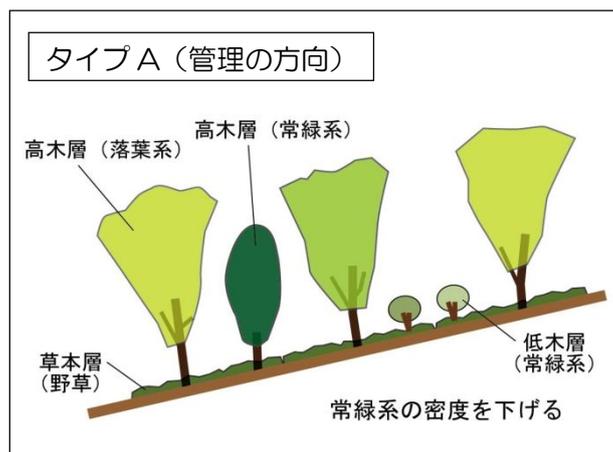
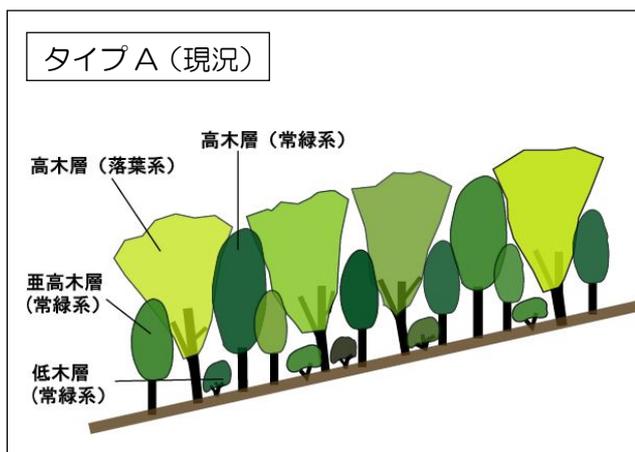
【タイプA】：常緑系の亜高木層の間伐、低木層の伐採など、見通しを確保するため、常緑系の密度を調整する方向で管理する。

タイプA：現況が主に北東向き斜面又は急傾斜や谷地で利用に適さない樹林地



常緑系の亜高木層の間伐、低木層の伐採など、見通しを確保するため、常緑系の密度を調整する方向で管理する。

●目標とする植生→「里山型混交林」



※各階層の樹木の色は、多様な種構成を示している。

【タイプB】：高木層、亜高木層の間伐や低木層の伐採などで樹木密度を下げ、さらに定期的な下草刈りなどにより、クヌギ・コナラを中心とした明るい林床の雑木林として管理する。

タイプB：現況が主に南西向き斜面又は緩傾斜で利用に適した樹林地

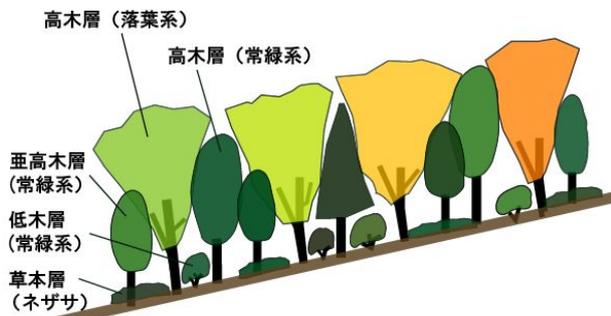


高木層、亜高木層の間伐や低木の伐採などで樹木の密度を下げ、さらに定期的な下草刈りなどにより、クヌギ・コナラを中心とした明るい林床の雑木林として管理する。

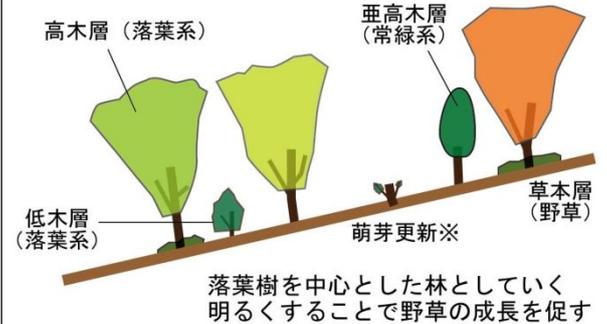
●目標とする植生→「里山型クヌギ・コナラ林」



タイプB（現況）



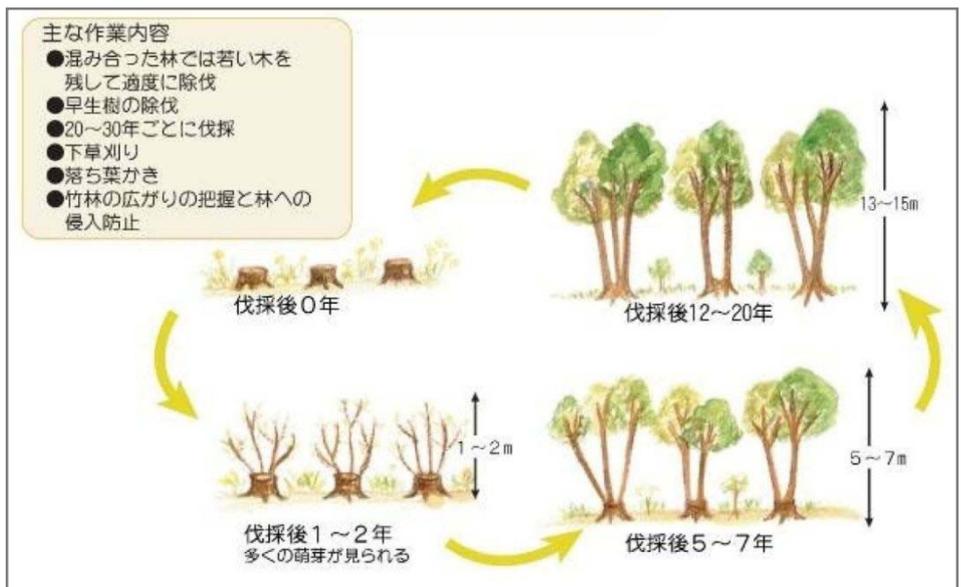
タイプB（管理の方向）



※各階層の樹木の色は、多様な種構成を示している。

※萌芽更新

伐採後に切り株や根から新しい芽（ひこばえ）が伸びてくる樹木の性質を利用して、樹林を更新する手法で、暗くなった樹林を明るくするために、20～30年ごとに適度に除伐等を行う。



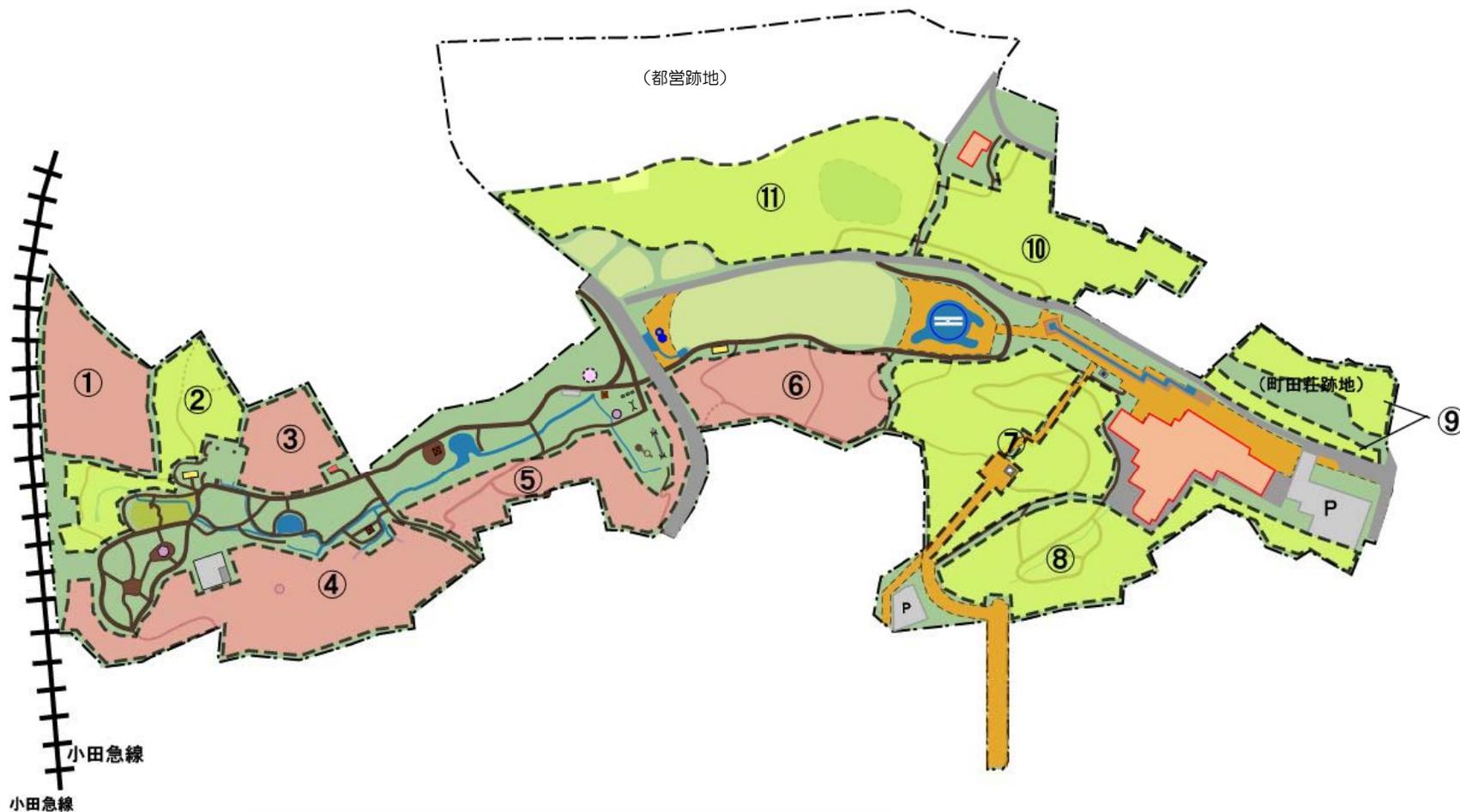
出典：里地里山保全再生計画作成の手引き（環境省）平成20年3月

※間伐とは成長に伴って混み過ぎた樹林の樹木を一部抜き伐りすること。除伐とは育てようとする樹木の生育を妨げる他の樹木を刈り払う作業のこと。

■エリア別植生管理タイプと管理の方向

エリア区分No.	植生管理エリア	地形、方位等の特性等						現況の植生				植生管理の方向性					
		地形・傾斜	方位・日照の概況	傾斜方位						植生の概況	常緑優占林	常緑樹主体の常・落混交林	落葉樹主体の常・落混交林	利用又は整備の方向	管理タイプ	目標とする植生	エリアごとの管理の方向
				西	南西	南	南東	東	北東								
①	小田急線土堤南側斜面	谷戸先端部でやや急峻である。斜面下に湧水が見られる。	西向き斜面で、谷先端部であるため日照条件は良くない。							「自然保護林」とされてきたため、シラカシ、アラカンなど常緑樹が優占して地域の自然植生であるシラカシ林への遷移が進んでいる。				一般利用に適さないが、倒木等の除去、小田急線からの公園内の一定の見通しを確保しつつ、郷土の自然に近い植生環境における植物、野鳥、昆虫などを観察できる自然観察林とする。	A	里山型混交林	倒木の除去、過密な低木層を除去して小田急線からの一定の見通しを確保するなど最小限の管理を行いつつ、重高木層を残して遷移に委ねる方向で管理する。
②	レストコーナー東側斜面	一部急峻な箇所があるが、比較的広い平坦地もある。レストコーナーの下部に湧水が見られる。	谷が狭く、斜面の方向の割には日照条件が良くない。							クスギ、コナラ林で常緑樹の侵入は①に比べてやや少ない。				休憩、滞留、散策できる空間として、斜面に散策路を整備する。住宅地に近い場所に平坦なクスギ林があり、休憩・散策広場として利用する。	B	里山型クスギ・コナラ林	高木層、重高木層の間伐や低木の除去などで樹林密度を下げ、クスギ・コナラを中心とした明るい林床の落葉広葉樹林(雑木林)として管理する。
③	警備員室北側斜面	傾斜は急峻である。	南向き斜面で日照条件は良い。密度の高い樹林地により、北側のレストコーナーの日照が悪くなっている。							南向斜面で本来の暖帯性植物であるシラカシ、アラカンなど常緑樹が優占しつつある。高木層、重高木層、低木層が発達して暗い樹林地となっている。				日照条件は良く、傾斜も緩やかなため、利用ポテンシャルは高い。シラカシの大径木などを中心に常緑樹が優占しており、地域の自然植生として自然観察、ドングリ拾いなどの場とする。	A	里山型混交林	林内に入れるよう植生密度を下げるため、高木層、重高木層を適度に間伐する。地域の自然植生であるシラカシ、アラカン、など常緑系中心の里山林(常緑・落葉樹混交林)として管理する。
④	花木園～花見広場西側斜面	傾斜は急峻で、斜面下には湧水が見られる。	東～北向き斜面で日照条件は良くない。							日照条件が良くないため、草本層(下草)の発達は見られない。				やや急峻で東～北斜面で滞留型の利用には不向きであるため、公園区域外の街路と結ぶための道を散策路として整備する。	A	里山型混交林	シュロ、ヤツデ、アオキ、自然実生で増えたツバキなど常緑系の低木層を除去して見通しを確保しつつ、重高木層を残して常緑系中心の里山林(常緑・落葉樹混交林)として管理する。
⑤	大池周辺西側斜面	傾斜は急峻で、一部崩落が見られるなど不安定な箇所がある。斜面下に湧水が見られる。	東～北向き斜面で日照条件は良くない。							落葉樹が主体の混交林であるが日照条件が良くないため、草本層(下草)の発達は見られない。				東～北斜面で気温の高い季節以外の滞留型利用にはやや不向きである。公園区域外の街路と結ぶための道を散策路として整備する。	A	里山型混交林	シュロ、ヤツデ、アオキなど常緑系の低木層を除去して見通しを確保しつつ、重高木層を残して常緑系中心の里山林(常緑・落葉樹混交林)として管理する。
⑥	多目的広場西側斜面	傾斜は急峻で、一部表流水で浸食された箇所がある。	東～北東向き斜面で日照条件は良くない。							落葉広葉樹林(二次林)に常緑樹が入っている。低木層には実生のアオキ、ヒサカキ、シュロなどが多く見られる。反対側の南～西斜面に比べ草本層の発達が低い。				やや急峻で東～北斜面で滞留型の利用には不向きであるため、公園区域外の街路と結ぶための道を散策路として整備する。	A	里山型混交林	シュロ、ヤツデ、アオキなど常緑系の低木層を除去して見通しを確保しつつ、重高木層を残して常緑系中心の里山林(常緑・落葉樹混交林)として管理する。
⑦	森の丘周辺斜面	全体に緩傾斜である。町田市立国際版画美術館日本庭園は分岐した谷戸に立地している。	斜面および台地上の区域で、東及び南東向き斜面で日照条件が良い。							森の丘から、町田市立国際版画美術館に下りる階段付近、美術館裏日本庭園は園地として整備されており、コナラ、ホノノキ、ヤマザクラ、イヌシデ、イロハモミジなど比較的大径木が残されている。				日照条件は良く、現況の公園内では唯一、台地上の園地有しておりポテンシャルは高い。森の丘に隣接する平坦地に休憩施設などを整備して積極的に活用する。	B	里山型クスギ・コナラ林	間伐し、ランチや休憩などで滞留できる明るい雑木林として管理する。
⑧	町田市立国際版画美術館もみじ園周辺斜面	谷戸が北西方向に分岐した谷で、一部急峻な箇所がある。	日本庭園南側半分は北向き斜面、北側半分は南向きであるものの谷が狭く、日照条件が非常に悪い。							モミジなどを中心とした落葉樹主体の樹林地だが、日照条件が悪く通年暗い印象がある。				隣接する高齢者施設、病院との境界部の常緑樹を伐採、落葉樹も間伐して、極力陽光を取り入れ明るい空間として整備する。	B	里山型クスギ・コナラ林	日照条件が悪い日本庭園の南側斜面(北向き斜面)は日照を確保するため、隣地境界沿いの常緑系高木層を中心に間伐し、明るい雑木林として管理する。
⑨	町田荘跡地斜面	傾斜は急峻である。	西向き斜面で、谷先端部であるため日照条件は良くない。							かつて町田荘の建物外周部の斜面でヤマザクラ、イヌシデ、ミズキなどが見られる。				斜面が急峻で樹林地内には入ることはできない。町田荘跡地の施設の修景緑地として、利用する。	B	里山型クスギ・コナラ林	下枝、林床などを除去して町田荘跡地導入施設からの眺望を確保し、明るい落葉広葉樹林(雑木林)として管理する。
⑩	虹と水の広場の東側斜面	傾斜は概ね平均的斜面であるが一部にやや急峻な斜面がある。	西～西南向き斜面で日照条件は良い。							シラカシ、アラカンなど常緑樹が入った二次林だが、スギ、サワラなどの植林も含む。				林内を明るくすることで樹林地として利用する。植物の観察できる案内板、樹名板、散策路、休憩施設などを整備する。	B	里山型クスギ・コナラ林	高木層、重高木層の間伐、特にスギやサワラなど針葉樹を択伐し、ネザサを定期的に伐採することで、滞留できる明るい雑木林として管理する。
⑪	多目的広場東側傾斜	傾斜は概ね平均的斜面である。	都営跡地に続く南向き斜面で前面が多目的広場で日照条件は良い。							コナラ、イヌシデ、エゴノキなど落葉広葉樹林(二次林)にシラカシ、アラカンなど常緑樹が入っている。低木層の発達とともにネザサが繁殖して鬱蒼としている。				散策路のほか、ベンチや健康遊具などの設置し、子どもが自然と触れ合える樹林地として整備する。	B	里山型クスギ・コナラ林	高木層、重高木層の間伐、シュロ、アオキ、ヒサカキなど常緑系の低木層の除去、ネザサなどの下草刈りを定期的に行い、明るい雑木林として管理する。

※優占とは、ある種が他の種より個体数が多い状態のこと。間伐とは成長に伴って混み過ぎた樹林の樹木を一部抜き伐りすること。除伐とは育てようとする樹木の生育を妨げる他の樹木を刈り払う作業のこと。



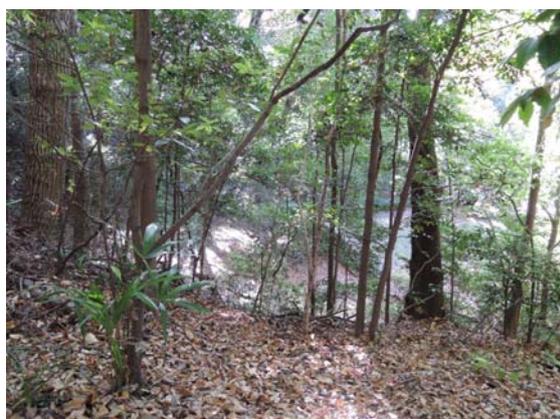
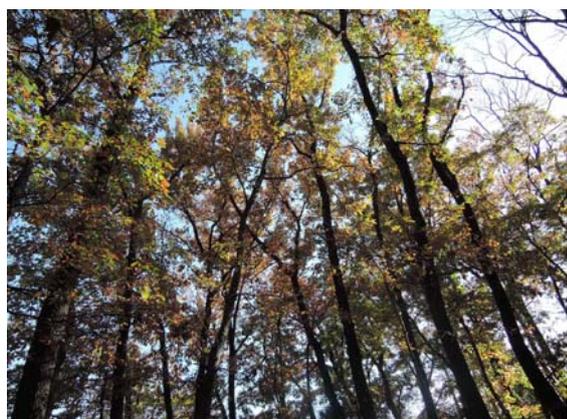
凡例	
	タイプA 常緑系の亜高木層の間伐、低木層の伐採など、見通しを確保するため、常緑系の密度を調整する方向で管理する。
	タイプB 高木層、亜高木層の間伐や低木層の伐採などで樹木密度を下げ、クヌギ・コナラを中心とした明るい雑木林として管理する。
共通：園路、施設周辺の林縁部は、明るさ確保のために樹高についても配慮する	



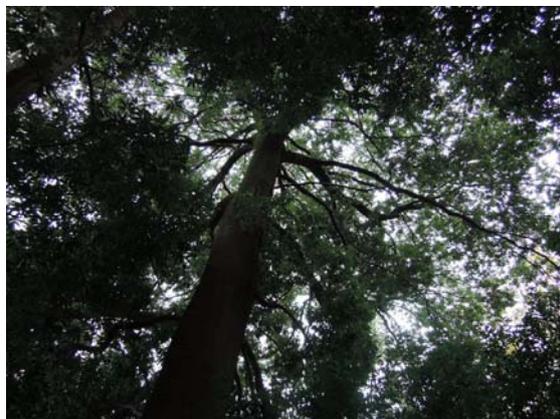
①小田急線土堤南側斜面



②レストコーナー東側斜面



③警備員室北側斜面



④花木園～花見広場西側斜面



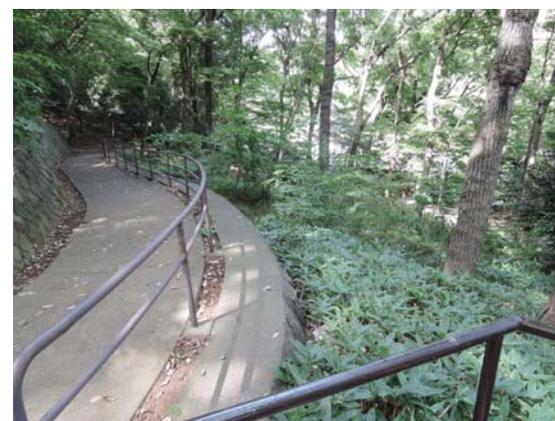
⑤大池周辺西側斜面



⑥多目的広場西側斜面



⑦森の丘周辺斜面



⑧町田市立国際版画美術館もみじ園周辺斜面



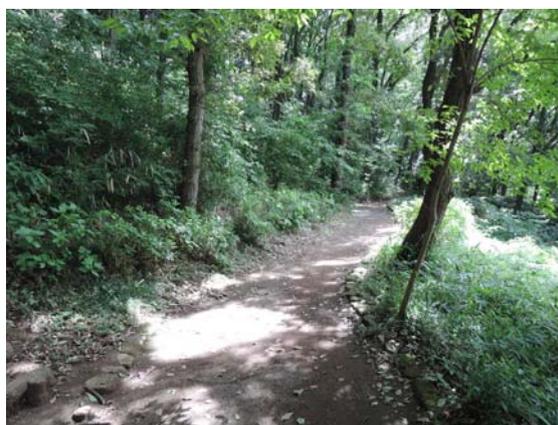
◎町田荘跡地斜面



⑩虹と水の広場の東側斜面



⑪多目的広場東側斜面



(8) 整備水準・概算工事費

再整備基本計画図を踏まえて、ゾーンごとに概算工事費を算出した。

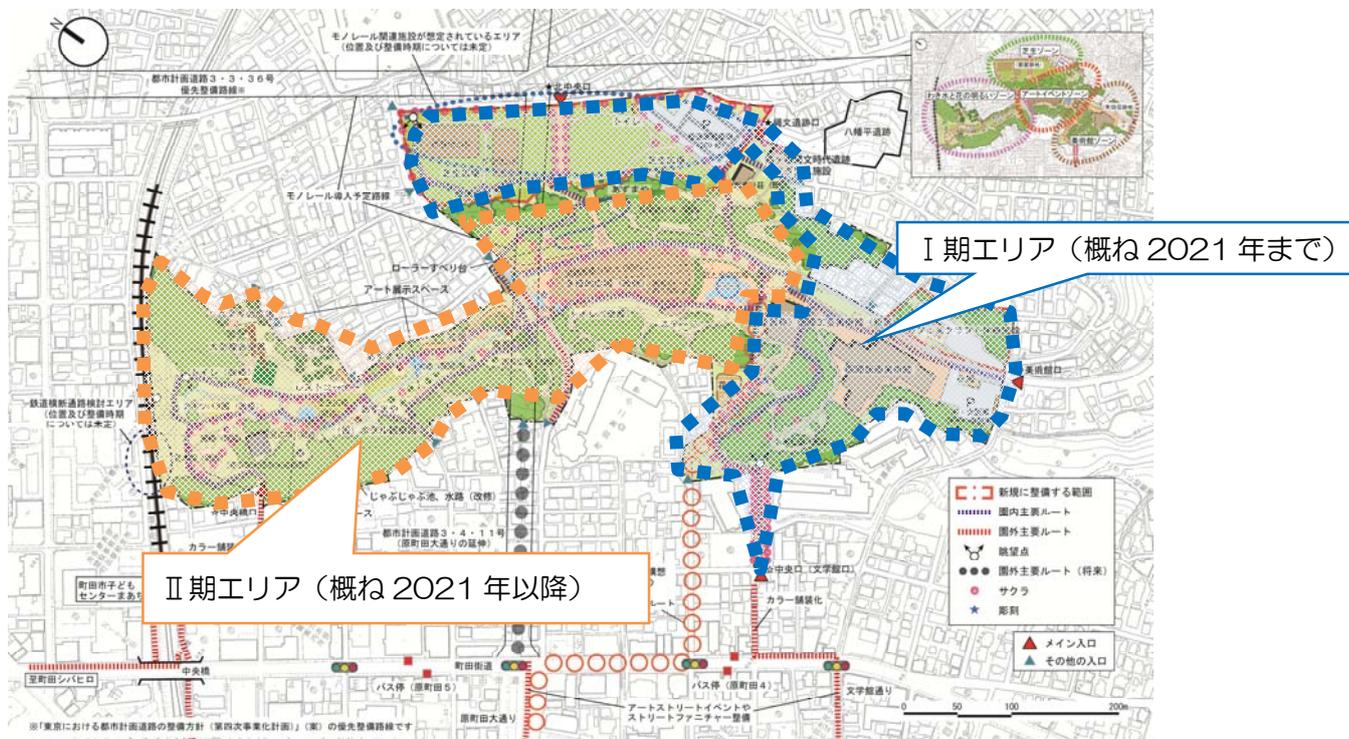
整備時期	ゾーン名	項目	概算工事費	
I 期整備	美術館ゾーン (約3.5ha)	カフェ&クラフト体験施設	1.4億円	
		カフェ&クラフト体験施設外構		
駐車場				
駐車場料金システム				
車止め				
スロープデッキ				
花木・紅葉木				
遮蔽植栽				
低木植栽				
花壇				
樹名板				
水飲み				
サイン類(解説板)				
休憩施設(ベンチ等)				
※(仮称)国際工芸美術館	1.5億円			
芝生ゾーン (約2.8ha)		芝生舗装		
		グラウンド再整備		
		健康遊具		
		アプローチ園路		
		防災あづまや		
		防災ベンチ		
		駐車場		
		駐車場料金システム		
		車止め		
		トイレ		
		花木・紅葉木		
		低木植栽		
		花壇		
	樹名板			
水飲み				
サイン類(解説板)				
休憩施設(ベンチ等)	2.0億円			
アートイベント ゾーン (約4.3ha)		ステージ		
		多目的広場再舗装		
		スロープデッキ		
		トイレ		
		虹と水の広場再舗装		
		階段園路		
		ローラーすべり台		
		花木・紅葉木		
		低木植栽		
		花壇		
		樹名板		
		水飲み		
		サイン類(解説板)		
	休憩施設(ベンチ等)			
※高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設	2.0億円			
わき水と花の明るい ゾーン (約4.7ha)		スロープデッキ		
		大型複合遊具		
		ホテル観察路(水辺植物の植栽)		
		クヌギの広場(植生管理)		
		コナラの森(植生管理)		
		アート展示スペース(舗装整備)		
		トイレ		
		レストコーナー(警備員室)		
		カキツバタ園(水辺植物の植栽)		
		遊具広場(遊具再設置)		
		じゃぶじゃぶ池・水路再整備		
		花木・紅葉木		
		低木植栽		
	花壇			
樹名板				
水飲み				
サイン類(解説板)				
休憩施設(ベンチ等)	1.5億円			
共通		共通		
		ソーラー照明灯		
		総合案内板		
		方向誘導サイン		
		野外卓		
		主園路(主動線)		
		回遊園路(平坦地)		
		回遊園路(斜面地)		
		直接工事費		8.4億円
		諸経費 80% 内外		6.7億円
		概算工事費 (15.6ha)		15.1億円

※の項目は概算工事費に含んでいない。

■整備スケジュールについて

ゾーン別に、概算工事費を踏まえながら整備スケジュール（優先順位）を検討した。

優先するエリアは、未整備である芝生ゾーン、（仮称）国際工芸美術館が整備される美術館ゾーンとし、Ⅰ期エリアとする。続くⅡ期は、アートイベントゾーンと、現況を大きく改変しない「わき水と花の明るいゾーン」する。



Ⅰ期及びⅡ期の詳細なスケジュールをゾーンごとに整理し、次頁に示した。

項目		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度以降	
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度以降	
公園再整備	Ⅰ期整備	美術館ゾーン	(仮称)国際工芸美術館基本設計			(仮称)国際工芸美術館実施設計		(仮称)国際工芸美術館整備工事		開館				
		芝生ゾーン		公園再整備基本設計 ↑ 説明会	公園再整備実施設計	整備工事Ⅰ期 ●新規整備施設・カフェ&クラフト体験施設 ●改修予定施設・駐車場(中・大型車・障がい者)	開園							
	Ⅱ期整備	アートイベントゾーン	公園再整備基本計画 ↑ 懇談会 市民意見公募						第Ⅱ期公園再整備基本設計	第Ⅱ期公園再整備実施設計	整備工事Ⅱ期 ●新規整備施設 ・ステージ ●改修予定施設 ・多目的広場(防災オープンスペース) ・虹と水の広場			開園
		わき水と花の明るいゾーン						説明会		整備工事Ⅱ期 ●新規整備施設 ・大型複合遊具・ホテルの観察路・クスギの広場 ・コナラの森 ・アート展示スペース ●改修予定施設 ・レストコーナー(警備員室)・カキツバタ園 ・遊具広場・じゃぶじゃぶ池、水路				
		エントランス及び公園敷地外							整備工事 ●新規整備施設・入口(バリアフリー)整備・アートストリート、ストリートファニチャー ●改修予定施設・入口(園名板等)整備・アクセス路(カラー舗装)整備					
		共通事項							整備工事 ・樹木伐採・トイレ・桜の植栽・ベンチ・掲示板・遊歩道・野外卓・水飲み・案内サイン・公園灯・花壇					
	公園運営			社会実験 ※1 アート関連イベント ※2 飲食関連イベント ※3 交通アクセス改善試行 管理・運営主体、方法の検討 ↑ 市民協働				新たな運営主体による公園運営 →						
													管理・運営の導入準備	

①美術館ゾーン整備水準（イメージ）

【カフェ&クラフト体験施設イメージ】 約 500 ㎡

- クラフト体験施設部分（230 ㎡）
 - ・ エントランス小ホール、受付（40 ㎡）
 - ・ クラフト体験室（ガラス工房）（100 ㎡）
 - ・ クラフト体験室（陶芸工房）（90 ㎡）
- カフェ（70 ㎡）
- トイレ（工房とカフェの共用）（40 ㎡）
- 機械室等（全施設共用）（40 ㎡）
- 管理棟、防災倉庫（120 ㎡）

【カフェ&クラフト体験施設外構イメージ】

- ブロック舗装（左） 洗い出し舗装（右）



中之島公園(大阪市)



新宿中央公園(新宿区)

【(仮称) 国際工芸美術館】 約 3,000 ㎡ 「(仮称) 国際工芸美術館整備基本計画（2014 年 6 月）より」

- 展示エリア（約 500 ㎡）
- 交流エリア（エントランス・工房等）（約 580 ㎡）
- 調査研究運営エリア（事務、学芸執務室等）（約 500 ㎡）
- 収集保存エリア・その他（収蔵庫、展示用品倉庫、廊下等）（約 1,420 ㎡）

②アートイベントゾーン整備水準（イメージ）

【高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設】 約 600 m²

- 展示スペース（200 m²）
- 実習・講習室（40 m²）
- その他（トイレ、事務室、倉庫など）（360 m²）

【ステージイメージ】



（商品カタログ）

【多目的広場舗装イメージ】

●ダスト舗装



二子玉川公園（世田谷区）

【トイレイメージ】



二子玉川公園（世田谷区）



新宿中央公園（新宿区）

【ブロック舗装イメージ】

●透水ブロック舗装（左） インターロッキングブロック舗装（右）



小山内裏公園(町田市)

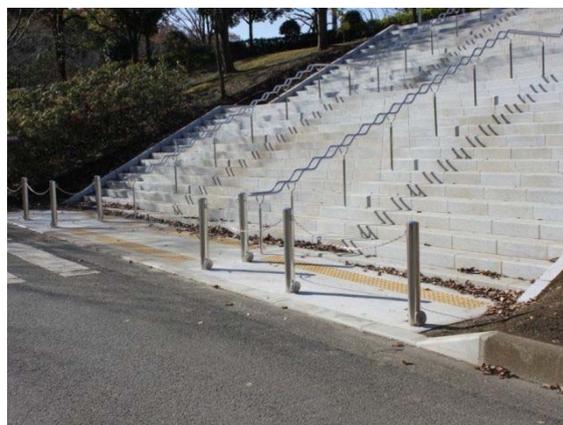


壬生総合公園(壬生町)

【階段園路イメージ】



小山内裏公園(町田市)



野津田公園(町田市)

【花壇イメージ】



瀬田農業公園(世田谷区)



新宿中央公園(新宿区)

③芝生ゾーン整備水準（イメージ）

【芝生広場イメージ】



富士見公園(川崎市)



小金井公園(小金井市)

【健康遊具イメージ】



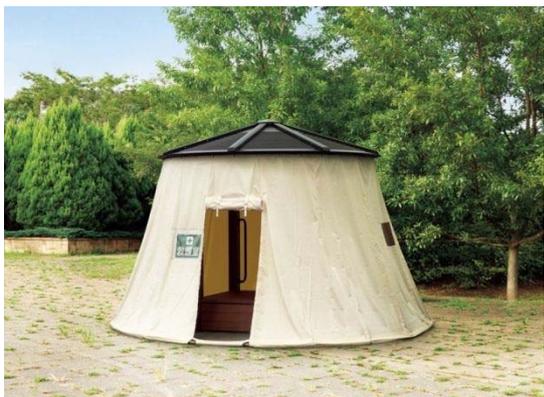
(商品カタログ)

【アプローチ園路イメージ】



(商品カタログ)

【防災あずまやイメージ】



(商品カタログ)



(商品カタログ)

【防災ベンチイメージ】



(商品カタログ)



西新小岩公園(葛飾区)

④わき水と花の明るいゾーン整備水準 (イメージ)

【大型複合遊具イメージ】



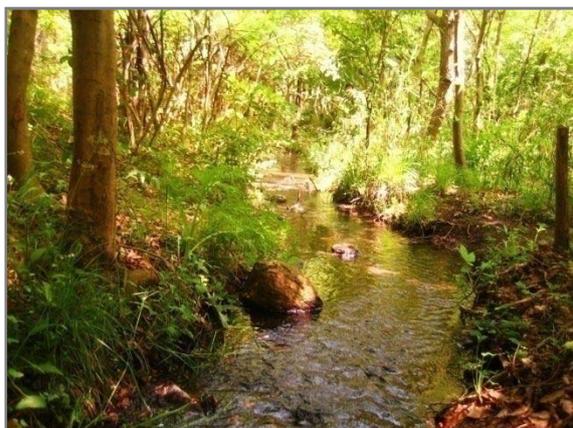
(商品カタログ)

【遊具広場イメージ】



二子玉川公園(世田谷区)

【ホタル観察路イメージ】



横浜横須賀道路(横浜市)



相模川自然の村公園(相模原市)



片倉城跡公園(八王子市)

【レストコーナーイメージ】



新宿中央公園(新宿区)

⑤園路イメージ

【主動線イメージ】



所沢航空記念公園(所沢市)



所沢航空記念公園(所沢市)

【施設アクセス動線イメージ】



小山内裏公園(町田市)



小山内裏公園(町田市)



アッペルテルン(オランダ)

(9) 鳥瞰図



6. 維持管理方法の検討と設定

再整備基本計画内容を踏まえて、維持管理方法について管理計画と運営計画の検討を行った。

(1) 維持運営管理項目と検討課題

管理計画は各ゾーン共通で、樹林地管理と植栽地・芝生管理、花壇管理の植栽管理と、工作物管理、安全管理、清掃が項目として挙げられる。

各項目の作業内容と、現時点における課題を抽出して一覧表にまとめた。

また運営計画は、建築物や駐車場等の施設運営と、各ゾーンの施設運営に大別される。現在は直営による運営が主であるが、再整備後は、通常の維持管理とともに施設運営や積極的なイベント運営などの展開を行っていくため、指定管理者等の導入を視野に入れながら検討していく必要があることから、現時点における課題を抽出して一覧表にまとめた。

今後の維持運営は、人口減少による税収減という財政上の課題もあるため、民間のアイデアや活力を活用しながら進めていく必要がある。

なお本計画を作成するにあたっては懇談会を5回開催し、地域の代表者と意見交換を行ってきたが、各課題についても、引き続き地域との意見交換を踏まえながら進めることが望ましいため、課題ごとに検討主体を明記した。検討時期については、基本設計時に概略検討を行い、整備時に詳細検討を行う。

(2) 維持運営管理体制の方向性について

維持管理・運営管理は、公園全体を一つの指定管理者等で行う場合と、施設運営は直営で行いそれ以外の運営管理を指定管理者等で行う場合の、2つのパターンが考えられる。

公園全体を指定管理者等で行う場合、美術館等の特殊な施設などを含めた公園全体を、統一された維持管理・運営方針を作成し実践していくことで、公園全体のサービスの質が高く、効果的、効率的な管理運営が期待できる。一方デメリットとして、指定管理者選定の事務作業や経費、事業計画が実施されない場合のリスク等もあり、地域活動団体や地元意向の反映に対して、指定管理者と協働関係を構築できる体制を考慮していく必要もある。

施設運営のみ市で行う場合は、新たに整備する施設の運営体制を構築していく必要があるほか、全体の管理経費が増大することが懸念される。

本再整備計画の実施後から、指定管理者等を導入する場合は、今後進められる基本・実施設計段階において、2つの美術館や各施設の運営に関する基本的考え方を関係機関と調整しながら、確定していく必要がある。

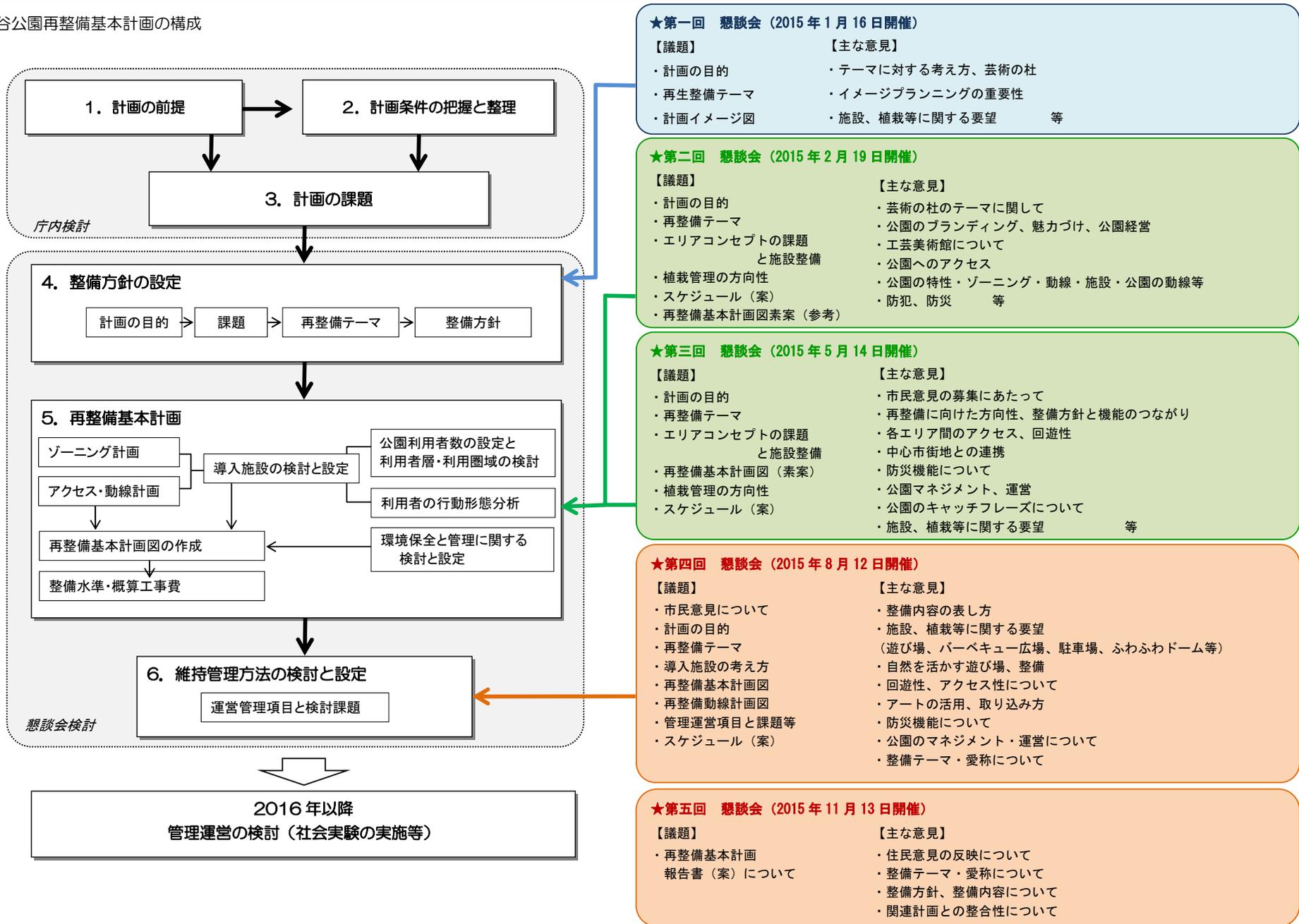
上記を踏まえ、設計・整備段階において、新たに整備予定の施設（カフェ&クラフト体験施設）やイベントについては、社会実験を行いながら公園全体のマネジメント方法について検証することを予定する。

■運営管理項目と検討課題（案）

項目	ゾーン名	名称	内容	課題等	検討主体	
管理	共通	樹林地管理	樹林維持育成管理 (間伐、下草刈り等)	・生物多様性や、安全・快適性を考慮した定期的な樹林地管理 ・明るいイメージ継承のための樹林地育成管理マニュアル等の作成	市	
		植栽地、芝生管理	剪定 徒長枝刈込 草刈り 等	・現在の管理内容の継続	市	
		花壇管理	植替 水やり 草刈り 等	・どのような仕組みで管理を行うか (指定管理者主導によるボランティアなど)	市・および市民との連携	
		各種工作物管理 (定期点検)	保守点検 遊具等安全点検	・施設更新に合わせた管理（遊具、親水施設）	市	
		安全管理	パトロール	・管理・運営の中で検討	市・および市民との連携	
		清掃	一般清掃 トイレ等施設清掃	・現在の管理内容の継続 (一部の清掃をボランティア等との協働することも検討できる)	市・および市民との連携	
運営	共通	駐車場	施設運営	・公園施設の更新やイベントなど利用増進に合わせた駐車場のレイアウトと適切な運用	市	
		バーベキュー広場	施設運営	・ソフト事業として展開するため場所の選定	市・および市民との連携	
		ドッグラン	施設運営	・運営方針や内容の検討	市・および市民との連携	
		イベント	さくらまつり、時代祭り アートイベント	・占用する場合の、許可等の運営ルール ・各種イベントの状況把握 ・イベントの提案力	市（2016に社会実験を予定）	
	美術館ゾーン	(仮称) 国際工芸美術館	イベント	・公園との連携の検討など	市	
		国際版画美術館	イベント	・公園との連携の検討など	市	
	アートイベントゾーン	カフェ&クラフト体験施設	施設運営 イベント・企画運営 カフェ経営	・クラフト体験施設の運営方針や内容の検討 ・カフェ施設とクラフト体験施設は、併設するか独立するか。	市（2016に社会実験を予定）	
		冒険遊び場	施設運営	・自主運営の継続検討	市、市民	
		ガイダンス施設	イベント	・公園との連携の検討など	市	
		ひだまり荘	施設運営	・指定管理者等の運営か運営協議会の運営か	市・および市民との連携	
		多目的広場	施設運営	・ステージのニーズ等の把握 ・虹と水の広場の安全な運用方法	市・および市民との連携	
		芝生ゾーン	グラウンド	施設運営	・既存団体との調整 ・使用用途（キャッチボール、サッカーのボール蹴り、ゲートボール）	市・および市民との連携
		わき水と花の 明るいゾーン	コナラの森 クスギの広場	施設運営	・樹林地管理と同様	市・および市民との連携
	(仮) ホタル散策路		運用方法	・ホタルの増殖は、自然繁殖か養殖か。養殖の場合、自然環境に悪影響を与えない手法の検討	市・および市民との連携	
	アート展示スペース		運用方法	・学校等と連携して期間限定で作品展示（例えば1年毎、半年毎に作品を更新）	市・および市民との連携	
	エントランス 公園敷地外	アートストリート	運用方法	・中心市街地整備基本計画と整合を図る	市	
バス		運用方法	・運行ルート、費用の面などさまざまな視点から検討する必要がある	市・および関連事業者		

7. 参考資料

(1) 芹ヶ谷公園再整備基本計画の構成



(2) 芹ヶ谷公園再整備基本計画懇談会委員名簿

NO	区分	氏名	所属等	
1	学識経験者	マノ ヨウスケ	東京工業大学大学院社会理工学部 准教授	
		真野 洋介		
2		エビヅカ コウイチ	多摩美術大学芸術学科 教授	
		海老塚 耕一		
3		アマノ マコト	千葉大学園芸学部 非常勤講師	
		天野 真		
4		観光分野	イトウ コウイチロウ	株式会社 JTB コーポレートセールス 法人営業相模原支店 支店長
			伊藤 弘一郎	
5	タカハシ ミチマサ		町田市町内会自治会連合会 会長	
	高橋 倫正			
6	イナキ タケシ		町田市町内会自治会連合会 高ヶ坂・成瀬地区連合会 会長	
	稲木 健志			
7	イワサキ トシオ		町田市町内会自治会連合会 町田第一地区連合会 会長	
	岩崎 俊男			
8	ノザワ シゲタカ	町田市町内会自治会連合会 町田第二地区連合会 会長		
	野澤 滋享			

(3) 市民意見の概要 (13 通)

意見の概要	件数
【樹木】 ・ 樹木伐採など明るい公園整備に賛成。 ・ 竹林を整備して欲しい。	5 1
【トイレ】 ・ トイレの新設及び改修して欲しい。	4
【ふわふわドーム、バーベキュー】 ・ ふわふわドームやバーベキュー場についての賛否。	9
【警備員室】 ・ わかりやすい場所に設置して欲しい。	2
【桜】 ・ 増やすことに賛成。	2
【グラウンド等】 ・ キャッチボール、サッカーなどができる場所が欲しい。 ・ 多目的広場も芝生にして欲しい。	4 1
【カフェ&クラフト】 ・ 飲食の場が欲しい。 ・ 運営方法に関する要望。(障がい者雇用、市民の力を活用)	1 3
【(仮称) 国際工芸美術館】 ・ 博物館をここに移動できないのか。 ・ 展示物に関する質問。	1 1
【エントランス】 ・ 跨線橋を設置して欲しい。 ・ 案内サイン・園外ルートを整備して欲しい。 ・ 都市計画道路などの整備に関する質問。	2 2 1
【駐車場】 ・ 駐車場の運用に関する要望等。(第二駐車場の継続使用、新設駐車場で足りるかの質問、駐車場の無料化)	3
【犬と利用できる公園】 ・ 犬の散歩ができることは継続して欲しい。 ・ ドッグランを整備して欲しい。	1 3
【アート】 ・ アートの場のあり方に関する提案。(グラフィティアートの場、若者の作品展示)	3
【子どもの遊び場】 ・ 大型複合遊具の安全管理・防犯に関する意見。	1

【冒険遊び場、冒険広場】 ・冒険遊び場と冒険広場の名称を区分けして欲しい。 ・冒険遊び場の改修に関する要望。 ・冒険広場を整備して欲しい。	2 2 1
【アクセス】 ・エレベーター設置及びバス運行の要望。 ・入口、アクセス路に関する要望。(分りやすくする)	1 1
【湧水・ホタル】 ・湧水等に関する要望。(現状保全、生物への配慮) ・ホタル観賞会などのイベントを実施して欲しい。 ・里山的草花を楽しみたい。	3 1 1
【ステージ】 ・ステージの設置に賛成。 ・ステージは屋内に設けたほうが良い。	1 1
【もみじ園】 ・庭園を整備して欲しい。	2
【その他】 ・あずまやを設置して欲しい。 ・ジョギングコースを整備して欲しい。 ・その他(例：懇談会の運営、観光コンベンションとの情報共有など)	2 1 10

計 79

(4) 彫刻作家のプロフィール

井上武吉いのうえ-ぶきち(1930-1997)

1930年、奈良県宇陀郡に生まれる。武蔵野美術学校(現・武蔵野美術大学)彫刻科卒。ヘンリー・ムーア大賞展優秀賞(1979年)、中原悌二郎賞(1991年)、吉田五十八賞(1992年)、芸術選奨文部大臣賞(1995年)受賞。彫刻の森美術館や池田20世紀美術館の建築設計も手がけた。ベルリン美術アカデミーほか国内外で個展開催。金属や石を素材とした環境彫刻で知られ、都民広場に設置された作品は都庁のシンボルとなっている。紫綬褒章(1986年)授与。



「my sky hole 88-4」(1988年)

平野杏子 ひらの-きょうこ(1930生まれ)

1930年、神奈川県伊勢原市に生まれる。共立女子専門学校(現・共立女子大学)卒、三岸節子に師事。仏教思想に影響を受けた幻想的な抽象画で知られる。1962年より平塚にアトリエを構え絵画や立体作品を制作。伊勢原大神宮、平塚市総合公園にモニュメントが設置されている。2007年に平塚市美術館で回顧展が開催された。



「トキオコシ」(1990年)

高橋清 たかはし-きよし(1925-1996)

1925年、新潟県見附市に生まれる。東京美術学校(現・東京藝術大学)彫刻科卒。マヤ文化およびメキシコ美術研究のためメキシコに渡り 11 年間滞在、ヴェラクルス大学彫刻科主任教授を務め、メキシコ・オリンピックのモニュメントの制作を行う。帰国後は金沢美術工芸大学の教授を勤めた。中原悌二郎賞(1973年)、東京野外現代彫刻展大賞(1983年)受賞。「永遠の生命力の象徴」である石を材料とする抽象彫刻で知られ、旭川市民会館、世田谷区立総合グラウンド場ほかにモニュメントが設置されている。オランダ王立アカデミー名誉会員、メキシコ政府よりアギラ・アステカ勲章(1994年)、勲三等瑞宝章(1996年)授与。町田市高ヶ坂に住んだゆかりの作家でもある。



「開かれた宇宙」(1990年)

飯田善國 いいだ-よしくに(1923-2006)

1923年、栃木県足利郡に生まれる。慶応義塾大学文学部、東京藝術大学絵画科卒。イタリアに渡り、ローマで彫刻家のペリクレ・ファッツィーニに師事、さらにウィーンで銅版画を学ぶ。ローマ、ウィーン、西ベルリンを拠点に活動、彫刻家として欧米で高い評価を受ける。帰国後は日本の抽象彫刻の第一人者として活躍した。ウィーン市美術奨励賞(1961年)、ベルリン市主催モニュメント彫刻コンペティション 1 等賞(1967年)、神戸須磨離宮公園現代彫刻展最高賞(1968年)受賞。京都国立近代美術館、町田市立国際版画美術館ほかで個展が開催されたほか、長野県安曇野市に常設の美術館が設立されている。ステンレス・スチールによるモニュメントが慶應義塾大学、伊勢佐木町モール街ほかに設置されている。町田市つくし野に住んだゆかりの作家でもある。



「彫刻噴水・シーソー」(1989年)

芹ヶ谷公園再整備基本計画

2016年3月

発行：町田市／編集：町田市都市づくり部公園緑地課

〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22

刊行物番号：15-102